

令和元年度

病虫害発生予察事業年報

和歌山県農作物病虫害防除所

目 次

I. 事業目的	1
II. 事業実施方針	1
III. 対象病害虫の種類	1
IV. 職員	4
V. 病害虫発生予察情報の提供等	
1. 発生予察情報の一覧	5
2. 病害虫の診断・同定の件数	8 8
VI. 病害虫の発生経過の概要	8 9
VII. 作物病害虫の発生状況調査	
1. 水稻の生育概況	9 6
2. 県予察圃場などにおける定点調査	9 8
3. 水稻巡回圃場調査	9 9
1) 圃場における病害虫の発生状況	1 0 0
2) 主要病害虫の発生程度別面積	1 1 2
4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況	1 2 0
VIII. 野菜・花き病害虫の発生状況調査	
1. 巡回調査における発生状況	1 2 5
2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況	1 3 2
3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況	1 3 7
IX. 果樹病害虫の発生状況調査	
1. 県予察圃場などにおける調査	1 3 8
2. 巡回調査結果	1 6 0

令和元年度病害虫発生予察事業年報

I. 事業目的

農業生産の安定的発展と生産物の品質向上を図るため、指定有害動植物及び指定有害動植物以外の有害動植物（以下、「病害虫」という）について、その繁殖、気象、農作物の生育状況等を調査し、病害虫の発生とそれによる損害を予測し、適期適正な防除実施に必要な情報を関係機関等に提供することを目的とする。

II. 事業実施方針

病害虫発生予察事業の調査実施基準に基づいて、その目的、性質等を考慮して設置された県予察ほ場、地区予察ほ場及び害虫誘殺施設等による定点調査のほか、一般ほ場における巡回調査を実施し、定期または適期に関係機関等に発生予察情報を提供して、適切な防除の推進を図る。その他、県内で問題となる病害虫や侵入病害虫、新規発生病害虫に関する調査および情報提供なども実施する。

III. 対象病害虫の種類

作物名	対象病害虫
水 稲	(指 定) いもち病、紋枯病、縞葉枯病、もみ枯細菌病、ばか苗病、稲こうじ病、ヒメトビウンカ、トビイロウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）、イネミズゾウムシ (指定外) 白葉枯病、萎縮病、ごま葉枯病、内えい褐変病、疑似紋枯病、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イナゴ類、イネシンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ
キャベツ	(指 定) 黒腐病、菌核病、アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ (指定外) べと病、軟腐病、モザイク病、モンシロチョウ、ハイマダラノメイガ、ウワバ類
ハクサイ	(指定外) べと病、黒斑病、軟腐病、モザイク病、白斑病
タマネギ	(指 定) 白色疫病、べと病 (指定外) ボトリチス属菌による葉枯病、軟腐病、さび病
ス イ カ	(指 定) アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、シロイチモジヨトウ (指定外) つる枯病、うどんこ病、疫病、モザイク病、炭疽病、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）

作物名	対象病虫害虫
キュウリ	(指 定) ベと病、うどんこ病、灰色かび病、褐斑病、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ） (指定外) 斑点細菌病、疫病、モザイク病、黄化えそ病、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）
ナス	(指 定) うどんこ病、灰色かび病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、ハスモンヨトウ、オオタバコガ (指定外) モザイク病、疫病、すすかび病、ハモグリバエ類
トマト ミニトマト	(指 定) 灰色かび病、葉かび病、疫病、アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）、オオタバコガ、ハスモンヨトウ (指定外) うどんこ病、モザイク病、黄化葉巻病、ハモグリバエ類
エンドウ	(指 定) シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ (指定外) 褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、つる枯細菌病、立枯性病害、ウイルス病、ウラナミシジミ、ナモグリバエ、ハモグリバエ類、アブラムシ類（マメアブラムシ、エンドウヒゲナガアブラムシ）
イチゴ	(指 定) 灰色かび病、うどんこ病、アブラムシ類（ワタアブラムシ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）、アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウナマ）、ハスモンヨトウ
カンキツ	(指 定) かいよう病、黒点病、そうか病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ）、ハダニ類（ミカンハダニ）、果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ） (指定外) 灰色かび病、褐色腐敗病、青・緑かび病、ミカンサビダニ、カイガラムシ類（ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ）、ロウムシ類（ツノロウムシ、ルビーロウムシ）、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、ゴマダラカミキリ、クワゴマダラヒトリ、ミカンハモグリガ
キウイフ ルーツ	(指 定) かいよう病

作物名	対象病虫害
カキ	<p>(指定) 炭疽病、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類（チャハマキ、チャノコカクモンハマキ）、果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）</p> <p>(指定外) うどんこ病、灰色かび病、角斑落葉病、円星落葉病、落葉病、すす点病、コガシラアワフキ</p>
モモ	<p>(指定) せん孔細菌病、ハダニ類（クワオオハダニ、ナミハダニ、カンザワハダニ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ、モモノゴマダラノメイガ、モモシンクイガ）、果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）</p> <p>(指定外) 黒星病、灰星病、アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、モモハモグリガ、コスカシバ、カイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ）</p>
ウメ	<p>(指定) 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）</p> <p>(指定外) かいよう病、黒星病、すす斑病、アブラムシ類（ムギワラギクオマルアブラムシ）、ウメシロカイガラムシ、コスカシバ</p>

IV. 職員

区 分	所 在 地	職 名	氏 名
本 所	和歌山県紀の川市貴志川町高尾160 (農業試験場内) TEL 0736(64)2300 FAX 0736(65)2016	所 長 主 任 主 任 主 任 主 査 副主査 副主査 技 師	鈴木 正人 藪野 佳寿郎 井口 雅裕 内西 浩一 菱池 政志 岡本 晃久 吉本 均 林 佑香
有田川 駐在	和歌山県有田郡有田川町奥751-1 (果樹試験場内) TEL 0737(52)4320 FAX 0737(53)2037	主 任 副主査 技 師	中 一晃 武田 知明 松山 尚生
紀の川 駐在	和歌山県紀の川市粉河3336 (果樹試験場かき・もも研究所内) TEL 0736(73)2274 FAX 0736(73)4690	主 任 主 査 副主査 副主査	宇治 泰博 南方 高志 弘岡 拓人 増田 吉彦
みなべ 駐在	和歌山県日高郡みなべ町東本庄 1416-7 (果樹試験場うめ研究所内) TEL 0739(74)3780 FAX 0739(74)3790	主 任 副主査 技 師 技 師	竹中 正好 沼口 孝司 江畑 真美 柏本 知晟

V. 病害虫発生予察情報の提供等

1. 発生予察情報の一覧

1) 特殊報

令和元年6月11日

令和元年度病害虫発生予察特殊報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ノイバラハオレタマバエ *Dasineura* sp.
2. 作物名：バラ
3. 発生地域：有田地域
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

平成31年2月27日付けでバラハオレタマバエ *Contarinia* sp. の特殊報を発表したところであるが（平成30年度病害虫発生予察特殊報第4号）、本年5月に有田地域の施設栽培バラ（土耕）において、その被害と同様に新葉が折り畳まれて奇形となり、内側が食害されている葉が見つかった。被害葉を広げると、中肋に沿ってハエ目の幼虫が多数生息していたが、バラハオレタマバエと体色が異なったため、佐賀大学農学部の徳田誠准教授に同定を依頼した。その結果、ハエ目タマバエ科のノイバラハオレタマバエであることが判明した。なお、県内では当該施設以外で本種の発生は認められていない。

本種は本州～九州に分布し、野生のバラ属植物であるノイバラに葉折れ状の虫えい（ノイバラハオレフシ）を形成する。施設栽培バラでは、平成17年6月に奈良県で発生が確認されている。

5. 形態および生態

バラハオレタマバエの終齢幼虫は乳白色～黄色であるのに対し、本種の終齢幼虫は橙赤色を呈する（図1）。また、バラハオレタマバエの老熟幼虫は、手のひらなどにのせてしばらく観察していると体をくの字型に折り曲げてジャンプする行動を示すが、この行動は本種では見られない。

生活史は不明な点が多い。5月から6月にかけて虫えい内に幼虫が見られる。幼虫は終齢まで虫えい内に生息し、老熟後は地上に落下し土中で蛹化する。

6. 被害の特徴

葉の被害症状はバラハオレタマバエと酷似している。新葉が中肋に沿って、葉表が内側になるように2つに折り畳まれる（図2）。被害が出始めの葉では、折り畳まれた部分を開くと幼虫が数頭～十数頭みられる。

7. 防除対策

- 1) 現在、バラにおいて本種に対する登録薬剤はない。
- 2) 被害葉を発見したら速やかに除去し、適切に処理する。
- 3) ノイバラが発生源となる可能性が高いので、バラ栽培施設の周辺に自生するノイバラを除去する。



図1. ノイバラハオレタマバエの幼虫



図2. ノイバラハオレタマバエによる
葉の被害

参考文献

徳田 誠・湯川淳一(2004) 九病虫研究会報 50: 77-81.

徳田 誠(2005) 今月の農業 49(12): 37-39.

徳田 誠・湯川淳一・井村岳男・阿部芳久・Keith M. Harris(2009) 応動昆 53:185-188.

湯川淳一・榊田 長(1996) 日本原色虫えい図鑑. 全国農村教育協会, 東京. 826 pp.

和歌山県農作物病害虫防除所
担当：井口
電話：0736(64)2300

令和元年7月5日

令和元年度病害虫発生予察特殊報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 : ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg)
2. 作物名 : サツマイモ
3. 発生地域 : 西牟婁地域、東牟婁地域
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

本年5月、新宮市においてサツマイモの葉を食害するハムシの成虫が見つかった。この成虫の同定を愛媛大学農学部 吉富博之博士に依頼した結果、ヨツモンカメノコハムシであることが判明した。その後、東牟婁地域のサツマイモほ場を調査したところ、那智勝浦町と串本町においても発生と食害が確認された。また、西牟婁地域の田辺市、白浜町、上富田町でも本種の発生が確認された。

本種は主に沖縄本島以南の熱帯～亜熱帯に分布していたが、平成11年に長崎県で確認されて以降、平成14年に鹿児島県、平成20年に宮崎県、平成21年に静岡県、平成24年に東京都（大島、三宅島）、平成27年に愛媛県、平成28年に山口県、大分県、高知県、平成29年に神奈川県から病害虫発生予察特殊報が発表されている。

5. 形態および生態

成虫は扁平な円形で、体長7.5～9mm。体の中央部はやや艶のある茶褐色、周縁部は半透明で黄褐色。鞘翅の前方と後方の縁に黒褐色の大型斑紋がある（図1）。幼虫は扁平な紡錘形で、周囲体側にトゲ（樹枝）状突起を有し、背面に脱皮殻や糞を背負う。

成虫出現期は4～11月。長崎県では成虫態で越冬して5月頃から産卵を開始し、ふ化した幼虫は7月以降に蛹化～羽化すると推定されている。

本種はヒルガオ科植物を食草とする。ヒルガオ科の中でもノアサガオとサツマイモを同程度に好み、アサガオとヒルガオはあまり好まない。

6. 被害の特徴

成虫、幼虫が葉を食害し、直径数mm～10mmほどの円形～不定形の穴を点々と開ける（図2）。サツマイモのイモは食害しない。

7. 防除対策

- 1) ヒルガオ科の雑草は本種の発生源となる可能性があるため除去する。
- 2) 発生が多い場合は、農薬登録情報を確認して薬剤防除を行う。

令和元年7月3日現在、「かんしょ」のヨツモンカメノコハマシに対して適用がある農薬は以下のとおりである。

農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
スミチオン乳剤	1000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布
コテツフロアブル	2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布
アクセルフロアブル	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布



図1. ヨツモンカメノコハマシ成虫



図2. サツマイモの葉の被害

和歌山県農作物病害虫防除所
 担当：井口
 電話：0736(64)2300

令和元年 10 月 24 日

令和元年度病害虫発生予察特殊報（第 3 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 : ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)
2. 作物名 : -
3. 発生地域 : 紀の川市、田辺市
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

本種の国内への侵入が本年 7 月に確認されたことから、本県においても侵入警戒を行っていた。県内 4 か所に設置したフェロモントラップのうち、紀の川市で 10 月 11 日に、田辺市で 10 月 15 日に、本種と疑われる成虫各 1 頭が誘殺されているのを発見した。農林水産省神戸植物防疫所にこの成虫の同定を依頼したところ、いずれも本県未発生のツマジロクサヨトウであることが 10 月 16 日に確認された。なお、県内では現在、農作物における本種幼虫の発生および被害は確認されていない。

本種は、本年 7 月 3 日に鹿児島県の飼料用トウモロコシほ場において国内で初めて確認され、その後、九州の各県をはじめとする 19 府県のは場で発生が認められている。近隣では三重県（9 月 3 日）、大阪府（10 月 1 日）でソルガムや飼料用トウモロコシほ場において幼虫の発生が確認されている。このほか、徳島県（9 月 26 日）、兵庫県（10 月 2 日）でもフェロモントラップで成虫が捕獲されている。

5. 本種の特徴

- 1) 形態

成虫は開張約 37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみが前翅中央部に白斑を持つ（図 1）。終齢幼虫は体長約 40mm で、頭部の複眼と前額の境界にみられる逆 Y 字状の模様の特徴である（図 2）。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

- 2) 生態

南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯を原産とする南方系の害虫であり、暖地に適応する。熱帯では年 4～6 世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散し生息域を拡大するが、暖地を除く地域では越冬することができない。

- 3) 分布

北米～南米、アフリカ（エジプト、サハラ以南）、アジア（インド、中国、台湾、韓国、タイ、ミャンマーなど）。

- 4) 加害植物

文献ではトウモロコシやイネなどのイネ科植物のほか、アブラナ科、ナス科、ウリ科など幅広い作物を加害するとされているが、国内ではこれまでのところ、飼料用ト

ウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビでのみ発生が確認されている。

5) 被害の特徴

幼虫が植物の茎、葉、花および果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。新葉の葉鞘部を多く食害し、多量の糞が散在する。

6. 防除対策

1) 生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられるため、ほ場をよく見回り早期発見に努める。本種と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに農作物病虫害防除所に連絡する。

2) 県は、本種による加害が確認された場合、植物防疫法第 29 条第 1 項の規定に基づく措置として、以下に示された薬剤の散布指導を行う。

農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-32.pdf

3) 薬剤散布が困難な場合は、被害作物を早期に刈り取るとともに、幼虫の分散を防ぐため、ほ場内での残渣のすき込みを行う。



図1. 成虫(左:雄、右:雌) 農林水産省 HP より



図2. 幼虫 農林水産省 HP より

和歌山県農作物病虫害防除所
電話：0736(64)2300

令和元年 11 月 29 日

令和元年度病害虫発生予察特殊報（第 4 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 : *Singapora shinshana* (Matsumura) (和名なし)
(ヨコバイ科の一種)
2. 作物名 : ウメ
3. 発生地域 : 田辺市、日高郡みなべ町
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況
本年 9 月、田辺市においてウメの葉を加害するヒメヨコバイ類の成虫および幼虫が発見された。この成虫の同定を九州大学大学院農学研究院 紙谷聡志博士に依頼した結果、*Singapora shinshana* (Matsumura) であることが判明した。その後の調査で、本種による被害は日高郡みなべ町でも確認された。
本種の発生は、国内では沖縄県で確認されているが、本県での発生は初めてである。海外では、中国、台湾、韓国および北朝鮮で確認されている。
5. 形態および生態
成虫の体色は黄緑色で、体長は 3 ~ 3.5mm。複眼は黒色で、頭頂部に黒点がある (図 1)。
本種はウメ、モモ、ナシ、リンゴ等のバラ科果樹の他、サンザシ、ポポー、ポプラ等を加害することが報告されている (Cao ら, 2014)。
6. 被害の特徴
成虫および幼虫が葉を加害する。多数の細かい吸汁痕により、葉の表面が白っぽく見える (図 2)。被害葉の裏側に幼虫の脱皮殻が付着する (図 3)。吸汁された葉は、落葉することがある。
7. 防除対策
 - 1) 本種に対して適用のある農薬はない。
 - 2) 被害葉の早期発見に努め、発見した場合は速やかに被害葉を除去し適切に処分する。



図1. 成虫（矢印は頭頂部の黒点がある位置）



図2. ウメの被害葉



図3. ウメの葉裏に付着した脱皮殻

和歌山県農作物病害虫防除所みなべ駐在
電話：0739(74)3780

令和元年12月2日

令和元年度病害虫発生予察特殊報（第5号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 : クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* (Faldermann)
2. 作物名 : モモ
3. 発生地域 : 伊都郡かつらぎ町
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和元年11月19日、かつらぎ町のモモにおいて本種の加害によると考えられるフラス(木くずと糞の混合物)を確認した(図1、2)。国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所に同定を依頼したところ、11月27日にDNA分析によりクビアカツヤカミキリのフラスであることが確認された。

本種は平成25年に愛知県、平成27年に徳島県、平成28年に大阪府、平成29年に栃木県、群馬県、埼玉県、平成30年に東京都、令和元年に奈良県で特殊報が発表されている。本県でも、平成29年7月にかつらぎ町で雄1頭が捕獲されたことから、侵入警戒を行っていた。現在、県内でフラスの排出が確認されている樹は、同一園内の2樹のみである。

5. 本種の特徴

- 1) 形態

成虫は体長28~37mm、体全体は黒く光沢がある(図3)。前胸背板(頭部の下部)は赤く、側面にはこぶ状の突起を一对持つ。雄の触角は体長より長く、雌の触角は体長より短い。ジャコウのような独特の芳香を放つ。

- 2) 生態

幹や枝の樹皮表面や割れ目などに産卵し、孵化した幼虫が樹木内へ食入する。食入した幼虫はフラスを出しながら樹木内を食害する。幼虫は春に蛹化後、6~8月に羽化し樹外へ脱出する。成虫は2週間以上生きるが、成虫では越冬しない。

- 3) 加害植物

サクラ、ウメ、モモ、スモモ等、主にバラ科樹木を加害する。

- 4) 被害の特徴

幼虫が幹や枝の内部を食い荒らし、樹勢を低下させ、やがて枯死させる。フラスは幼虫が樹皮に穿孔し排糞することにより排出され(図2)、株元に大量に溜まる(図1)。食入部位は、地表に現れた太い根から高さ2m程度までに多い。

6. 防除対策

- 1) 成虫は見つけ次第、捕殺する。また、成虫活動期の6~8月に、主に幹や枝を狙って農薬を散布する。
- 2) 幼虫に対しては、フラス排出期(4~10月)に千枚通しや針金等を食入孔に入れ、中のフラスをかき出してからスプレー型の農薬を注入する。針金が幼虫まで届く場合は、突き

刺して殺虫すると確実である。千枚通しで樹皮をめくり、掘り取って殺虫することもできる。

- 3) 成虫の分散防止のため、羽化期（6～8月）の前に、被害樹の株元から2m程度の高さまで4mm目合いのネットを巻き付ける。ただし、ネット内部での交尾・産卵や、ネットを切断し隙間から脱出する場合もあるので、ネット設置後も頻繁に見回りを行い捕殺する必要がある。また、ネットを樹幹に密着させると成虫がネットをかみ切るなので、ネットを二重にして、樹幹との間に余裕を持たせる。
- 4) 被害が激しい樹は幼虫を全滅させるのが困難なので、被害拡大を防止するために、成虫脱出時期以外の9月～翌年4月に被害木を伐採（伐根）する。この場合、本種は特定外来生物に指定されているため、保管や移動に規制がかかるので注意する。伐採樹の処理については、発生園地内において法令等に従い適切に処分する。
- 5) 栽培園地内で本種成虫や上記の被害を見つけた場合には、直ちに病害虫防除所もしくは管轄の各振興局農業水産振興課に連絡する。



図1. 株元に溜まったフラス



図2. 食入孔からのフラス



図3. 成虫（大阪市立自然史博物館 より）

クビアカツヤカミキリを対象にモモで使用可能な農薬（令和元年 11 月 21 日現在）

【幼虫を対象としたもの】

農薬の種類	農薬の名称	適用作物名
フェンプロパトリンエアゾール	ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾール	うめ、もも、おうとう、果樹類* 1、樹木類
スタイナーネマ カーポカ プサエ剤	バイオセーフ	もも、うめ、食用さくら（葉）、 さくら

* 1 かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちよ
う（種子）、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき（種子）を除く

【成虫を対象としたもの】

農薬の種類	農薬の名称	適用作物名
ボーベリア ブロンニアティ 剤	バイオリサ・カミキ リ	果樹類、さくら、食用さくら（葉）
チアメトキサム水溶剤	アクタラ顆粒水溶 剤	もも、ネクタリン、おうとう、小粒核果類* 2、うめ
アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水 溶剤	小粒核果類* 3、もも、うめ、すもも、さく ら
DMTP 乳剤	スプラサイドM	もも
DMTP 水和剤	スプラサイド水和 剤	もも、うめ、すもも
シクラニリプロール液剤	テッパン液剤	もも、すもも

* 2 うめを除く、* 3 うめ、すももを除く

【防除薬剤については以下も参照ください】

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

和歌山県農作物病虫害防除所（紀の川駐在）
電話：0736(73)2274

平成31年4月19日

平成31年度病害虫発生予察注意報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：モモせん孔細菌病
2. 対象作物：モモ
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：多
5. 発生時期：4月～8月
6. 注意報発表の根拠：
 - 1) 本年4月の枝における病斑の発生園率は50%（平年19%）、発病枝率は2.9%（平年0.9%）と平年に比べ高かった（表）。

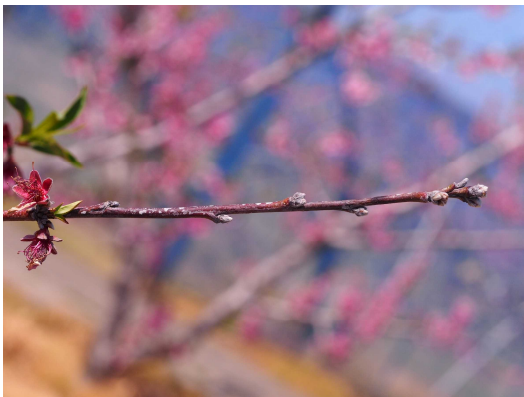
表 モモせん孔細菌病の枝における病斑の発生園率と発病枝率

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平年
発生園率(%)	0	0	0	10	20	30	20	20	0	90	50	19
発病枝率(%)	0.0	0.0	0.0	0.1	0.6	1.3	1.0	1.6	0.0	4.5	2.9	0.9

注)調査園数:10園、調査時期:4月、平年:平成21～30年の平均

7. 防除上の注意事項

- 4月～5月に強風雨の日が多いほど感染に好適な条件となるので、下記事項に留意し対策にあたる。
- 1) 葉や果実への感染を防止するため、伝染源となる発病枝（写真1）を徹底して除去する。
 - 2) 落花後から袋掛け前までの殺菌剤散布を徹底する。抗生物質剤を中心に降雨前の予防散布を心掛け、7～10日間隔で丁寧に散布する。
 - 3) 薬剤抵抗性の発達防止のため、同一薬剤の連用は控える。
 - 4) 風雨による果実への感染を防止するため、袋掛けは丁寧にいう。
 - 5) 強風により防風ネットが破損した場合はすぐに補修する。また、防風樹の管理に努める。

写真1 モモせん孔細菌病の発病枝
(芽の枯死、紫褐色～紫黒色の病斑)

担当：農作物病害虫防除所 紀の川駐在
南方、弘岡 電話：0736(73)2274

令和元年8月16日

令和元年度病害虫発生予察注意報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トビイロウンカ
2. 対象作物：普通期水稻
3. 対象地域：県中部
4. 発生量：多
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 8月9日現在、県中部では発生ほ場率が71%（平年12%）、25株あたり成・幼虫数が12.9頭（平年0.2頭）で、過去10年間と比べて最も多い（第1表、第2表）。なお、県北部では発生ほ場率が12%（平年11%）、25株あたり成・幼虫数が0.2頭（平年0.4頭）と平年並であった。
6. 防除上の注意事項
 - 1) トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。
 - 2) 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも8月下旬以降に高密度となり、坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。
 - 3) 本種はイミダクロプリド剤に対する感受性の低下が認められているので、防除薬剤の選定に注意する。
 - 4) 防除薬剤は最新の登録情報（（独）農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。
 - 5) 薬剤散布に当たっては、各農薬の使用基準を遵守する。収穫期が近い場合は、特に使用時期（収穫前日数）に注意するとともに、周辺ほ場への飛散防止に努める。
 - 6) 本種は株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。
 - 7) 県北部においてもほ場での発生状況を観察し、発生が多い場合は防除する。

担当：農作物病害虫防除所 井口、内西 電話：0736-64-2300
--

第1表 トビイロウンカの発生状況（令和元年8月7～9日） 25株あたり虫数（頭）

地域	調査地点		幼虫	成虫	計	(平年)
県中部	御坊市	野口	0	0	0	
	日高町	高家	2	0	2	
	印南町	印南原	0	0	0	
	みなべ町	西本庄	27	2	29	
	日高川町	和佐	42	3	45	
	日高川町	熊野川	1	0	1	
	田辺市	甲斐ノ川	11	2	13	
	平均					12.9
県北部	和歌山市	谷	0	0	0	
	和歌山市	直川	0	0	0	
	和歌山市	和佐関戸	0	0	0	
	和歌山市	朝日	0	0	0	
	和歌山市	小瀬田	0	0	0	
	海南市	別院	0	0	0	
	海南市	次ヶ谷	0	0	0	
	紀美野町	福田	0	0	0	
	紀の川市	丸栖	0	0	0	
	紀の川市	井田	0	0	0	
	紀の川市	西三谷	0	0	0	
	岩出市	中迫	0	0	0	
	橋本市	山田	1	0	1	
	橋本市	赤塚	0	0	0	
	かつらぎ町	下天野	0	0	0	
	かつらぎ町	西飯降	2	0	2	
	広川町	広	0	0	0	
	平均					0.2

注)ほ場における払い落とし調査

第2表 トビイロウンカ発生状況の推移(県中部、8月上旬)

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	平年
発生ほ場率 (%)	14	0	43	14	14	14	0	14	0	0	71	12
25株当たり虫数(頭)	0.1	0	0.6	0.4	0.1	0.4	0	0.1	0	0	12.9	0.2

注)ほ場における払い落とし調査(調査ほ場数:7ほ場)

令和元年度病害虫発生予察注意報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トマト黄化葉巻病
病原ウイルス：トマト黄化葉巻ウイルス (*Tomato yellow leaf curl virus* [TYLCV])
媒介虫：タバココナジラミ
2. 対象作物：ミニトマト、トマト
3. 対象地域：県中部
4. 発生量： 多
5. 発生時期：9月～
6. 注意報発表の根拠
 - 1) 県中部の露地栽培ミニトマトにおける8月中旬のトマト黄化葉巻病の発生ほ場率は100%（平成61%）、発病株率は50.0%（平成26.0%）であった（図1）。
 - 2) 露地栽培の発生ほ場では発病株を抜き取り処分していない場合が多いため、媒介虫であるタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒虫率が高まっていると考えられる。

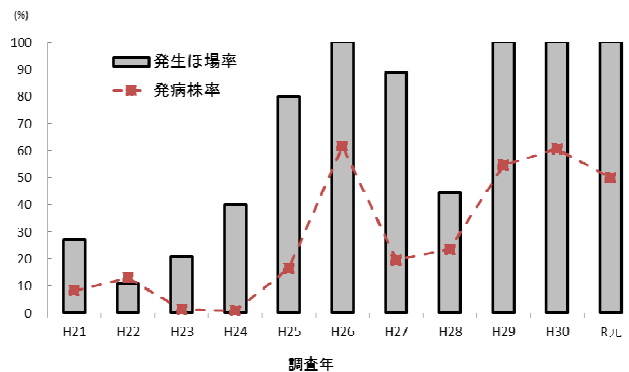


図1 トマト黄化葉巻病発生の変遷（県中部、調査時期：8月）

7. 防除上の注意事項
 - 1) 露地栽培
新たな感染を防ぐため、タバココナジラミの発生を認めたら、本虫に有効な薬剤を散布する。
 - 2) 施設栽培
 - (1) 生育初期に感染すると被害が大きくなるため、施設栽培では施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。さらに、外張り資材に紫外線除去フィルムを使用すると侵入防止効果が高まる。
 - (2) 定期的な薬剤散布および定植期の粒剤処理により、感染適期である育苗期から本ば初期（8～10月）のタバココナジラミ防除を徹底する。
 - (3) 定植前に苗をよく観察し、新葉の退緑がみられる苗やタバココナジラミが発生している苗を本ばに持ち込まないよう注意する。

3) 共通

- (1) 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- (2) 野良生えトマトは伝染源となりやすいので見つけ次第処分する。
- (3) 栽培管理や出荷調製後の残さは、ほ場周辺に野積みせず速やかに処分する。
- (4) タバココナジラミは寄主範囲が極めて広く、雑草にも生息するため、ほ場内およびほ場周辺の除草を徹底する。
- (5) 施設栽培では、栽培終了後にすべての株を抜根した上で、7～10日間以上施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、施設外へのタバココナジラミの分散を防止する。
- (6) 防除薬剤については、最新の登録情報（(独)農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。

担当：和歌山県農作物病害虫防除所
林、井口 TEL:0736(64)2300

令和元年 9 月 27 日

令和元年度病害虫発生予察注意報（第 4 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トビイロウンカ
2. 対象作物：水稻
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：多
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 県北部では 9 月 25 日現在、トビイロウンカの成・幼虫が多発生しているほ場が認められている（第 1 表）。

※県中部については 8 月 16 日に病害虫発生予察注意報を発表しており、引き続き注意が必要である。
 - 2) 各地で坪枯れの発生が散見されており、今後拡大すると予想される。

※坪枯れ：トビイロウンカが株元に多数生息し、吸汁することによりイネ株が枯死し円形状に枯れ上がる（第 1 図）。
6. 防除上の注意事項
 - 1) トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。
 - 2) すでに防除を行ったほ場でも防除効果が不十分な場合があるので、再度発生状況を確認する。
 - 3) 発生の多いほ場でも 1 週間以内に収穫予定の場合は、薬剤散布を行わず早めに刈り取る。
 - 4) 晩生品種で 1 株あたり 10 頭以上のトビイロウンカ成・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。
 - 5) トビイロウンカは株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。
 - 6) 農薬の使用基準を遵守し、危害防止に努めること。収穫間近の防除になるので、薬剤の使用基準（収穫前日数）に注意するとともに、周辺ほ場への飛散防止に努める。
 - 7) 防除薬剤は最新の登録情報（（独）農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。

担当：農作物病害虫防除所 井口 電話：0736-64-2300

第1表 トビイロウンカの発生状況(令和元年9月25日)

調査地点		ほ場	25株あたり虫数(頭)		
			幼虫	成虫	計
和歌山市	小倉	I	1,670	331	2,001
		II	18	0	18
		III	5,550	560	6,110
	平尾	I	850	156	1,006
		II	1,720	194	1,914
		III	0	0	0
	直川	I	0	0	0
		II	292	18	310
		III	0	0	0
紀の川市	北山	I	7	0	7
		II	5	0	5
		III	2	0	2
	丸栖	I	0	0	0
		II	1	0	1
		III	6	0	6
	西山	I	0	0	0
		II	0	0	0
		III	5	1	6
	西野山	I	1	0	1
		II	0	0	0
		III	0	0	0
橋本市	大野	I	0	2	2
		II	0	0	0
		III	2	0	2



第1図 トビイロウンカによる坪枯れ被害
(9月25日、和歌山市)

令和2年3月19日

令和元年度病害虫発生予察注意報（第5号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：タマネギベと病
2. 対象作物：タマネギ
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：多
5. 発生時期：2～6月
6. 注意報発表の根拠

タマネギベと病については本年2月6日に病害虫防除技術情報（第1号）を発表したところであるが、その後も以下のとおり発生が増加している。

- 1) 3月中旬の県北部におけるタマネギベと病越年罹病株（写真1）の発生ほ場率は10%（平成6%）と平年に比べてやや高く、発病株率は0.12%（平成0.04%）と平年に比べて高い。ともに過去10年と比べて2番目に高い（表1）。
- 2) 3月中旬の県北部におけるタマネギベと病二次感染株（写真2）の発生ほ場率は17%（平成6%）、発病株率は0.58%（平成0.10%）と平年に比べて高い。ともに過去10年と比べて最も高い（表2）。

表1 県北部におけるタマネギベと病越年罹病株の発生（3月中～下旬調査）

	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和2年 (本年)	平年
発生ほ場率(%)	9	3	3	11	3	7	0	8	9	6	10	6
発病株率(%)	0.14	0.01	0.04	0.03	0.01	0.01	0	0.07	0.03	0.05	0.12	0.04

注)調査場所:和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町
平年:平成22～31年の平均

表2 県北部におけるタマネギベと病二次感染株の発生（3月中～下旬調査）

	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和2年 (本年)	平年
発生ほ場率(%)	6	6	13	6	6	10	10	3	2	3	17	6
発病株率(%)	0.45	0.02	0.07	0.03	0.25	0.10	0.02	0.01	0.01	0.01	0.58	0.10

注)調査場所:和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町
平年:平成22～31年の平均

7. 防除上の注意事項

- 1) 前年に発生が多かったほ場は、本年も発生しやすいので注意する。
- 2) ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。二次感染株の発病葉についても、出来るだけ除去する。抜き取った株や除去した葉は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分し、早急に薬剤散布を行う。
- 3) 発生が認められない場合においても、定期的な予防散布を徹底する。
- 4) 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。
- 5) 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
- 6) 防除薬剤は最新の登録情報（独）農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm を参照し、適正に使用する。

和歌山県農作物病害虫防除所
電話：0736(64)2300



写真1 タマネギベと病越冬罹病株



写真2 タマネギベと病二次感染株の病斑

病虫害発生予報 第1号(4月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所

＜予報の概要＞

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	並 やや多	野菜全般	灰色かび病 アザミウマ類	並 並
タマネギ	白色疫病 べと病	やや少 並	カンキツ	かいよう病 そうか病 ミカンハダニ	やや多 やや多 やや多
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病	やや少 並			
キャベツ	コナガ	並	ウメ	かいよう病	やや多
キュウリ	べと病 褐斑病	並 やや少	果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

1か月予報(予報期間 3月23日～4月22日 大阪管区气象台)

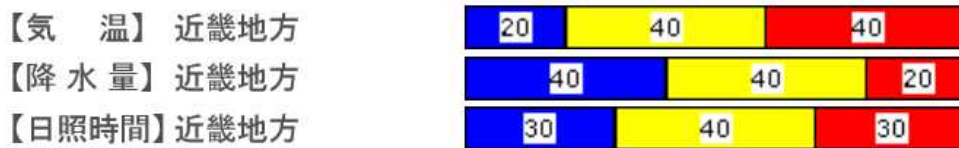
＜予想される向こう1か月の天候＞

天気は数日の周期で変わり、近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温(平年値) (℃)	月降水量(平年値) (mm)
4月	和歌山 14.9	和歌山 100.3
	潮岬 15.6	潮岬 212.7

I. 水 稲

1. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生時期 やや早
発生量 並

(2) 予報の根拠

① 3月中旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市7.0頭、成虫率81%（平年12.9頭、成虫率51%）、紀の川市9.0、成虫率72%（平年9.3頭、成虫率35%）、かつらぎ町2.8頭、成虫率55%（平年5.4頭、成虫率28%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカはイネ縞葉枯病ウイルスを媒介する。イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、休閑田や雑草地付近での育苗を避ける。
- ② は種時(覆土前)～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。
- ③ 田植え前から作期を通して、ヒメトビウンカの生息場所となる水田周辺雑草の除草管理を徹底する。

2. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生時期 並
発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 3月中旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市19.6頭、成虫率46%（平年3.7頭、成虫率49%）、紀の川市0.0頭（平年1.1頭）、かつらぎ町62.0頭、成虫率35%（平年18.7頭、成虫率41%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① は種時(覆土前)～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 白色疫病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は13%（平年24%）、発病株率は0.1%（過去8年の平均3.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一のほ場内でも発病に偏りがみられることがあるので、ほ場全体を見回り発病が集中しているところは特に丁寧に薬剤散布を行う。
- ② 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。

2. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部での3月中旬の越年罹病株の発生ほ場率は6%（平年6%）、二次感染株の発生ほ場率は3%（平年6%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 前年の発生が多かったほ場では本年も発生しやすいので注意する。
- ② ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見・抜き取りを徹底する。抜き取った株はほ場外に持ち出して適切に処分し、早急に薬剤散布を行う。

- ③ 発病が認められないほ場においても予防散布を行い、二次感染が認められた場合は早急に薬剤防除を行う。
- ④ 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。
- ⑤ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
- ⑥ 平成30年度病害虫防除技術情報第2号（平成31年3月7日発表）を参照する。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培における3月中旬の発生ほ場率は14%（平成31年31%）、発病葉率は0.2%（平成31年2.6%）であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 雨が多いと多発するので薬剤散布は早めに行う。
 - ② 多湿条件で発病が助長されるので、排水対策や通風対策に努める。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培での3月中旬の発生ほ場率は0%（平成31年3%）であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生初期から薬剤防除を行う。

<キャベツ>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は0%（平成31年：発生ほ場率3%、1株当たり発生密度0.01頭）であった。
 - ② フェロモントラップによる3月1～20日の誘殺数は、紀の川市4頭（平成31年9.8頭）、和歌山市48頭（過去7年の平均13.3頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ジアミド系、IGR剤などの薬剤は殺虫効果の低下が認められている。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は連用しない。

<キュウリ>

1. ベと病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は20%（過去7年の平均24%）、発病葉率は1.5%（過去7年の平均3.1%）であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。
 - ② 病原菌は気孔から侵入するので、薬液は葉の表裏にムラなくかかるように散布する。
 - ③ 肥効が低下したり草勢が衰えたりすると発病が助長されるので、適切な

肥培管理に努める。

- ④ 薬剤耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤は連用しない。

2. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は40%（過去5年の平均42%）、発病葉率は1.0%（過去5年の平均6.9%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。

② 薬剤耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤は連用しない。

<野菜全般>

1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培キュウリでの3月中旬の発生ほ場率は0%（平年2%）であった。

② 県中部の施設栽培ミニトマトでの3月中旬の発生ほ場率は0%（過去3年の平均9%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設内では湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。

② 発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。

③ 薬剤耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤は連用しない。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培イチゴでの3月中旬の発生ほ場率は、ヒラズハナアザミウマ0%（過去3年の平均14.3%）、ミカンキイロアザミウマ0%（平年0%）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリでの3月中旬の発生ほ場率は、ミナミキイロアザミウマ10%（過去5年の平均24%）、ミカンキイロアザミウマ0%（過去5年の平均4%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 気温の上昇とともに発生が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 初発日 5月16～25日（並）

発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は8.0%（平年10.1%）であった。

② 前年10月中旬の春葉発病の発生園率は27%（平年16%）、発病葉率は0.9%（平年0.6%）であった。

54%)、発病果率は2.8%(平成2.8%)であった。秋期の気象条件と併せて潜伏越冬病斑量は平成よりやや多いと考えられる。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 強風雨により感染が助長されるため、常発園では防風施設の整備等の防風対策を励行する。

② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ10日おきに数回、抗生物質剤を散布する。強風雨直前の散布で、より高い効果が得られる。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は、落葉50リットル当たり0.1頭(前年1.5頭、平成0.6頭)、捕獲地点率は6.4%(前年61.7%、平成23.9%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

② ウメ・モモなどでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。

③ ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。

④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害が認められた場合は薬剤による防除を行う。

⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所(紀の川市、農業試験場内)

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在(有田川町、果樹試験場内)

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在(紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内)

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在(みなべ町、果樹試験場うめ研究所内)

TEL 0739-74-3780

病虫害発生予報 第2号(5月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所

予報の概要

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	もみ枯細菌病による苗腐敗症 ばか苗病 いもち病 ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ	並 並並 やや少 やや少 並並	カンキツ	かいよう病 そうか病 黒点病 灰色かび病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ	やや多 やや多 並並 やや多 並並
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	並並 やや多 並並	モモ	せん孔細菌病 カイガラムシ類	多並 並並
野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類 アザミウマ類	並並 並並	果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

1か月予報（予報期間 4月20日～5月19日 大阪管区气象台）

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

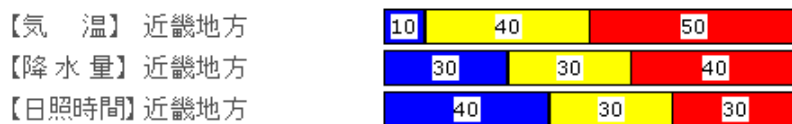
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並の確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温(平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
5月	和歌山 19.3	和歌山 150.0
	潮岬 19.2	潮岬 249.0

I. 水 稲

1. もみ枯細菌病による苗腐敗症

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるもみ枯細菌病の本田での発生面積率は0%（平年3%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病は場から採種した種子は使用しない。

② 種子消毒を行う。

2. ばか苗病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるばか苗病の本田での発生面積率は6%（平年3%）であった。

② 種子消毒に用いる薬剤の効果は安定している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① もみ枯細菌病による苗腐敗症に準じる。

3. いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

4. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 ヒメトビウンカ 発生時期 やや早 発生量 やや少
縞葉枯病 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 4月上旬の休閑田における捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市で5.0頭、成虫率93%（平年12.5頭、成虫率94%）、紀の川市で5.0頭、成虫率100%（平年10.5頭、成虫率94%）、かつらぎ町で0.7頭、成虫率100%（平年5.6頭、成虫率93%）であった。

② 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市4.8%（平年9.8%）、かつらぎ町2.0%（平年12.0%）であった。

③ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年14%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 4月上旬の休閑田における20回振りすくい取りによる平均生息数は、和歌山市で65.3頭（平年31.6頭）、紀の川市で29.5頭（平年6.3頭）、かつらぎ町で1.5頭（平年60.8頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

6. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 那智勝浦町での予察灯による4月1～20日の誘殺数は0頭（平成0.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。
② 5月中旬までに田植えする地域のうち、多発地ではさらに田植え3～4週後に薬剤を処理する。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 灰色かび病(白斑葉枯病)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%（平成1%）であった。
② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場の排水を良くする。
② 罹病葉や収穫後の残さは、ほ場から速やかに持ち出して適切に処分する。

2. べと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は13%（平成26%）であった。
② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場の排水を良くする。
② 罹病葉や収穫後の残さは、ほ場から速やかに持ち出して適切に処分する。
③ 平成30年度病害虫防除技術情報第2号（平成31年3月7日発表）を参照する。

<キュウリ>

1. べと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は21%（過去7年の平均30%）であった。

- ② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は40%（平成45%）であった。

- ③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%（過去7年の平均0%）であっ

た。

② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は80%（平成68%）、発病葉率は36.3%（平成17.7%）であった。

③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。

② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、他系統の薬剤とローテーション散布する。

3. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は7%（過去7年の平均3%）であった。

② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は70%（過去3年の平均72%）であった。

③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。

② 罹病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。

③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける4月中旬の発生株率は、モモアカアブラムシ11.3%（平成13.5%）、ニセダイコンアブラムシ0%（平成1.1%）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は20%（過去5年の平均10.5%）であった。

③ 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は27.3%（過去4年の平均34.1%）であった。

④ 黄色水盤（紀の川市）への4月1～20日までの飛来数は、308頭（平成56.6頭）であった。

⑤ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のイチゴにおける4月中旬のナミハダニは発生ほ場率50%（平成37%）、発生葉率18.3%（平成14.6%）、カンザワハダニは発生ほ場率17%（平成29%）、発生葉率0.8%（平成8.6%）であった。

② 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬の発生ほ場率は91%（過去4年の平均57%）、1葉当たりの生息密度は0.1頭（過去4年の平均0.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ハダニ類はほ場の周辺から侵入するので、外縁部の株において早期発見に努め、初期防除を行う。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

3. アザミウマ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のイチゴにおける4月中旬のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率50%（過去3年の平均75%）、1花当たり生息密度0.7頭（過去3年の平均1.2頭）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率17%（平年16%）、1花当たりの生息密度0.01頭（平年0.1頭）であった。
 - ② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のミナミキイロアザミウマは発生ほ場率50%（過去5年の平均37%）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率10%（過去5年の平均2%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 生息密度の低い時期から薬剤防除を行う。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

- (1) 予報内容 初発日 5月16～25日（並）
発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は8.0%（平年10.1%）であった。
 - ② 前年10月中旬の春葉発病の発生園率は27%（平年16%）、発病葉率は0.9%（平年0.6%）であった。
 - ③ 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 葉害対策を講じた上で銅水和剤の予防散布を行う。
 - ② 罹病枝葉の剪除と防風垣の整備に努める。

2. そうか病

- (1) 予報内容 発生時期 並
発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 前年10月中旬のウンシュウミカンにおける果実発病の発生園率は5%（平年2%）であった。
 - ② 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 常発園や前年多発園は発芽直後の防除を基本とするが、発芽直後に防除できなかった場合は早急に散布を行う。
 - ② その他の園では満開期に黒点病、灰色かび病を防除する際、そうか病にも適用のある薬剤を用いる。

3. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量（初期感染） 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹上及び園内外に放置された枯枝を処分する。

4. 灰色かび病（開花期）

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 常発園では満開期に防除を行う。
 - ② 開花期～落弁期に曇雨天が続くと発生が助長されるので、必要に応じて防除する。

5. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における4月中旬の発生葉率は24.4%（平年1.1%）で、マシン油乳剤を散布している慣行防除園における発生葉率は0%（平年0%）であった。
 - ② 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 冬期から春期にかけてマシン油乳剤を散布していない園では、夏用マシン油乳剤200倍の散布を行う。

6. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生時期 第1世代1齢幼虫初発日 5月16～20日（平年並）
発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における越冬量は平年並であった。
 - ② 予察式によると、第1世代1齢幼虫初発日は5月17日（平年5月17日）と予想される。

7. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（無防除、由良町）における4月中旬の黄色粘着トラップによる越冬成虫の誘殺数は8頭（平年3.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① イヌマキやサンゴジュなど防風樹近くでの発生が多くなるので注意する。

<カ キ>

1. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 前年10月の「富有」の発生園率は47%（平年84%）、発病葉率は7.1%（平年25.8%）であった。
 - ② 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。昨年多発した園では、この時期の防除を徹底する。
 - ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
 - ③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬剤は葉裏をねらって丁寧に散布する。

2. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」における発生園率は59%（平成42%）、発病葉率は4.6%（平成5.6%）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。
- ② 薬剤防除は、5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

3. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」における発生園率は29%（平成71%）、発病葉率は1.5%（平成14.6%）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。
- ② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における4月1日～15日の黄色粘着トラップによる誘殺数は4頭（平成4.3頭）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 落弁期を中心に防除する。
- ② イヌマキやサンゴジュなど防風樹の近くで発生が多いので注意する。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の4月中旬の発病葉の発生園率は0%（平成14%）、発病葉率は0%（平成0.4%）、発病枝の発生園率は50%（平成19%）、発病枝率は2.9%（平成0.9%）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 春型越冬病斑形成枝は葉への伝染源となるので剪除する。
- ② 果実発病は、5月以降の降雨により多くなるので、降雨直前の予防散布を徹底する。予防散布ができなかった場合、降雨後できるだけ早く薬剤散布を行う。
- ③ 本病の防除薬剤のうち、マイコシールドは連用すると葉先の黄化を生じることがあるので注意する。
- ④ 平成31年度病害虫発生予察注意報第1号（4月19日発表）を参照する。

2. カイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の4月中旬のウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ雌成虫寄生枝の発生園率は30%（平年31%）、寄生枝率は1.8%（平年2.3%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹体生育期における防除適期は、第1世代のふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の少し前に薬剤散布を実施する。

② 近年の県北部のふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが5月1日～5日、クワシロカイガラムシが5月中旬頃である。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲数は、落葉50リットル当たり0.1頭（前年1.5頭、平年0.6頭）、捕獲地点率は6.4%（前年61.7%、平年23.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

② ウメ・モモなどでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。

③ ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。

④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害状況を観察して防除する。

① 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○ **農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujiyouhou.html>

○ **和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病虫害発生予報 第3号(6月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所

< 予報の概要 >

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	いもち病 ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ イネミズゾウムシ	やや少 並 やや少 並 並 並 やや少	カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ アブラムシ類	並 やや多 やや多 並 やや少 並
ウリ科野菜	モザイク病 べと病 褐斑病 うどんこ病 疫病 つる枯病 炭疽病	並 やや少 並 並 並 並 並	モモ	せん孔細菌病 カイガラムシ類	やや多 やや少
			野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	並 並 並 やや少 並
			キウイフルーツ	かいよう病	やや多
			果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

1か月予報(予報期間 5月25日～6月24日 大阪管区气象台)

< 特に注意を要する事項 >

期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

< 予想される向こう1か月の天候 >

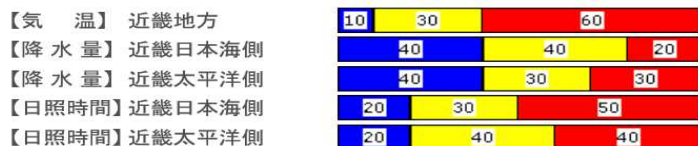
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で多い確率50%、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温(平年値) (°C)	月降水量(平年値) (mm)
6月	和歌山 23.0	和歌山 188.6
	潮岬 22.1	潮岬 351.9

I. 水 稲

1. いもち病（苗いもち、葉いもち）

（1）予報内容 発生量 やや少

（2）予報の根拠

① 6月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 低温、日照不足、長雨が続く条件で発生しやすい。

② 県南部の早植え地域の常発地では気象条件に注意し、発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。

③ 県北部、県中部の普通期栽培地域では、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」などの罹病性品種を作付けする場合には育苗箱施薬剤を施用する。

④ 田植え後の余り苗を水田に放置しない。

2. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

（1）予報内容 ヒメトビウンカ 発生量 並

縞葉枯病 発生量 やや少

（2）予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0.0頭）、上富田町0頭（平年0.1頭）であった。

② 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市4.8%（平年9.8%）、かつらぎ町2.0%（平年12.0%）であった。

③ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年14%）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

② 田植え時はヒメトビウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

③ 第2世代成虫は6月下旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は7月上旬頃と考えられることから、前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、この時期の幼虫を対象に追加防除を行う。

3. ツマグロヨコバイ

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市、上富田町でいずれも0頭（平年：紀の川市0頭、上富田町0.2頭）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 田植え時にツマグロヨコバイに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

4. セジロウンカ

（1）予報内容 発生時期 並 発生量 並

（2）予報の根拠

① 5月20日現在、県内の予察灯（紀の川市、上富田町）への飛来は認められていない（平年の5月1～20日の誘殺数：紀の川市0.1頭、上富田町0.2頭。初飛来の平年：5月27日）。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 田植え時にセジロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

5. トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月20日現在、県内の予察灯（紀の川市、上富田町）への飛来は認められていない（平年の5月1～20日の誘殺数：紀の川市0頭、上富田町0頭。初飛来の平年：6月30日）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 田植え時にトビイロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

6. イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、上富田町3頭（平年25.6頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① イネミズゾウムシに効果がある育苗箱施薬剤を施用していないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは成虫が1株あたり0.5頭を越える場合は、直ちに薬剤防除を実施する。

II. 野 菜

<ウリ科野菜>

1. モザイク病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（キュウリ：平年3%、スイカ：過去8年の平均0%）であった。
 - ② 県中部の施設栽培キュウリおよびトンネル栽培スイカにおける5月中～下旬の発生ほ場率はいずれも0%（平年：いずれも0%）であった。
 - ③ アブラムシ類の発生は平年並と予想される。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① アブラムシ類の防除を行う。

2. ベと病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は17%（平年42%）、発病葉率は0.9%（過去9年の平均6.2%）であった。
 - ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は75%（平年56%）、発病葉率は14.3%（平年12.6%）であった。
 - ③ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
 - ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. 褐斑病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は17%（過去

- 9年の平均5%)、発病葉率は0.3%(過去9年の平均0.3%)であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は58%(過去5年の平均52%)、発病葉率は8.9%(過去5年の平均13.5%)であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
 - ② 罹病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。
 - ③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

4. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は17%(平年22%)、発病葉率は1.1%(平年1.7%)であった。
 - ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は100%(平年83%)、発病葉率は37.9%(平年24.0%)であった。
 - ③ 県北部の露地栽培スイカおよび県中部のトンネル栽培スイカにおける5月中～下旬の発生ほ場率は、いずれも0%(県北部、県中部ともに平年0%)であった。
 - ④ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 施設栽培やトンネル栽培では風通しを良くし、薬剤防除は薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

5. 疫病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。
 - ② 県中部のトンネル栽培スイカにおける5月下旬の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。
 - ③ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤防除は予防散布を重点に、6月上旬頃から定期的に行う。
 - ② ほ場の排水を良くし、マルチ、敷わらを行う。

6. つる枯病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。
 - ② 県中部のトンネル栽培スイカにおける5月下旬の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。
 - ③ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 梅雨期の降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株元にも十分かかるように行う。

7. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（過去6年の平均0%）であった。
- ② 県中部のトンネル栽培スイカにおける5月下旬の発生ほ場率は0%（過去6年の平均0%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 6月以降の露地条件で降雨が続くと、病斑上の胞子が雨滴などで飛散するため被害が拡大しやすい。降雨前の予防散布に努める。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の生息葉率は、モモアカアブラムシ0%（平成0.7%）、ワタアブラムシ0%（平成0.1%）であった。
- ② 県中部のトンネル栽培スイカにおける5月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は30%（平成62%）、生息葉率は0.3%（平成6.1%）であった。
- ③ 黄色水盤（紀の川市）の5月1～20日の飛来数は87頭（平成168頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は11%（平成11%）、生息葉率は0.4%（平成1.5%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ② 県中部のトンネル栽培スイカにおける5月下旬のカンザワハダニの発生ほ場率は50%（平成68%）、生息葉率は6.3%（平成13.8%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率29%、生息葉率6.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は33%（平成27%）、生息葉率は8.9%（平成6.9%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は50%（過去5年の平均46%）、生息葉率は1.3%（過去5年の平均4.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生の多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
- ② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率6%、生息葉率0.7%）であった。
- ② 県中部のトンネル栽培スイカにおける5月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率8%、生息葉率1.0%）であった。
- ③ 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（過去5年の平均22%）、生息葉率0%（過去5年の平均2.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部のトンネル栽培スイカにおける5月下旬の発生ほ場率は0%（平年5%）、生息葉率は0%（平年0.2%）であった。
- ② フェロモントラップによる5月1～20日の誘殺数は、紀の川市7頭（平年2.8頭）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
- ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉の芯部に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。
- ③ 施設栽培では、栽培終了後に20日程度施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 5月下旬までに薬剤散布を実施していない園では早急（6月上旬）に防除を行う。
- ② マンゼブ剤またはマンネブ剤を用いる場合、1回目散布後の累積降水量が250mm程度となった時点で次の散布を行う。
- ③ 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

2. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は8.0%（平年10.1%）であった。
- ② 予察ほ場（無防除、有田川町奥）において、春葉での初発は5月23日（平年5月23日）であった。

③ 前年10月中旬の春葉発病の発生園率は27%（平年16%）、発病葉率は0.9%（平年0.6%）であった。

④ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 銅水和剤の予防散布を行う。散布時には薬害軽減の策を講じる。

② 罹病枝葉の剪除と防風垣の整備に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 5月中旬の100葉あたりの雌成虫数は、予察ほ場（無防除、有田川町奥）では232頭（平年2.0頭）、マシン油乳剤を散布している慣行防除園では0頭（平年0頭）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。マシン油乳剤の散布は発生初期に行なうと高い防除効果が得られる。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期

第1世代1齢幼虫最盛期 5月26～31日 （平年6月1～5日）

同 2齢幼虫最盛期 6月11～20日 （平年6月16～25日）

同 雌成虫初発日 6月16～20日 （平年6月21～25日）

発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）での第1世代1齢幼虫の初発は5月13日（平年5月17日）であった。

② 前年10月における発生園率は20%（平年14%）、寄生果率は0.3%（平年0.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多発園では、2齢幼虫最盛期にマシン油乳剤や有機リン系の殺虫剤を散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、由良町）における5月中旬の黄色粘着トラップによる誘殺数は8頭（平年40頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 地域での発生活長調査の結果を参考に、適期防除に努める。

6. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）では5月中旬の寄生新梢率は3%であり、各地域においても発生量は平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 各園地の発生状況を把握し、適期防除に努める。

＜カキ＞

1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部における5月中旬の「富有」での発生圃率は29%（平成8%）、発病葉率は1.6%（平成0.2%）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 伝染源となる病斑上の病原菌は、6月以降活発に形成され伝染を繰り返す。病原菌は葉裏の気孔から侵入するため、薬剤防除にあたっては葉裏にも丁寧に薬液を散布する。

2. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年10月の「富有」における発生圃率は59%（平成42%）、発病葉率は4.6%（平成5.6%）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌の飛散は5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。

② 5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

3. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 前年10月の「富有」における発生圃率は29%（平成71%）、発病葉率は1.5%（平成14.6%）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。

② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

4. カキクダアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における4月1日～5月15日の黄色粘着トラップによる誘殺数は7頭（平成8.8頭）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 防除適期は新成虫飛来期の6月上中旬である。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における4月1日～5月15日の黄色粘着トラップによる誘殺数は4頭（平成6.5頭）であった。

- ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 防除適期は新成虫飛来期の6月中下旬である。

6. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における5月中旬の「富有」での発生園率は12%（平年18%）、寄生花蕾率は0.4%（平年0.7%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期である6月上中旬に薬剤を散布する。多発園では薬液を丁寧に散布する。

<モモ>

1. せん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における5月中旬の発生園率は90%（平年51%）、発病葉率は4.5%（平年2.3%）であった。
 - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 防風ネット、防風樹の設置などの防風対策を励行する。
 - ② 平成31年度病害虫発生予察注意報第1号（4月19日発表）を参照する。

2. カイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における5月中旬のウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ雌成虫寄生枝の発生園率は0%（平年17%）、寄生枝率は0%（平年2.1%）であった。
 - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の少し前に薬液を散布する。
 - ② 近年の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが7月1～5日頃、クワシロカイガラムシが7月11～15日頃である。

<キウイフルーツ>

1. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における5月中旬のPsa3系統の発生園率は2%であったが、発生園ではほぼすべての葉で発病が見られる多発状態であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。
 - ② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒する。

- ③ 風当たりの強い園では、防風対策を行う。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯での5月中旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシが0頭（前年1145頭、過去8年の平均164頭）、ツヤアオカメムシが10頭（前年205頭、過去8年の平均48頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯での5月中旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシが0頭（前年651頭、過去5年の平均209頭）、ツヤアオカメムシが15頭（前年1389頭、過去5年の平均455頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯での5月中旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシが51頭（前年518頭、過去9年の平均185頭）、ツヤアオカメムシが369頭（前年5776頭、過去9年の平均668頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生および被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。
- ③ 今後の発生動向については、農業・環境鳥獣害対策質ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyuhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病虫害発生予報 第4号(7月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所

< 予報の概要 >

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	いもち病 紋枯病 縞葉枯病 ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並並 やや少 並並 やや少 並並	カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ ゴマダラカミキリ	やや少 並並 並並 やや少 並
			カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	並 やや多 並 やや少 やや少
ウリ科野菜	疫病 うどんこ病 つる枯病 炭疽病	並並並並	モモ	せん孔細菌病 カイガラムシ類	並 やや少
ナス科野菜	疫病	並	キウイフルーツ	かいよう病	やや多
野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	並並並 やや少 やや多	果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

1か月予報（予報期間 6月22日～7月21日 大阪管区气象台）

< 予想される向こう1か月の天候 >

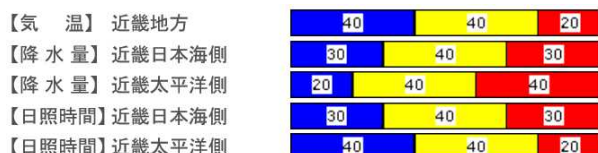
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

		月平均気温 (平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
7月	和歌山	27.0	和歌山 144.9
	潮岬	25.4	潮岬 290.6

I. 水 稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%(平年0.1%)であった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 低温、日照不足、長雨が続くと発生しやすい。
- ② 補植用苗は葉いもちの発生源となるので、早急に処分する。
- ③ 常発地および「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」等の罹病性品種では発病しやすいので初発時期に注意し、発生がみられたら直ちに薬剤防除する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%(平年0%)であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における前年9月上旬の発病株率は5.5%(平年19.5%)であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨明け後の高温期から病勢が急激に進展するので、常発地や前年の多発ほ場では幼穂形成期～穂ばらみ期の防除を徹底する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%(平年0%)であった。
- ② 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%(平年14%)であった。
- ③ 県北部におけるヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市4.8%(平年9.8%)、かつらぎ町2.0%(平年12.0%)であった。
- ④ ヒメトビウンカの7月の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカの防除を行う。
- ② 第2世代成虫は6月下旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は7月上旬頃と考えられることから、前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、幼虫を対象にこの時期の追加防除を行う。

4. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭(平年0.2頭)であった。
- ② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市1頭(平年2.3頭)、上富田町1頭(平年0.3頭)、那智勝浦町0頭(平年1.4頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、縞葉枯病の発生が認められる地域以外は7月の防除は必要としない。

5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭（平成0.6頭）であった。
- ② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市8頭（平成2.1頭）、上富田町3頭（平成28.8頭）、那智勝浦町11頭（平成14.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、7月の防除は必要としない。

6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭（平成5.1頭）であった。
- ② 予察灯への初飛来は、紀の川市6月6日（平成6月21日）、上富田町6月10日（平成6月17日）、那智勝浦町6月16日（平成6月14日）であった。
- ③ 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市1頭（平成30.0頭）、上富田町1頭（平成24.4頭）、那智勝浦町1頭（平成15.8頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ツマグロヨコバイに準ずる。

7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭（平成0頭）であった。
- ② 予察灯への初飛来は、那智勝浦町で6月8日（平成7月3日）であった。紀の川市（平成7月19日）、上富田町（平成7月3日）では6月20日現在、飛来を認めていない。
- ③ 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成0.1頭）、上富田町0頭（平成0.2頭）、那智勝浦町1頭（平成0.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ツマグロヨコバイに準ずる。

8. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり被害葉数は0葉（平成0葉）であった。
- ② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による6月1～20日の誘殺数は0頭（平成0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1世代の発蛾最盛期は平成7月下旬頃である。防除適期は、粒剤の場合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤（乳剤、水溶剤、フロアブル等）の場合は第2世代幼虫発生時期（第1世代の発蛾最盛期の7日後）である。
- ② 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%

程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

Ⅱ．野 菜

<ウリ科野菜>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去7年の平均0%）であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は6%（過去7年の平均1%）であった。

③ 県北部の施設栽培キュウリにおける6月中旬の発生ほ場率は33%（平成27%）であった。

④ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、他系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

3. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成8%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株元にも十分かかるように行う。

4. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均9%）であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均17%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病した茎葉や果実は、ほ場外に持ち出す。
- ② 降雨日が連続すると多発する可能性があるため、長雨が予想される場合は予防散布を実施する。

<ナス科野菜>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去5年の平均0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培ミニトマトにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去6年の平均7%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨末期の多雨で急激に病勢が進展するため、降雨前の予防散布に努める。予防散布ができなかった場合は降雨後に早急に防除する。
- ② ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の生息葉率は、モモアカアブラムシ0%（平成3.5%）、ワタアブラムシ0%（平成4.4%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は70%（平成61%）、生息葉率は6.9%（平成6.5%）であった。
- ③ 黄色水盤（紀の川市）による6月1～20日の誘殺数は145頭（平成106頭）であった。
- ④ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は、カンザワハダニ56%（平成36%）、ナミハダニ0%（平成8%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は、カンザワハダニ20%（平成32%）、ナミハダニ0%（平成22%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は22%（平成19%）、生息葉率は4.4%（平成5.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
- ② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源にならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率13%、生息葉率1.9%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培スイカ（性フェロモン剤による交信攪乱処理を実施していない地区）における6月中～下旬の被害果率は2.4%（平年1.7%）であった。
 - ② フェロモントラップによる6月1～20日の誘殺数は、紀の川市40頭（平年10.1頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
 - ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生園率は0%（平年17%）、発病果率は0%（平年2.0%）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① マンゼブ剤やマンネブ剤の場合、前回の薬剤散布からの累積降水量が250mm程度となった時点で散布する。
 - ② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。
 - ③ 過乾燥等で樹勢が衰弱すると枯枝が増えるおそれがあるので留意する。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 果実発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の春葉の発生園率は28%（平年20%）、発病葉率は1.3%（平年0.9%）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 罹病葉は果実への伝染源になるので剪除する。

- ② 防風ネット設置などの防風対策に努める。
- ③ ミカンハモグリガの防除を徹底する。
- ④ 発生園では銅水和剤を散布する（葉害軽減のための措置を講じる）。強風雨前の予防散布が重要である。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生園率は38%（平年36%）、発生葉率は13.3%（平年11.0%）、100葉あたり雌成虫数は42頭（平年44頭）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 高度の薬剤抵抗性系統が出現しやすいので、対策として97%・98%マシン油乳剤の散布を励行する。ただし、高温強日射時の散布は葉害が発生しやすく、7月中旬以降の散布は果実品質を低下させるおそれがあるので、散布は7月上旬までとする。

4. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
発生時期 第2世代1齢幼虫初発日 7月15～20日
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における第1世代1齢幼虫の初発は5月13日（平年5月17日）であった。
 - ② 予察ほ場、各地域とも第1世代幼虫の発生量は平年並であった。
 - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 6月下旬に防除できなかった園では、7月上旬のうちに97%・98%マシン油乳剤やスプラサイド乳剤40を散布する。
 - ② 未成熟成虫がみられる場合はスプラサイド乳剤40を散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（無防除、由良町）における黄色粘着トラップによる6月中旬の誘殺数は45頭（平年311頭）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 地域での発生消長調査の結果を参考に適期防除に努める。

6. ゴマダラカミキリ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場、各地域とも成虫の初発は平年並で、6月中旬の発生量も平年並であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生園では成虫の捕殺に努めるとともに、薬剤を散布する。
 - ② 発生の多い園では7月中旬以降に、産卵防止および食入幼虫対象の防除として薬剤を主幹から株元に散布する。

<カ キ>

1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における6月中旬の発病新梢率は「富有」、「平核無」・「刀根早生」いずれも0%（平年0%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。

② 密植園や風通しの悪い場所は発病しやすいので、園内の通風・採光をはかる。

③ 薬剤は発育枝にも十分散布する。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部における6月中旬の発生園率は「富有」71%（平年48%）、「平核無」・「刀根早生」12%（平年18%）であった。発病葉率は「富有」2.9%（平年2.7%）、「平核無」・「刀根早生」0.1%（平年0.6%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に散布する。

② 梅雨明けまでは好適な気象条件や園地条件で発病を繰り返すので、二次伝染の防止に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における前年10月の「富有」における発生園率は59%（平年42%）、発病葉率は4.6%（平年5.6%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌の飛散は5月下旬～7月中旬の降雨後に多く、二次感染はしない。

② 5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部における前年10月の「富有」における発生園率は29%（平年71%）、発病葉率は1.5%（平年14.6%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌の飛散は5月上旬から始まり、7月下旬まで続く。二次感染を繰り返す。

② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部における6月中旬の発生園率は「富有」12%（平年42%）、「平

- 核無」・「刀根早生」0%（平年10%）であった。
- ② 県北部における6月中旬の寄生果率は「富有」0.2%（平年5.1%）、
「平核無」・「刀根早生」0.0%（平年0.3%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期である。
- ② 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における近年の第2世代ふ化幼虫の
初発は7月22～27日頃であり、回目の防除適期は8月上旬頃と予想される。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部における6月中旬の発病葉の発生園率は80%（平年67%）であ
った。発病葉率は5.3%（平年4.6%）であった。
- ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 防風対策に取り組む。防風ネット、防風樹設置園では保守点検を行う。
- ② 翌年の伝染源軽減のため、秋季に無機銅水和剤を散布する。

2. カイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部における6月中旬のウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ
の発生園率は0%（平年10%）、雌成虫寄生枝率は0.0%（平年0.6%）であ
った。
- ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼
虫発生盛期の直前に薬剤散布を実施する。
- ② 近年の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが7月1～
5日頃、クワシロカイガラムシが7月11～15日頃である。

<キウイフルーツ>

1. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 海草地域におけるPsa3系統の5月中旬現在の発生園率は2%であった。
- ② 海草地域におけるPsa3系統発生園における発病樹率は平均19.2%であ
り、100%の園地も見られた。
- ③ 7月の気象予報によると、発病に好適な条件が続くと予想される。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 今後の被害拡大を抑えるため、梅雨明けまでは、葉病斑が発生した枝に
印を付け関係機関に連絡して、経過を観察する。
- ② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒す
る。
- ③ 風当たりの強い園では、防風対策を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯での6月中旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシが5頭（前年72頭、平年56頭）、ツヤアオカメムシが10頭（前年233頭、平年110頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯での6月中旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシが16頭（前年45頭、過去5年の平均57頭）、ツヤアオカメムシが15頭（前年146頭、過去5年の平均86頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯での6月中旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシが30頭（前年317頭、過去9年の平均305頭）、ツヤアオカメムシが142頭（前年628頭、過去9年の平均724頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 園内への多飛来を確認したら早急に薬剤散布を行う。
- ② 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病害虫防除所>

[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujyouhou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html)

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病害虫防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第5号(8月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稻	いもち病 紋枯病 縞葉枯病 ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ イチモンジセセリ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	少 並 並 並 並 やや少 やや多 並 並 並		ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ	並 並 並 やや多
			カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ ゴマダラカミキリ	やや少 やや多 少 並 やや少 並
			カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	並 並 やや少 やや少 やや少
トマト・ミニトマト	疫病 黄化葉巻病	やや少 並	果樹全般	カメムシ類	やや少
野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類	やや多 並			

気象予報

1か月予報（予報期間 7月27日～8月26日 大阪管区气象台）

< 予想される向こう1か月の天候 >

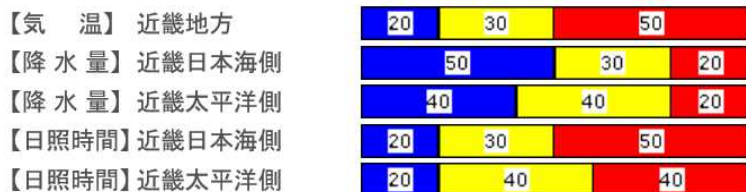
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿日本海側で少ない確率50%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で多い確率50%、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温（平年値） （℃）	月降水量（平年値） （mm）
8月	和歌山 28.1	和歌山 86.0
	潮岬 27.0	潮岬 233.2

I . 水 稲

1. いもち病

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の葉いもちの発生ほ場率は0%（平成32%）、発病株率は0%（平成6.6%）であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における7月上～中旬の葉いもちの発生ほ場率は0%（平成22%）、発病株率は0%（平成3.6%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期防除を重点とし、葉いもちの多発ほ場では穂ぞろい期に追加防除を行う。
- ② 常発地では翌年から罹病性品種の作付けを避ける。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平成2%）、発病株率は0%（平成0.1%）であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における7月上～中旬の発生ほ場率は0%（平成2%）、発病株率は0%（平成0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期に発病株率が20%以上のほ場では、早急に薬剤防除を行う。
- ② 出穂後も上位葉への進展がみられる場合には追加防除を行う。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平成2%）、発病株率は0%（平成0.1%）であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における7月上～中旬の発生ほ場率は0%（平成4%）、発病株率は0%（平成0.1%）であった。
- ③ 媒介虫であるヒメトビウンカの8月の発生量は並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 縞葉枯病の発生が多い圃場は、ヒメトビウンカの防除を行う。

4. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月上～中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では3.2頭（平成9.7頭）、県北部および中部の普通期栽培では9.3頭（平成15.2頭）であった。
- ② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市1頭（平成4.9頭）、上富田町0頭（平成0.9頭）、那智勝浦町5頭（平成7.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 縞葉枯病の発生が多い圃場は、ヒメトビウンカの防除を行う。

5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月上～中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では2.8頭（平成5.5頭）、県北部および中部の普通期栽培では1.5頭（平成1.5頭）であった。
- ② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市5頭（平成1.4頭）、上富田町10頭（平成31.1頭）、那智勝浦町76頭（平成260.4頭）であった。

6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 7月上～中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では12.3頭（平成57.5頭）、県北部および中部の普通期栽培では6.9頭（平成40.9頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市5頭（平成110.1頭）、上富田町11頭（平成95.5頭）、那智勝浦町38頭（平成87.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期に株あたり成幼虫10頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 7月上～中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0頭（平成0.1頭）、県北部および中部の普通期栽培では0頭（平成0.3頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市2頭（平成0.7頭）、上富田町3頭（平成1.0頭）、那智勝浦町13頭（平成2.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬の発生に注意し、株あたり成幼虫5頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

8. イチモンジセセリ(イネツトムシ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月上～中旬の25株あたりツト数は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0（平成0.1）、県北部および中部の普通期栽培では0（平成0.1）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月上旬の発生に注意し、若齢幼虫の防除に重点を置く。

9. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月上～中旬の25株あたり上位2葉の被害は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では5.3葉（平成5.7葉）、県北部および中部の普通期栽培では0.1葉（平成0.4葉）であった。
- ② 蛍光灯誘殺箱（紀の川市）による6月1日～7月20日の誘殺数は2頭（平成1.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1世代の発蛾最盛期は7月下旬頃と思われる。
- ② 防除適期は、粒剤の場合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤（乳剤、水溶剤、フロアブル等）の場合は第2世代幼虫発生時期（第1世代の発蛾

最盛期の7日後)である。

- ③ 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

10. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部(田辺市以南)の早期栽培の本田における7月中旬の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は1.7頭(平年5.8頭)であった。

② 予察灯による7月1~20日の誘殺数は、紀の川市101頭(過去3年の平均114.3頭)、上富田町110頭(過去8年の平均17.1頭)、那智勝浦町40頭(過去8年の平均80.6頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 出穂の早い作型で、周辺に雑草が繁茂していると被害を受けやすい。

② イネ科雑草が発生源となる。本田への成虫の飛来を防ぐためには、出穂10日前までにはほ場周辺を除草する。

③ 出穂後、本田内でホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシなどの飛来を認めたら、乳熟期(出穂10日後)から糊熟期(出穂20日後)に薬剤を散布する。カスミカメムシ類の発生が多い場合は穂ぞろい期(出穂3日後)に薬剤散布する。

II. 野 菜

<トマト・ミニトマト>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は0%(平年10%)であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 排水を良くし、株元に滞水しないようにする。

② 露地栽培では、降雨前の予防散布に努める。降雨前に散布できなかった場合は降雨後に早急に防除する。

2. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は44%(過去6年の平均50%)であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。

② 施設栽培では育苗ほ、本ほとも施設開口部へ目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。

③ 施設栽培では定期的な薬剤散布に加え定植期の粒剤処理により、感染適期である育苗期から本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月下旬の生息葉率は、ワタアブラムシ3.1%（平成0.5%）、モモアカアブラムシ0%（平成0.0%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）への7月1～20日までの飛来数は19頭（平成12.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月下旬の発生ほ場率および生息葉率は、カンザワハダニでそれぞれ22%（平成27%）、7.1%（平成8.3%）であった。ナミハダニの発生は認められなかった（平成：発生ほ場率13%、生息葉率3.4%）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月下旬の発生ほ場率は22%（平成26%）、生息葉率は5.3%（平成5.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ナスでは、収穫果実の選別時に被害を認めたら防除を始める。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

④ 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率2%、生息葉率0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率5%、生息葉率0.3%）であった。

② フェロモントラップによる7月1～20日の誘殺数は、和歌山市41頭（過去8年の平均103.7頭）、紀の川市28頭（平成42.8頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。

- ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される。

6. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
(2) 予報の根拠
① フェロモントラップによる7月1～20日の誘殺数は、紀の川市63頭（平年16.2頭）であった。
② 8月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① ハスモンヨトウに準ずる。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
(2) 予報の根拠
① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生園率は17%（平年26%）、発病度は0.3（平年1.2）であった。
② 8月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 秋雨時期における後期感染防止のため、8月中下旬の防除を徹底する。
② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。
③ 過乾燥等で樹勢が低下すると枯枝が増えるおそれがあるので留意する。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 果実発生量 やや多
(2) 予報の根拠
① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の春葉病斑の発生園率は38%（平年27%）、発病度は0.4（平年0.3）であった。
② 8月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 防風対策に努め、台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。
② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので剪除に努める。幼木、高接樹ではミカンハモグリガの防除も徹底する。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 少
(2) 予報の根拠
① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生園率は3%（平年31%）、発生葉率は0.5%（平年7.3%）、100葉あたり雌成虫数は0.7頭（平年25.4頭）であった。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤を年間に2回以上使用しない。

4. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生時期 第2世代2齢幼虫最盛期 8月15～20日（並）

発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）での第1世代成虫の初発時期は平年並であった。
- ② 予察ほ場、各地域とも第1世代幼虫の発生量は平年並であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生園では8月中旬に、散布むらがなく葉裏までかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の果実の被害園率は6%（平年21%）、発生園率は2%（平年4%）であった。
- ② 予察ほ場（無防除、由良町）における黄色粘着トラップによる7月中旬の誘殺数は19頭（平年205頭）であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 地域での発消長調査の結果により、適期防除に努める。
- ② 発生園およびイヌマキやサンゴジュの隣接園では防除を徹底する。

6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場、各地域とも成虫の初発は平年並であり、6～7月の発生量も平年並であった。
- ② 発生源となる放任園や管理不良園が増加している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 成虫の捕殺に努め、放任園周辺など発生の多い園では、産卵防止および食入幼虫対象の防除として薬液を主幹から株元に散布する。

<カ キ>

1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における7月中旬の発病果率は「富有」0%（平年0.1%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年0%）であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。
- ② 台風が接近する場合は事前に薬剤を散布する。散布できなかった園は台風通過後速やかに散布する。
- ③ 密植園や風通しの悪い場所は発病しやすいので、園内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における7月中旬の発生園率は「富有」65%（平年67%）、「平核無」・「刀根早生」12%（平年28%）であった。

- ② 県北部における7月中旬の発病葉率は「富有」5.5%（平年7.5%）、
「平核無」・「刀根早生」0.2%（平年1.2%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
 - ② 一般に盛夏期の発病は一時休止するが、山間部や風通しの悪い園地は発病を繰り返しやすいので、これらの園地では秋雨前の予防散布に努める。

3. 円星落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における前年10月の「富有」における発生園率は59%（平年42%）、発病葉率は4.6%（平年5.6%）であった。
 - ② 梅雨入りは遅く、5～6月の日照時間は多かった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
 - ② 子のう胞子の飛散が続く8月上旬まで防除が必要である。

4. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における前年10月の「富有」における発生園率は29%（平年71%）、発病葉率は1.5%（平年14.6%）であった。
 - ② 梅雨入りは遅く、5～6月の日照時間は多かった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
 - ② 本病は7月頃から発病し二次伝染を繰り返すので、多発園では発病後も防除を励行する。

5. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における7月中旬の発生園率は、「富有」29%（平年60%）、
「平核無」・「刀根早生」0%（平年22%）であった。
 - ② 県北部における7月中旬の寄生果率は、「富有」1.1%（平年6.4%）、
「平核無」・「刀根早生」0%（平年1.1%）であった。
 - ③ 8月の気象予報による。
- (3) 防除上注意すべき諸点
 - ① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における近年の第2世代ふ化幼虫の初発は7月21～27日頃であり、次回の防除適期は8月上旬頃と予想される。
 - ② 枝葉の混み合いをなくし、薬液が果実に十分かかるよう丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察灯による7月中旬のチャバネアオカメムシ成虫の誘殺数は、紀の川市粉河で53頭（平年234頭）、有田川町奥で23頭（過去5年の平均553頭）、みなべ町東本庄で54頭（過去9年の平均435頭）であった。
 - ② 予察灯による7月中旬のツヤアオカメムシ成虫の誘殺数は、紀の川市粉河で0頭（平年64頭）、有田川町奥で12頭（過去5年の平均91頭）、みな

べ町東本庄で29頭（過去9年の平均162頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接園では早くから被害が出やすい。
- ② 園内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ③ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第6号(9月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病 紋枯病 トビイロウンカ	少 やや少 県北部 やや多 県中部 多	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ	やや多 並
	イチモンジセセリ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	並 並 やや多	カンキツ	黒点病 かしよう病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	並 やや多 少 やや少
トマト・ミ ニトマト	黄化葉巻病	多	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	やや多 やや少 やや少 並 少
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	並			
野菜・花 き全般	アブラムシ類およびアブラム シ類媒介のウイルス病 ハダニ類	やや少 並	果樹全般	カメムシ類	やや少 並
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	やや多 並			

気象予報

1か月予報（予報期間 8月24日～9月23日 大阪管区气象台）

< 予想される向こう1か月の天候 >

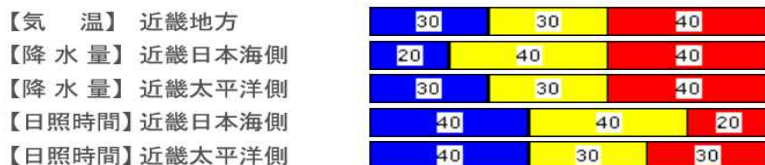
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

		月平均気温 (平年値) (℃)		月降水量 (平年値) (mm)	
9	月	和歌山	24.7	和歌山	183.8
	日	潮岬	24.3	潮岬	304.8

I. 水 稲

1. いもち病(穂いもち)

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の葉いもちの発生ほ場率は8% (平成30%)、発病株率は0.3% (平成7.5%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① いもち病に感受性が高い品種(「キヌヒカリ」等)の作付ほ場では今後の気象推移に注意する。

② 常発地では次作から、いもち病に感受性が高い品種の作付けを避ける。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の発生ほ場率は8% (平成30%)、発病株率は0.3% (平成4.6%)であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生が多いほ場では、次作の伝染源となる菌核の形成が多くなるので、次作は防除を徹底するとともに密植にならないよう注意する。

3. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 県北部 やや多、県中部 多

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたり生息密度は、県北部の普通期栽培では0.2頭(平成0.4頭)、県中部の普通期栽培では12.9頭(平成0.2頭)であった。

② 予察灯による8月1~20日の飛来数は、紀の川市4頭(平成2.2頭)、上富田町7頭(平成0.9頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。

② 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも8月下旬以降に高密度となり、坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。

③ 本種は株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。

④ 令和元年度病害虫発生予察注意報第2号(8月16日発表)を参照する。

4. イチモンジセセリ(イネツトムシ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたりツトム数は、県北部の普通期栽培では0(平成0.1)、県中部の普通期栽培では0(平成0.1)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 8月下旬~9月上旬に蛹化し9月中旬以降に成虫となるため、防除の必要はない。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 8月上旬の25株あたり被害葉数は、県北部の普通期栽培では0葉（平均1.5葉）、県中部の普通期栽培では1.7葉（平均0.9葉）であった。
- ② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による7月21日～8月5日の成虫誘殺数は、16頭（平均6.6頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 9月以降は被害葉率が高くても減収率は低い。また、次世代幼虫の出現がないため、防除の必要はない。

6. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① すくい取り調査（捕虫網20回振り）による8月上旬の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部の普通期栽培で88%（平均72%）、11.1頭（平均6.7頭）、県中部の普通期栽培で100%（平均75%）、9.5頭（平均7.7頭）であった。
- ② 予察灯による8月1～20日の誘殺数は、紀の川市57頭（過去3年の平均156.7頭）、上富田町17頭（過去8年の平均6.9頭）であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 晩生品種では、乳熟期～糊熟期に薬剤を散布する。

II. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける8月中旬の発生ほ場率は100%（平均61%）、発病株率は50.0%（平均26.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 生育初期に感染すると被害が大きくなるため、施設栽培では施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。さらに、外張り資材に紫外線除去フィルムを使用すると侵入防止効果が高まる。
- ② 定期的な薬剤散布および定植期の粒剤処理により、感染適期である育苗期から本播初期（8～10月）のタバココナジラミ防除を徹底する。
- ③ 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ④ 令和元年度病害虫発生予察注意報第3号（8月23日発表）を参照する。

<ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市0頭（過去8年の平均0.1頭）、紀の川市0頭（平均0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類およびアブラムシ類媒介のウイルス病（露地野菜全般）

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率16%、生息葉率2.4%）、モモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率7%、生息葉率0.5%）であった。
 - ② アブラムシ類の黄色水盤（紀の川市）への8月1～20日の飛来数は、7頭（平年61.1頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① アブラムシ類媒介のウイルス病は、シルバーマルチと薬剤防除を併用してアブラムシ類の防除を行う。
 - ② ハクサイ等の育苗では、防虫ネットで被覆して有翅虫の飛来を防ぐ。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は25%（平年22%）、生息葉率は10.5%（平年5.5%）、ナミハダニの発生ほ場率は13%（平年9%）、生息葉率は4.5%（平年2.1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は75%（平年53%）、生息葉率は24.0%（平年13.6%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
- ① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、紀の川市44頭（平年19.2頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
 - ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗または防虫ネットで被覆すると被害が軽減される。

6. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は0%（平成4%）であった。
 - ② フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市52頭（過去8年の平均94.3頭）、紀の川市129頭（平成60.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シロイチモジヨトウに準ずる。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の発生園率は25%（平成41%）、発病度は1.9（平成2.0）であった。
 - ② 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 8月中下旬に防除できなかった園では、9月上旬に早急に防除を行う。
 - ② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量（果実および夏秋梢） やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の発生園率（春葉）は42%（平成29%）、発病葉率（春葉）は1.9%（平成1.2%）であった。
 - ② 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 罹病性品種の場合、付傷すると果実発病のおそれがある。台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。
 - ② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので剪除に努める。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の発生園率は2%（平成31%）、発生葉率は0.1%（平成6.9%）、100葉あたりの雌成虫数は0.1頭（平成18.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統の薬剤は年2回以上使用しない。
 - ② ミカンサビダニの発生にも注意し、両種に適用のある有効薬剤を選択する。

4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の被害園率は5%（平成36%）、100果あたりの寄生虫数は0頭（平成0.8頭）であった。

- ② 予察ほ場（無防除、由良町）における黄色粘着トラップによる8月中旬の誘殺数は39頭（平年176頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 8月中旬以降に有効な殺虫剤を散布していない園および夏秋梢の多い園では、9月の発生に注意する。

<カ キ>

1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部における8月中旬の発生園率は、「富有」6%（平年4%）、
「刀根早生」・「平核無」6%（平年0%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病果率は、「富有」0.6%（平年0.1%）、
「刀根早生」・「平核無」0.1%（平年0%）であった。
- ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 発病枝や発病果実がみられる場合は剪除する。
- ② 降雨が続く場合は追加防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は台風通過後速やかに散布する。
- ③ 密植園や風通しの悪い場所は発病しやすいので、園内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部における8月中旬の発生園率は、「富有」77%（平年74%）、
「刀根早生」・「平核無」12%（平年27%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」6.7%（平年11.6%）、
「刀根早生」・「平核無」0.3%（平年1.7%）であった。
- ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
- ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部における8月中旬の発生園率は、「富有」0%（平年2%）、
「刀根早生」・「平核無」0%（平年3%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平年0.0%）、
「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.1%）であった。
- ③ 5月上旬～7月上旬の主感染時期の天候より、感染はやや少ないと考えられる。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 本病は樹勢の低下により発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部における8月中旬の発生園率は、「富有」0%（平年0%）、

- 「刀根早生」・「平核無」0%（平年1%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平年0%）、
「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.0%）であった。
- ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 本病は樹勢の低下により発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
- ② 本病は二次伝染を繰り返すので、10月上旬まで防除を励行する。

5. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部における8月中旬の発生園率は、「富有」35%（平年75%）、
「刀根早生」・「平核無」6%（平年32%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の寄生果率は、「富有」1.9%（平年11.0%）、
「刀根早生」・「平核無」の寄生果率は0.2%（平年1.5%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 本虫は主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるとように丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメモムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部における8月中旬のカキの被害果率は、「富有」0.4%（平年4.1%）、
「刀根早生」・「平核無」0.1%（平年0.5%）であった。
- ② 紀の川市粉河の予察灯における8月中旬のチャバネアオカメモムシの誘殺数は92頭（平年254頭）、ツヤアオカメモムシが16頭（平年84頭）であった。
- ③ 有田川町奥の予察灯における8月中旬のチャバネアオカメモムシの誘殺数は36頭（過去5年の平均375頭）、ツヤアオカメモムシが1頭（同117頭）であった。
- ④ みなべ町東本庄の予察灯における8月中旬のチャバネアオカメモムシの誘殺数は536頭（過去9年の平均642頭）、ツヤアオカメモムシが156頭（同386頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 果樹カメモムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接園では早くから被害が出やすい。
- ② カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
- ③ 園内での果樹カメモムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ④ 台風通過後や強風後には、一時的に飛来が多くなることもあるので注意する。
- ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメモムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○**農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujoyouhou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujoyouhou.html)

○**和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第7号(10月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花き全般	ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや少 やや少
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	並 並 並		カンキツ	ミカンハダニ
アブラナ科野菜	コナガ	並	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	やや多 やや少 並 並 やや少
野菜・花き全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	やや少 並 並 並 並		果樹全般	カメムシ類

気象予報

1か月予報（予報期間 9月21日～10月20日 大阪管区气象台）

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

【気温】近畿地方	10	20	70
【降水量】近畿地方	30	30	40
【日照時間】近畿地方	30	30	40

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (℃)	月降水量 (平年値) (mm)
10月	和歌山 18.8	和歌山 121.5
	潮岬 20.2	潮岬 243.8

I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年9%）、発病株率は0%（平年0.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 台風通過後は、施設の外張りフィルムおよび防虫ネットの保守点検を必ず行う。

② 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。

③ 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。

④ 露地栽培トマトおよびミニトマトについては、栽培終了後はほ場外へのタバココナジラミの分散を防止するため、誘引したまま抜根して速やかに枯死させ本虫を死滅させる。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 抑制栽培では、開花期ごろからの発生に注意する。

② 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。

② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットの発病抑制効果は高い。

- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

＜アブラナ科野菜＞

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、和歌山市岩橋2頭（過去8年の平均15.8頭）、和歌山市布引37頭（平成29年8.1頭、平成30年2.5頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 収穫後に作物残さを放置するとそこが発生源になり、周辺のほ場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

＜野菜・花き全般＞

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率13%、生息葉率1.1%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は14%（平年26%）、生息葉率は1.1%（平年5.6%）であった。
- ② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は、44頭（平年111.4頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。
- ② ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが発生している地域があるので注意する。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は29%（平年16%）、生息葉率は4.6%（平年3.7%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率10%、生息葉率1.4%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬のハダニ類の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率34%、生息株率13.6%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① キクに発生したナミハダニが移動するので、キク栽培ほ場に近いほ場では特に発生に注意する。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は43%（平年58%）、生息葉率は8.0%（平年21.1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

② イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は18%（平年29%）、生息株率は4.5%（平年6.9%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市51頭（平年41.8頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率19%、生息葉率1.3%）であった。

② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率30%、生息株率4.5%）であった。

③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市105頭（平年308.3頭）、和歌山市997頭（過去8年の平均1,030頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シロイチモジヨトウに準ずる。

7. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は9%（平年17%）、生息株率は0.9%（平年3.0%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市2頭（平年18.8頭）、御坊市1頭（平年2.8頭）、印南町0頭（平年5.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期の防除を心がける。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部における9月中旬の発生園率は23%（平年26%）、発生葉率は5.2%（平年6.6%）であった。
 - ② 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は0頭（平年1.0頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統の薬剤は年2回以上使用しない。
 - ② 秋季の防除が遅れた園では、早急に薬剤散布を行う。

<カ キ>

1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は18%（平年18%）、発病果率は0.9%（平年0.8%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病果は伝染源になるため、園内を巡回し、発病果を速やかに採取して土中に埋める。
 - ② 発病果がみられる園や降雨が続く場合は薬剤防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかつた場合は台風通過後速やかに散布する。
 - ③ 薬剤防除は、耐性菌対策として同一系統の薬剤は連用しないように注意する。
 - ④ 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多や強剪定を控える。冬季の剪定時に病斑を形成した枝を除去する。
 - ⑤ 排水不良園、密植で通風の悪い園は発病しやすいため、園内の環境改善に努める。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は53%（平年75%）、発病葉率は9.1%（平年14.8%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
 - ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は12%（平年5%）、発病葉率は0.1%（平年0.1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本病は樹勢の低下により発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は18%（平成36%）、発病葉率は1.2%（平成4.3%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は樹勢の低下により発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生園率は65%（平成79%）、寄生果率は6.1%（平成12.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本虫は主に果実とへたの間隙部に寄生しているため、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部における9月中旬のカキの被害果率は、「富有」で0.1%（平成6.3%）、「刀根早生」・「平核無」で0.0%（平成0.9%）であった。

② 紀の川市粉河の予察灯による9月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ70頭（平成194頭）、ツヤアオカメムシ27頭（平成104頭）であった。

③ 有田川町奥の予察灯による9月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ58頭（過去5年平均186頭）、ツヤアオカメムシ26頭（同124頭）であった。

④ みなべ町東本庄の予察灯による9月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ198頭（過去9年平均2,948頭）、ツヤアオカメムシ377頭（同1,837頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接園では早くから被害が出やすい。

② カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。

③ 園内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

④ 台風通過後や強風後には、一時的に飛来が多くなるため注意する。

⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第8号(11月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病 ハダニ類 ウラナミシジミ	並 並 やや多 やや少 並	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ	やや少
				ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや少 やや少
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病 アブラムシ類 コナガ ヨトウガ	並 やや少 並 並	カンキツ	果実腐敗病 ミカンハダニ	やや少 やや少
			果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

1か月予報（予報期間10月26日～11月25日 大阪管区气象台）

＜特に注意を要する事項＞

期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう1か月の天候＞

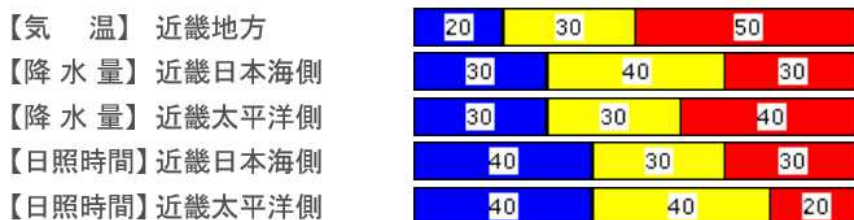
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。日照時間は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞



凡例： 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

11月	月平均気温（平年値） （℃）		月降水量（平年値） （mm）	
	和歌山	13.5	和歌山	90.5
潮岬	15.3	潮岬	160.2	

I. 野菜・花き

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は13%（平成15%）、発病葉率は0.2%（平成0.5%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成5%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は13%（平成2%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は13%（平成32%）、生息株率は10.7%（平成13.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の被害発生ほ場率は55%（平成50%）、被害株率は18.2%（平成18.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
- ② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。

＜ハクサイ、キャベツ＞

1. 黒斑細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（平年：ハクサイ8%、キャベツ6%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 降雨前に薬剤を予防散布する。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は25%（平年24%）、生息株率は1.9%（平年3.2%）であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は13%（平年45%）、生息株率は0.6%（平年10.5%）であった。
- ② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、15頭（平年42.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

3. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率9%、10株あたり生息密度0.1頭）であった。
- ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市78頭（過去7年の平均58.0頭）、紀の川市0頭（平年0.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ヨトウガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率7%、生息株率0.9%）であった。
- ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市15頭（平年5.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

＜野菜・花き全般＞

1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率8%、生息株率0.5%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率17%、生息株率2.9%）であった。
 - ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市13頭（平年14.0頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

2. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は13%（平年14%）、生息株率は1.3%（平年1.3%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率27%、生息株率5.9%）であった。
 - ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市1,121頭（過去8年の平均1,656頭）、紀の川市200頭（平年922頭）、御坊市550頭（平年1,979頭）、印南町435頭（平年827頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

3. オオタバコガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均：発生ほ場率6%、生息株率0.3%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率28%、生息株率5.6%）であった。
 - ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市40頭（平年26.1頭）、御坊市3頭（平年32.0頭）、印南町33頭（平年16.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生園率は3%（平年20%）であった。
 - ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
 - ② 果実はていねいに取り扱い、果面に傷をつけない。

- ③ 収穫前の薬剤散布を励行する。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生圃率は9%（平成11%）、発生葉率は0.7%（平成3.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。
② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

< 果樹全般 >

1. カメモシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における10月中旬のカキの被害果率は「富有」で3.3%（平成10.9%）であった。
② 紀の川市粉河の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメモシ10頭（平成13頭）、ツヤアオカメモシ59頭（平成71頭）であった。
③ 有田川町奥の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメモシ7頭（過去5年の平均19頭）、ツヤアオカメモシ139頭（同141頭）であった。
④ みなべ町東本庄の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメモシ11頭（過去9年の平均101頭）、ツヤアオカメモシ1,607頭（同1,377頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 園内外のカメモシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。
② 飛来がみられる園で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

2. 病害虫の診断・同定の件数

1) 本所

作物分類	分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水稻	病害	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
	虫害	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
野菜	病害	5	4	9	11	9	7	6	5	3	2	2	4	67
	虫害	0	3	1	4	3	1	4	1	0	0	0	0	17
	その他	2	6	5	8	4	3	9	2	2	3	4	2	50
花き	病害	0	2	2	2	1	3	4	1	0	0	0	0	15
	虫害	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1	0	0	6
	その他	0	0	4	1	1	2	1	0	0	1	3	0	13
果樹	病害	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	虫害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	病害	5	8	11	15	10	10	10	7	3	2	2	4	87
	虫害	0	3	2	5	5	1	5	2	0	1	0	0	24
	その他	2	6	11	10	5	6	10	2	2	4	7	2	67

2) 有田川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常緑果樹	病害	19	8	13	8	5	7	3	6	2	2	4	8	85
	虫害	13	25	10	10	6	5	5	4	6	6	2	7	99
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	病害	19	8	13	8	5	7	3	6	2	2	4	8	85
	虫害	13	25	10	10	6	5	5	4	6	6	2	7	99
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3) 紀の川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	8	4	7	6	2	6	1	2	0	1	1	2	40
	虫害	3	1	6	5	0	2	2	2	0	1	4	0	26
	その他	0	0	4	2	1	0	2	0	1	0	0	3	13
常緑果樹	病害	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	虫害	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	病害	8	4	7	6	2	6	1	3	0	2	1	2	42
	虫害	3	2	7	5	0	2	2	2	0	1	4	0	28
	その他	0	0	4	2	1	0	2	0	1	0	0	3	13

4) みなべ駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	12	8	2	0	0	0	0	0	0	0	3	5	30
	虫害	13	7	1	2	1	2	3	0	0	2	2	5	38
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5) 全体

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	病害	44	28	33	29	17	23	14	16	5	6	10	19	244
	虫害	29	37	20	22	12	10	15	8	6	10	8	12	189
	その他	2	6	15	12	6	6	12	2	3	4	7	5	80

VI. 病害虫の発生経過の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	4～7月	少	7月上～中旬の発病株率は0%(平成6.6%)であった。	6月の降雨量が少なかったため。	育苗箱薬剤及び適量施肥。初発時の薬剤防除。
早期水稲	穂いもち	7～8月	並	8月上旬の25株あたり発病穂数は0(平成1.5)であった。		通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付ほ場及び山間地では穂揃い期に追加防除。
早期水稲	紋枯病	5～8月	並	8月上旬の発生ほ場率は33%(平成25%)、であった。		通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。
早期水稲	ばか苗病	5～6月	並	7月上～中旬の発生ほ場率は0%(平成2%)であった。		種子消毒。
早期水稲	もみ枯細菌病	4月、8月	並	8月上旬の発病穂率は0%(平成0%)であった。		育苗箱薬剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
早期水稲	縞葉枯病	6～9月	並	7月上～中旬の発病株率は0%(平成0.1%)であった。		ヒメビウンカの防除。
早期水稲	稲こうじ病	8月	並	8月上旬の発病株率は0%(平成0%)であった。		穂いもちとの同時防除
早期水稲	イネミズゾウムシ	5～8月	並	6月中旬の25株あたり平均虫数は0.3頭(過去4年の平均0.4頭)であった。		育苗箱薬剤の施用。
早期水稲	ツマグロヨコバイ	5～8月	少	25株あたり平均虫数は、7月中旬2.8頭(平成5.5頭)、8月上旬0.8頭(平成3.2頭)であった。	薬剤防除効果が高かった。	7月の薬剤防除。
早期水稲	ヒメビウンカ	5～8月	少	8月上旬の25株あたり平均虫数は1.7頭(平成14.1頭)であった。	薬剤防除効果が高かった。	育苗箱薬剤の施用と7月の薬剤防除。
早期水稲	セジロウンカ	6～8月	少	25株あたり平均虫数は、7月中旬12.3頭(平成57.5頭)、8月上旬0.2頭(平成27.9頭)であった。	飛来量が少なかった。	7月の薬剤防除。
早期水稲	トビイロウンカ	6～8月	少	予察灯への初飛来は、那智勝浦町で6月8日(平成7年7月3日)であった。予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、上富田町3頭(平成1.0頭)、那智勝浦町13頭(平成2.2頭)であった。しかし、8月上旬の25株あたり平均虫数は0頭(平成1.4頭)であった。	薬剤防除効果が高かった。	7月の薬剤防除。
早期水稲	コブノメイガ	6～8月	並	7月中旬の25株あたり平均被害葉数は5.3葉(平成5.7葉)であった。		7月の薬剤防除。
早期水稲	斑点米カメムシ類	7～8月	並	本田における7月中旬の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は1.7頭(平成5.8頭)であった。		畦畔及びほ場周辺の除草。乳熟期の薬剤散布。
普通期水稲	葉いもち	5～8月	少	8月上旬の発病株率は0.3%(平成7.5%)であった。	6月と8月の気温が高かったため。	育苗箱薬剤。適量施肥。初発時の薬剤防除。
普通期水稲	穂いもち	8～9月	少	9月上旬の25株あたりの発病穂数は0(平成2.1)であった。	葉いもちの発生が少なかったため。また、8月の気温が高かったため。	通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付圃場及び山間地では穂揃い期の追加防除。
普通期水稲	紋枯病	6～9月	やや少	9月上旬の発生ほ場率は50%(平成67%)であった。	7月の気温が低かったため。	通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。
普通期水稲	ばか苗病	5～6月	並	8月上旬の発病株率は0%(平成0.1%)であった。		種子消毒。
普通期水稲	もみ枯細菌病	4月、8～9月	並	9月上旬の発病穂率は0%(平成0.01%)であった。		育苗箱薬剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
普通期水稲	縞葉枯病	6～9月	やや少	8月上旬の発病株率は0%(平成0.7%)であった。	ヒメビウンカのイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率が低かったため。	ヒメビウンカの防除。
普通期水稲	稲こうじ病	9月	並	9月上旬の発病株率は0%(平成0%)であった。		穂いもちとの同時防除
普通期水稲	イネミズゾウムシ	6～9月	並	7月中旬の25株あたり平均虫数は0頭(平成0.3頭)であった。		育苗箱薬剤の施用。
普通期水稲	ニカメイガ	6～10月	並	8月上旬の25株あたり被害株数は0.04株(平成0.00株)であった。	近年、少発生傾向が続いている。	1化期:育苗箱薬剤の施用。2化期:8月の薬剤防除。
普通期水稲	ツマグロヨコバイ	6～10月	並	8月上旬の25株あたり平均虫数は2.9頭(平成3.4頭)であった。		育苗箱薬剤の施用。8月の薬剤防除。
普通期水稲	ヒメビウンカ	6～10月	並	8月上旬の25株あたり平均虫数は15.2頭(平成20.6頭)であった。		育苗箱薬剤の施用。
普通期水稲	セジロウンカ	6～10月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月中旬6.9頭(平成40.9頭)、8月上旬10.5頭(平成36.6頭)と平年に比べてやや少ない発生であった。	予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市5頭(平成110.1頭)、上富田町11頭(平成95.5頭)と飛来量が少なかった。	育苗箱薬剤の施用。8月の薬剤防除。
普通期水稲	トビイロウンカ	6～10月	多	25株あたり平均虫数は、県中部では8月上旬12.9頭(平成0.2頭)、9月上旬3.0頭(平成3.7頭)であった。県北部では8月上旬0.2頭(平成0.4頭)、9月上旬0.2頭(平成3.2頭)であったが、9月下旬に和歌山市で多発ほ場が認められ、坪枯れの発生が散見された。	予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市2頭(平成0.7頭)、上富田町3頭(平成1.0頭)、那智勝浦町13頭(平成2.2頭)であった。大陸からの飛来が多かったため。	育苗箱薬剤の施用。8月の薬剤防除。令和元年度病害虫発生予察注意報第2号(8月16日発表)、および第4号(9月27日発表)により注意喚起を実施。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
普通期水稻	コブノメイガ	6～10月	やや少	紀の川市の蛍光灯誘殺箱による7月21日～8月5日の成虫誘殺数は、16頭(平成6.6頭)と多かった。しかし、8月上旬の25株あたり平均被害葉数は0.5葉(平成1.3葉)と平年に比べやや少なかった。		8月の薬剤防除。
普通期水稻	フタオビコヤガ	6～8月	やや少	8月上旬の25株あたり平均虫数は0頭(平成0.4頭)と平年に比べやや少なかった。	近年、少発生傾向が続いている。	8月の薬剤防除。
普通期水稻	斑点米カメムシ類	8～10月	やや多	すくい取り調査(捕虫網20回振り)による8月上旬の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部で88%(平成72%)、11.1頭(平成6.7頭)、県中部で100%(平成75%)、9.5頭(平成7.7頭)であった。	7、8月の高温の影響と考えられる。	畦畔及びほ場周辺の除草。乳熟期の薬剤散布。
トマト(冬春)	疫病	12～6月	並	発生は認められなかった。		薬剤防除
トマト(冬春)	灰色かび病	12～6月	やや少	3月中旬の発生ほ場率は0%(過去3年の平均9%)であった。	3月の気温が高く降雨量が少なかったため。	薬剤防除
トマト(冬春)	黄化葉巻病	12～6月	やや少	3月中旬の発生ほ場率は0%(過去3年の平均12%)であった。		タバココナジラムの防除
トマト(冬春)	葉かび病	12～6月	—	3月中旬の発生ほ場率は40%(前年40%)であった。		薬剤防除
トマト(冬春)	モザイク病	12～6月	並	3月中旬の発生ほ場率は0%(過去3年平均0%)であった。		薬剤防除
トマト(冬春)	アブラムシ類	12～6月	並	5月中旬の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		
トマト(冬春)	タバココナジラム	12～6月	並	5月中旬の発生ほ場率は40%(平成27%)、生息率は1.0%(平成2.6%)であった。		防虫ネットの展張。薬剤防除
トマト(夏秋)	疫病	5～11月	やや少	7月下旬の発生ほ場率は0%(平成10%)であった。	7月の気温が低かったため。	薬剤防除
トマト(夏秋)	灰色かび病	5～11月	並	7月下旬の発生ほ場率は0%(過去4年平均0%)であった。		薬剤防除
トマト(夏秋)	黄化葉巻病	6～11月	多	8月中旬の発生ほ場率は100%(平成61%)であった。	薬剤抵抗性の発達したバイオタイプQが発生しているため。	タバココナジラムの防除 病害虫発生予察注意報第3号(8月23日発表)により注意喚起。
トマト(夏秋)	葉かび病	6～11月	やや少	7月下旬の発生ほ場率は33%(過去3年平均59%)、発病率は0.9%(過去3年平均12.7%)であった。	7月の気温が低かったため。	薬剤防除
トマト(夏秋)	モザイク病	6～11月	並	7月下旬の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	うどんこ病	12～6月	やや多	5月中旬の発生ほ場率は22%(過去8年の平均8%)であった。	3月の気温が高かったため。また、5月の降雨量が多かったため。	薬剤防除
ナス(冬春)	灰色かび病	12～5月	やや少	5月中旬の発生ほ場率は0%(過去5年の平均10%)であった。	3月の気温が高く降雨量が少なかったため。また、5月の気温が高かったため。	薬剤防除
ナス(冬春)	アブラムシ類	9～6月	並	5月中旬の生息率は、モモアカアブラムシ0%(平成0.7%)、ワタアブラムシ0%(平成0.1%)であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	ハダニ類	9～6月	並	5月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は11%(平成11%)、生息率は0.4%(平成1.5%)、ナミハダニの発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	9～6月	並	5月中旬の発生ほ場率は33%(平成27%)、生息率は8.9%(平成6.9%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	うどんこ病	4～10月	並	6月中旬の発生ほ場率は10%(過去5年の平均0%)、発病率は0.1%(過去5年の平均0%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	灰色かび病	4～10月	並	6月中旬の発生ほ場率は0%(過去5年の平均3%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	ミナミキイロアザミウマ	5～11月	並	9月中旬の発生ほ場率は43%(平成58%)、生息率は8.0%(平成21.1%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	アブラムシ類	5～11月	やや少	6月中旬の生息率は、モモアカアブラムシ0%(平成3.5%)、ワタアブラムシ0%(平成4.4%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	ハダニ類	5～11月	並	7月下旬の発生ほ場率および生息率は、カンザワハダニでそれぞれ22%(平成27%)、7.1%(平成8.3%)であった。ナミハダニの発生は認められなかった(平成発生ほ場率13%、生息率3.4%)。		薬剤防除
ナス(夏秋)	ハスモンヨトウ	7～11月	やや少	9月中旬の発生ほ場率は0%(平成19%)であった。		薬剤防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キュウリ(冬春)	べと病	10～6月	やや少	発生ほ場率は、5月中旬の県北部で17%(平成42%)、5月中旬の県中部で75%(平成56%)であった。	3月の降雨量が少なかったため。	薬剤防除
キュウリ(冬春)	うどんこ病	10～6月	並	発生ほ場率は、5月中旬の県北部で17%(平成22%)、5月中旬の県中部で100%(平成83%)であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	灰色かび病	10～6月	並	発生ほ場率は、5月中旬の県北部で0%(過去8年の平均3%)、5月中旬の県中部で0%(過去9年の平均0%)であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	褐斑病	10～6月	並	発生ほ場率は、5月中旬の県北部で17%(過去9年の平均5%)、5月中旬の県中部で58%(過去5年の平均52%)であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	アブラムシ類	9～6月	並	4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は20%(過去5年の平均11%)、生息葉率0.2%(過去5年の平均0.2%)であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	9～6月	並	4月中旬の発生ほ場率50%(過去5年の平均37%)、生息葉率0.7%(過去5年の平均3.5%)であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	タバココナジラミ	9～6月	並	4月中旬の発生ほ場率は20%(過去5年の平均17%)、生息葉率0.4%(過去5年の平均0.5%)であった。		薬剤防除
スイカ	つる枯病	5～7月	並	6月中旬の発生ほ場率は、県北部で0%(平成0%)、県中部で0%(平成8%)であった。		薬剤防除
スイカ	炭疽病	5～7月	並	6月中旬の発生ほ場率は、県北部で0%(過去8年の平均9%)、県中部で0%(過去8年の平均17%)であった。		薬剤防除
スイカ	疫病	5～7月	並	6月中旬の発生ほ場率は、県北部で0%(平成0%)、県中部で0%(平成0%)であった。		薬剤防除
スイカ	アブラムシ類	3～8月	並	6月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は70%(平成61%)、生息葉率は6.9%(平成6.5%)であった。		薬剤防除
スイカ	シロイチモジヨトウ	4～8月	少	6月中旬の発生ほ場率は20%(平成47%)、被害果率は1.0%(平成5.8%)であった。	交信攪乱剤による防除効果	薬剤防除 交信攪乱剤による防除
ハクサイ(秋冬)	軟腐病	9～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均2%)であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	白斑病	9～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均3%)であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	べと病	10～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均0%)であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	黒斑病	10～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均0%)であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	モザイク病	9～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均0%)であった。		アブラムシ類防除
キャベツ(春)	黒腐病	3～4月	並	4月中旬の発生ほ場率は0%(過去4年の平均0%)であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	菌核病	3～4月	やや多	3月下旬の発生ほ場率は100%(過去4年の平均61%)、発病株率は7.4%(過去4年の平均3.2%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
キャベツ(春)	アブラムシ類	12～4月	並	4月中旬の発生ほ場率は、モモアカアブラムシ11.3%(平成13.5%)、ニセダイコンアブラムシ0%(平成1.1%)であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	モンシロチョウ	4月	やや多	4月中旬の発生ほ場率は25%(平成15%)であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	コナガ	12～4月	並	4月中旬の発生ほ場率は25%(平成12%)、1株当たり発生密度は0.01頭(平成0.02頭)であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	ヨトウガ	4月	やや少	4月中旬の発生ほ場率は0%(平成1.3%)であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	黒腐病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%(過去9年の平均1%)であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	菌核病	10～12月	並	12月の発生ほ場率は18%(過去6年の平均11%)であった。		薬剤防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キャベツ(冬)	アブラムシ類	9～3月	やや少	10月のモモアカアブラムシの発生ほ場率は25%(平成24%)、生息株率は1.9%(平成3.2%)であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は13%(平成45%)、生息株率は0.6%(平成10.5%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
キャベツ(冬)	モンシロチョウ	9～10月	やや少	10月の発生ほ場率は0%(平成16%)、生息株率1.4%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
キャベツ(冬)	コナガ	9～3月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率9%、10株あたり生息密度0.06頭)であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	ヨトウガ	9～3月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率7%、生息株率0.9%)であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	ハスモンヨトウ	9～11月	並	10月の発生ほ場率は13%(平成14%)、生息株率は1.3%(平成1.3%)であった。		薬剤防除
タマネギ	べと病	1～5月	やや少	4月中旬の発生ほ場率は13%(平成26%)であった。	3月の降雨が少なかったため。	薬剤防除
タマネギ	白色疫病	2～4月	やや少	3月中旬の発生ほ場率は13%(平成24%)、発病株率は0.1%(過去8年の平均3.2%)であった。	3月の気温が高く降雨が少なかったため。	薬剤防除
イチゴ	灰色かび病	10～4月	やや少	4月下旬の発生ほ場率は0%(過去3年の平均22%)であった。	3月の気温が高く降雨量が少なかったため。	薬剤防除
イチゴ	うどんこ病	10～4月	並	4月下旬の発生ほ場率は7%(過去3年の平均10%)であった。		薬剤防除
イチゴ	アブラムシ類	9～4月	やや少	4月中旬の発生ほ場率0%(平成16%)、生息率0%(平成1.4%)であった。		薬剤防除
イチゴ	アザミウマ類	9～4月	並	4月中旬のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率50%(過去3年の平均75%)、1花当たり生息密度0.7頭(過去3年の平均1.2頭)、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率17%(平成16%)、1花当たりの生息密度0.01頭(平成0.1頭)であった。		薬剤防除
イチゴ	ハダニ類	9～4月	やや多	4月中旬のナミハダニは発生ほ場率50%(平成37%)、発生率18.3%(平成14.6%)、カンザワハダニは発生ほ場率17%(平成29%)、発生率0.8%(平成8.6%)であった。	薬剤抵抗性の発達。有効な殺ダニ剤が極めて少ない。	薬剤防除。 天敵ブリダニ類の利用。
エンドウ(秋冬)	うどんこ病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成5%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	灰色かび病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均0%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	褐斑病	9～11月	並	10月の発生ほ場率は13%(過去9年の平均5%)、発病率0.2%(過去9年の平均0.2%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	褐紋病	9～11月	やや少	10月の発生ほ場率は0%(過去9年の平均11%)、発病率は0%(過去9年の平均0.4%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	オオタバコガ	9～11月	やや少	10月の発生ほ場率は0%(平成28%)、発生株率5.6%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
エンドウ(秋冬)	ウラナミシジミ	9～12月	並	10月の発生ほ場率は55%(平成50%)、被害株率は18.2%(平成18.9%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	シロイチモジヨトウ	8～10月	並	9月の発生ほ場率は18%(平成29%)、発生株率は4.5%(平成6.9%)であった。		防除ネット被覆、薬剤防除、交信攪乱剤
エンドウ(秋冬)	ハダニ類	9～11月	少	9月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率34%、生息株率13.6%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
エンドウ(秋冬)	ハスモンヨトウ	9～11月	少	9月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率30%、発生株率4.5%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
カンキツ	そうか病	4～7月	並	6～7月は平年に比べやや多く推移したが、10月の発生ほ場率は3%(平成3%)、発病率は0.2%(平成0.3%)で平成並となった。	主感染時期である4～5月の降水量が平成並で推移したため。	常発園では発芽直後に薬剤防除。その他一般防除園では満開期を中心に予防散布。発病果実は摘果処理により除去。
カンキツ	黒点病	6～10月	並	予察ほ場(有田川町奥)における初発は6月17日と平成(6月1日)より遅かった。10月の発生ほ場率は42%(平成60%)、発病率は14.9%(平成16.9%)であった。	気象条件による。	幼果期(5月下旬～6月上旬)から8月下旬にかけてマンゼブ剤およびマンネブ剤の予防散布による基幹防除及び伝染源である枯枝の剪除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カンキツ	かいよう病	5～10月	やや多	10月の発生ほ場率は34%(平成17%)、発病率は0.7%(平成0.7%)であった。	前年の発生が多かったため、本年は伝染源が多かった。	罹病性品種や常発園において、無機銅剤の予防散布による基幹防除及び罹病箇所剪除。
カンキツ	灰色かび病	5～6月	少	6月の発生ほ場率は0%(平成18%)であった。	5月上中旬の降水量が少なかったため。	満開期～落葉期に防除が行われ、被害果は摘果処理により除去。
カンキツ	褐色腐敗病	9～11月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成1%)であった。	気象条件による。	常発園では薬剤防除と罹病果の除去を実施。
カンキツ	貯蔵病害	10～3月	やや少	10月のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病の発生ほ場率は3%(平成20%)であった。	気象条件による。	収穫前にベンゾイミダゾール系薬剤、イミクタジン酢酸塩剤等のいずれかにより防除を実施。
カンキツ	ヤノネカイガラムシ	5～11月	やや少	予察ほ場(有田川町奥)の第1世代幼虫の初発は5月13日で平成(5月17日)よりやや早かったが、その後の発生時期は平成並で経過した。発生量は9月までは平成並で推移し、10月には寄生率0.2%(平成0.4%)、発生ほ場率5%(平成7%)でやや少ない発生となった。	適期の薬剤防除が徹底された。	発生ほ場ではマシン油乳剤、ネオニコチノイド剤による防除を実施。
カンキツ	ミカンハダニ	5～11月	やや少	越冬成虫は平成よりやや多く、その後の発生量も6月まではやや多く推移したが、7月には減少し、10月には寄生率0.7%(平成3.5%)でやや少ない発生となった。	越冬量はやや多かったものの、薬剤防除が徹底され、6月下旬から7月中旬にかけて集中的な降雨があったことによる。	冬季または春季および6月のマシン油乳剤の散布。秋季に専用剤で防除。
カンキツ	ミカンサビダニ	5～11月	並	発生量は9月まではやや少なく経過したが、10月には発生ほ場率2%(平成1%)で平成並の発生となった。	気象条件による。	薬剤防除は梅雨明け時期および秋季の発生時に実施。多発ほ場では落葉期にも実施。
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	5～10月	少	予察ほ場における発生量は年間を通して平成より少なく経過し、10月の被害ほ場率は5%(平成43%)、被害率0.8%(平成7.7%)であった。一部のほ場では被害がみられた。	越冬量が少なかったこと、防除の徹底による。一部のほ場で被害がみられたのは防除の不徹底による。	多発時は専用剤、その他の時期は他の害虫にも適用のある薬剤で防除。
カンキツ	ロウムシ類	6～8月	並	発生量は期間を通じて平成並で推移し、8月の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。	他害虫を防除することにより発生が抑制されている。近年の県内の発生量は少ない。	
カンキツ	アブラムシ類	5～7月	並	春先の新葉におけるワタアブラムシの発生量は平成並であった。6月の夏秋梢におけるユキヤナギアブラムシの発生ほ場率は23%(平成16%)で平成並であった。	ほ場およびほ場周辺での越冬量はやや少なかったが、裏年で新梢の発生が多かったことによる。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布を実施。
カンキツ	カメムシ類	5～11月	やや少	県全域の越冬成虫は平成よりもやや少なく、春季(開花期)のカンキツほ場への飛来はほぼ認められなかった。夏季以降は、紀の川市、有田川町、みなべ町に設置した予察灯での誘殺数は平成に比べやや少なかった。	春季は越冬成虫が平成よりやや少なかったことによる。夏季以降は、新成虫の発生量がやや少なかったことと、スギ・ヒノキのきゅう果量が多く、新成虫が山林を離脱しにくかったことによる。	発生ほ場で薬剤防除を実施。
カンキツ	ミカンハモグリガ	5～10月	やや少	発生時期は平成並で、8月の発生ほ場率は11%(平成25%)で平成に比べやや少なかった。	気象条件による。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布を実施。
カンキツ	ナシマルカイガラムシ	5～10月	並	発生量は年間を通して平成並で推移した。10月の発生ほ場率は0%(平成1%)であった。一部のほ場では多発した。	気象条件による。一部のほ場で多発したのは防除の不徹底による。	発生ほ場では、マシン油乳剤、ネオニコチノイド剤による薬剤防除を実施。
カキ	炭そ病	5～10月	やや多	刀根早生・平核無では9月中旬の発生ほ場率は6%で平成に比べやや多かった。富有では9月中旬の発生ほ場率は18%で平成並であったが、10月中旬には47%と平成に比べやや多かった。	伝染源の除去と薬剤防除が徹底されたが、秋季の連続降雨により発病果が増加した。	生育期(5/下～8/下)と9月に定期防除を実施。
カキ	うどんこ病	5～10月	やや少	5月から発生がみられ始め、9月中旬の発生ほ場率は、富有53%、刀根早生・平核無24%と平成に比べやや少なかった。10月中旬の富有の発生ほ場率は83%で平成並となったが、発生程度はやや低かった。	薬剤による防除が徹底された。また、気象条件が抑制的に働いた。	展葉期(4/下)と6、8月に定期的に防除を実施。
カキ	角斑落葉病	9～10月	並	9月から発生がみられ、10月中旬の発生ほ場率は、富有88%とやや広がったが、程度は平成並であった。	薬剤による防除が徹底された。	主要感染時期の5/下～7/上に重点的な防除を実施。
カキ	円星落葉病	9～11月	並	9月から発生がみられ始め、9月中旬の発生ほ場率は、富有12%、刀根早生・平核無6%、発病程度は平成並であった。10月中旬の発生ほ場率は、富有47%で平成並であった。	薬剤による防除が徹底された。	主要感染時期の5/下～7/上に重点的な防除を実施。
カキ	灰色かび病	5～7月	やや多	6月中旬の果実の発生ほ場率は、富有77%、刀根早生・平核無52%で平成に比べてやや多かった。	5月下旬から6月上旬の降水量は多かった。	灰色かび病を対象とした基幹防除は行われていない。一部の園で臨機防除が実施された。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カキ	カキノヘタムシガ	5～10月	並	9月中旬の発生ほ場率は、富有12%、刀根早生・平核無6%で平年並であった。	薬剤による防除が徹底された。	幼虫発生期の6月上旬、8月上旬に防除を実施。
カキ	ハマキムシ類	5～10月	並	6月から被害果実がみられ、9月中旬の発生ほ場率は、富有41%、刀根早生・平核無29%で、被害果率は平年並であった。	気象条件等による。	
カキ	ハスモンヨトウ	7～10月	並	9月中旬の発生ほ場率は、富有12%、刀根早生・平核無18%で平年並であった。	気象条件等による。	
カキ	フジコナカイガラムシ	4～10月	やや少	9月中旬の発生ほ場率は、富有65%、刀根早生・平核無24%で、被害果率はやや少なかった。10月中旬の発生ほ場率は、富有47%で平年に比べやや少なかった。	薬剤による防除が徹底された。	冬期の粗皮削り、越冬世代の4月上旬および第一世代幼虫の孵化時期である6月中旬に防除を重点的に実施。使用薬剤は有機リン系薬剤やネオニコチノイド系薬剤が主体である。
カキ	コガシラアワフキ	6～7月	やや多	8月中旬の発生ほ場率は、富有12%、刀根早生・平核無6%で平年に比べやや多かった。	気象条件等による。	
カキ	カメムシ類	5～10月	やや少	9月中旬の被害果の発生ほ場率は、富有6%、刀根早生・平核無0%であった。10月中旬の被害果の発生ほ場率は、富有24%で平年に比べやや少なかった。夏以降は予察灯での誘殺数は平年に比べやや少なかった。	チャバナアオカメムシの越冬量は平年に比べ少なかった。新成虫の発生量が少なかったことに加えて、スギ・ヒノキのきゅう果量が多く、新成虫が山林を離脱しにくかったと思われる。	薬剤散布は実施されなかった。
カキ	カンザワハダニ	4～10月	並	7月中旬での刀根早生・平核無の果実被害は平年並であった。	薬剤による防除が徹底された。	5月に防除を実施。
カキ	チャノキイロアザミウマ	4～10月	並	7月中旬の発生ほ場率は、刀根早生・平核無18%で平年並の発生であった。	薬剤による防除が徹底された。	5月、6月に防除を実施。
カキ	カキクダアザミウマ	4～10月	並	7月中旬の被害果の発生ほ場率は、富有6%、刀根早生・平核無0%で平年並であった。	薬剤による防除が徹底された。	5月、7月に防除を実施。
モモ	せん孔細菌病	4～8月	並	4月の枝における発生ほ場率は50%（平年19%）、発病率は2.9%（平年0.9%）で平年に比べ高かった。しかし、6月の袋かけ時期まで気象は安定して推移し病勢は進まなかった。7月の葉における発生ほ場率は100%（平年73%）、発病率は12.2%（平年10.2%）で平年並であったが、発病率は2.9%（平年6.8%）で平年に比べやや低かった。8月の発病率は24.1%（平年18.0%）で、平年に比べやや高かった。	前年8月の発病率は44.9%と高く、前年9月に秋雨前線や台風第21号及び第24号の影響により顕著な多雨・日照が生じ、新たな感染があったと考えられる。そのために、伝染源となる本年4月の発病枝が多かった。しかしその後、6月の袋かけ時期まで気象は安定して推移し、病原菌の活動、果実への感染が抑制されたと考えられる。	秋期と開花前の無機銅水和剤、生育期の抗生物質剤を中心とした薬剤防除を実施。春型発病枝の徹底剪除を実施。風当たりの強い園では、防風ネットや防風樹による防風対策を実施。病害虫発生予察注意報の第1号（4月19日発行）により注意喚起をした。
モモ	灰星病	5～7月	並	発生はほとんどみられなかった。	薬剤による慣行防除が徹底された。	袋かけ前2～3回、袋かけ後2回の防除を実施。
モモ	シンクイムシ類	5～9月	並	ナンヒメシンクイによる新梢への被害は6月からみられ始めた。7月の枝における発生ほ場率は40%で、平年並であった。	薬剤による慣行防除が徹底された。	4月上旬（落弁期）～収穫前にかけて定期的に防除を実施。
モモ	カメムシ類	5～8月	並	調査期間中に園内への飛来はほとんどみられなかった。	チャバナアオカメムシの越冬量は平年に比べ少なかった。その後の予察灯への誘殺数も少なく経過し、モモ園への飛来はほとんどみられなかった。	モモ園への飛来はほとんどみられず、カメムシを対象とした薬剤散布は未実施。
モモ	ハダニ類	5～8月	やや少	カンザワハダニなどの発生は7月からみられた。7月の発生ほ場率は20%で、平年よりやや低かった。	近年発生量は減少傾向にあり、調査期間を通じ少発生で推移した。	ハダニ類を対象とした基幹防除は行われていない。
キウイフルーツ	かいよう病	4～7月?	並	昨年発生した無防除園で、5月中旬に葉の発生が多発状態となったが、全般的に発生はほとんど見られなかった。	一部昨年の台風被害園では、無防除で放置される園もあり、5月中旬には葉での発生は多かったが、枯死にいたるものは少なかった。全般的には、春の低温により発芽が遅く、発生の広がりは認められなかった。	発生園では、生育期の防除も行われた。
ウメ	黒星病	4～7月	並	予察ほ場の無防除樹における初発は5月上旬と平年よりもやや早かった。一般防除園での発生ほ場率は17.6%、発病率は0.2%と平年並であった。		DMI剤、Qol剤、水和硫黄剤等により防除。
ウメ	かいよう病	3～7月	並	予察ほ場の無防除樹における初発は5月上旬と平年よりもやや遅かった。一般防除園での発生ほ場率は44.1%、発病率は2.0%で、平年並であった。		発芽前に無機銅剤、生育期に抗生物質剤により防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ウメ	すす斑病	5～7月	並	予察ほ場の無防除樹における初発は6月中旬と平年並であった。		DMI剤、Qoi剤等により防除。
ウメ	ウメシロカイガラムシ	4～9月	やや多	本年の発生時期は平年並であり、発生ほ場率は79.4%と平年(51.8%)よりもやや多かった。		第1世代幼虫発生期に有機リン剤により防除。多発園では第2世代、第3世代に追加防除。
ウメ	コスカシバ	4～11月	並	発生時期は平年並であり、発生ほ場率26.5%と平年(16.8%)並であった。		フェロモン剤で防除。多発園は枝幹散布剤や捕殺も併用。
ウメ	アブラムシ類	3～7月	多	被害新梢率は平年に比べ多く、発生ほ場率は35.3%と平年(10.3%)よりも多かった。		発芽期にネオニコチノイド剤等で防除。
ウメ	ハダニ類	4～7月	並	発生時期は平年並であり、発生ほ場率は52.9%と平年(55.9%)並であった。		発生に応じて殺ダニ剤で防除。
ウメ	ケムシ類(オビカレハ、マイマイガ、モンクロシャチホコ)	3～9月	並	越冬成虫の飛来数は平年並であった。		防除は行われなかった。

Ⅶ. 作物病害虫の発生状況調査

1. 水稻の生育概況

1. 水稻作付面積の推移

	平成27年 (ha)	平成28年 (ha)	平成29年 (ha)	平成30年 (ha)	令和元年 (ha)	前年比 (%)
作付面積	6,900	6,720	6,560	6,430	6,360	98.9

注)・令和元年の作付面積は令和元年12月10日現在の数値
・近畿農政局調べ

2. 作況および1等米比率の年次推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
穂数 (本/m ²)	358	366	378	361	351
1穂籾数 (粒/穂)	78.7	79.3	76.2	78.9	80.9
m ² 当たり全籾数 (千粒)	28.0	288	288	285	284
玄米千粒重 (g)	22.0	21.9	21.9	22.1	21.6
玄米収量 (kg/10a)	499	507	507	492	494
作況指数	101	102	102	99	99
1等米比率 (%)	29.7	19.1	27.9	15.4	30.5

注)・令和元年の1等米比率は令和元年12月31日現在、その他の項目は令和元年12月10日現在の数値
・近畿農政局調べ

3. 作業時期および出穂期の年次推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
田植期	6月4日	6月3日	6月4日	6月3日	6月4日
出穂期	8月7日	8月6日	8月7日	8月5日	8月8日
刈取期	9月18日	9月20日	9月18日	9月18日	9月18日

注) 令和元年12月10日現在の数値、近畿農政局調べ

4. 品種の作付動向

作付面積が増加した品種：「きぬむすめ」(前年比 114%)
「にこまる」(前年比 191%)
「モチミノリ」(前年比 125%)
作付面積が減少した品種：「キヌヒカリ」(前年比 96%)
「イクヒカリ」(前年比 96%)
「ミネアサヒ」(前年比 96%)

5. 栽培上の変化

近年目立った変化はない。

6. 気象概況、生育状況、被害程度、検査等級

- 1) 田植え後の気温は、気温は6月下旬に平年を上回る時期があったものの、7月中旬までは平年より低く、8月上中旬は平年より高く推移した。日照時間は、6月下旬から7月中下旬にかけて平年を大幅に下回り、7月下旬から8月上旬は平年を上回った。8月下旬中旬は平年を下回ったものの、9月以降は平年を上回った。降水量は、台風の接近により7月下旬および8月中旬には平年を大幅に上回った。
- 2) 水稻の作柄は、穂数がやや少なくなったものの、1穂当たりもみ数がやや多くなったことから全籾数は「平年並み」となった。また、8月下旬の日照不足の影響がみられたものの、9月以降はおおむね天候に恵まれたことから登熟は「平年並み」となった。これらのことから、10a当たりの収量は494kgとなった。また、農家等が使用し

- ているふるい目幅ベースの作況指数は 99 となった。
- 3) 被害は、台風 10 号の強風雨による倒伏、河川の増水による冠水がみられた。また、カメムシや近年発生が少なかったトビイロウンカの被害が平年に比べて多くみられた。
 - 4) 以上の結果、県内の水稲の収穫量（主食用）は 3 万 1,400 t となり、前年産に比べ 200 t 減少した。
 - 5) 水稲うるち玄米の検査等級は令和元年 12 月 31 日現在で、1 等：30.5 %、2 等：59.0 %、3 等：9.6 %、規格外：1.0 %であった。また、2 等以下に格付された理由は形質：55.4 %、着色粒：24.4 %、整粒不足：15.4 %であった。

2. 県予察圃場などにおける定点調査

1) 水稲予察圃場調査

(1) 休閑田におけるツマグロヨコバイ・ヒメトビウンカの発生推移と齢構成

調査 月日	調査地点	調査 圃場 数	ツマグロヨコバイ					ヒメトビウンカ				
			平均 虫数	成虫 合計	幼虫合計			平均 虫数	成虫 合計	幼虫合計		
					若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢
3.15	紀の川市貴志川町高尾	2	0.0	0	0	0	0	9.0	13	0	4	1
3.15	伊都郡かつらぎ町窪	4	62.0	86	3	73	86	2.8	6	0	4	1
3.15	和歌山市小倉	3	19.7	27	0	18	14	7.0	17	0	3	1
4.9	紀の川市貴志川町高尾	4	29.5	118	0	0	0	5.0	20	0	0	0
4.3	伊都郡かつらぎ町窪	4	1.5	6	0	0	0	0.8	3	0	0	0
4.3	和歌山市小倉	3	65.3	194	1	1	0	5.0	14	0	1	0

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数(頭)

(2) 本田(出穂後)における斑点米カメムシ類の発生状況

調査 月日	調査地域	調査 圃場 数	平均 虫数	内訳					
				クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	シラホン カメムシ	ミナミアオ カメムシ	アカスジ カスミカメ	その他
7.12	紀南地域	3	1.7	0	0	1	0	3	1
8.7	紀中地域	4	9.5	19	2	3	1	11	2
8.8	和歌山、海草	5	13.6	14	8	1	0	26	19
8.9	伊都、那賀	3	7.0	0	4	3	0	4	10

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数(頭)

(3) ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

表 ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移

調査地点	平成31年	平成30年	過去10年の年次推移(下段はヒメトビウンカ採集場所)										
			平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	
和歌山市 小倉	4.8 (104)	9.8	保毒虫率 (%)	14.5	10.3	12.2	15.7	10.0	9.1	12.5	4.9	6.0	2.5
			調査地点	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉
和歌山市 直川・紀伊・川永	-	-	保毒虫率 (%)	16.7	15.7	12.7	12.7	11.7	11.8	15.6	3.0	3.5	-
			調査地点	川永	川永	川永	川永	川永	直川・紀伊・川永	直川・紀伊・川永	直川・紀伊・川永	直川・紀伊・川永	直川・紀伊・川永
和歌山市 平尾・明王寺	-	-	保毒虫率 (%)	22.0	20.0	19.2	19.8	18.0	15.9	18.8	5.9	2.8	-
			調査地点	明王寺	平尾・明王寺	平尾・明王寺	明王寺	平尾・明王寺	平尾・明王寺	平尾・明王寺	平尾・明王寺	平尾・明王寺	平尾・明王寺
かつらぎ町 窪	2.0 (50)	12.0	保毒虫率 (%)	11.3	19.1	12.7	15.9	16.9	12.0	17.4	4.9	7.9	1.6
			調査地点	窪	窪	窪	窪	窪	窪	窪	窪	窪	窪

※ヒメトビウンカ採集及び検定は4月上旬～中旬。平成31年は4月3日採集、4月9日検定。平成30年は4月9日採集、4月13日検定。平成30年より調査地点は和歌山市小倉およびかつらぎ町窪の2か所。()内の値は検定虫数(単位:頭)

検定:平成20～27年は高比重ラテックス凝集反応法、平成28年以降はDAS-ELISA法で実施。

3. 水稻巡回圃場調査

調査地域区分

地域 (作型)	市町村	地域別	調査地点	調査圃場数
紀北 (普通期)	和歌山市	中山間	谷	17
		平坦	直川、和佐関戸、朝日、小瀬田	
	海南市	中山間	次々谷	
		平坦	別院	
	海草郡	山間	紀美野町福田	
	紀の川市	平坦	西三谷、井田、貴志川町丸栖	
	岩出市	平坦	中迫	
	橋本市	中山間	山田	
		平坦	赤塚	
	伊都郡	山間	かつらぎ町下天野	
平坦		かつらぎ町西飯降		
有田郡	平坦	広川町広		
紀中 (普通期)	御坊市	平坦	野口	7
	日高郡	山間	日高川町熊野川	
		中山間	印南町印南原、みなべ町西本庄	
		平坦	日高町高家、日高川町和佐	
田辺市A	山間	龍神村甲斐ノ川		
紀南 (早期)	田辺市B	山間	中辺路町栗栖川	6
	西牟婁郡	中山間	上富田町市ノ瀬	
		平坦	白浜町富田、すさみ町周参見立野	
	新宮市	山間	熊野川町日足神丸	
東牟婁郡	中山間	那智勝浦町中里		

水稻巡回圃場調査の日程

調査場所	第1回	第2回	第3回
和歌山市・海南市・海草郡・岩出市	7/17	8/ 8	9/ 4
紀の川市・橋本市・伊都郡	7/16	8/ 9	9/ 6
有田郡・御坊市・日高郡・田辺市A	7/10	8/ 7	9/ 4
田辺市B・西牟婁郡・新宮市・東牟婁郡	6/13	7/12	8/ 9

1) 圃場における病害虫の発生状況

圃場における病害の発生状況(第1回)

2019年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	3	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	12	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	17	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	3	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	7	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
普通期	山間	4	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	5	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	15	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	24	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	6	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
県計	山間	6	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	7	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	17	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	30	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

葉いもち(発病度)・紋枯病(発病度)

$$\text{発病度} = \frac{4 \times A + 3 \times B + 2 \times C + D}{4 \times 25(\text{調査株数})} \times 100$$

葉いもち(発病度)

- A: 下葉は枯死し、完全なズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率50%以上)
- B: かなり病斑が見られ、軽いズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率10%程度)
- C: 病斑がかなり見られた株数(病斑面積率2%程度)
- D: 病斑がわずかに見られた株数(病斑面積率0.5%程度)

紋枯病(発病度)

- A: 止葉が枯死の症状を呈した株数
- B: 大部分の病斑が止葉の葉鞘まで達しているが、止葉には生色があった株数
- C: 大部分の病斑が第2葉鞘まで達した株数
- D: 病斑が第3葉鞘まで達した株数

圃場における病害の発生状況(第1回)平年値

(2009~2018年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	3.9	-	0.1	0.0	0.1	-	0.1	-	0.0	-	-
	中山間	0.1	-	0.1	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.9	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
(紀中) 普通期	山間	0.4	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	1.7	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.9	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	1.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
普通期	山間	2.1	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.7	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.9	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
(紀南) 早期	山間	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.1	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
県計	山間	1.4	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.5	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.7	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-

圃場における害虫の発生状況(第1回)

2019年

作型	地域別	調査筆数	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.0	38.5	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	1.0
	中山間	3	0.7	13.3	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	3.3
	平坦	12	1.7	4.8	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	-	0.0	-	0.0	-	0.3
	計	17	1.3	10.3	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	-	0.0	-	0.0	-	0.9
(紀中) 普通期	山間	2	1.5	9.0	1.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	5.5
	中山間	2	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	平坦	3	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	計	7	1.9	7.0	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	1.6
普通期	山間	4	0.8	23.8	7.5	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	3.3
	中山間	5	2.4	10.0	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	2.0
	平坦	15	1.3	5.3	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	-	0.0	-	0.0	-	0.3
	計	24	1.5	9.3	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	-	0.0	-	0.0	-	1.1
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	9.5	-	0.0	-	0.5	-	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.5	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	計	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	3.8	-	0.0	-	0.2	-	0.0
県計	山間	6	0.5	15.8	5.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	3.2	-	0.0	-	0.2	-	2.2
	中山間	7	1.7	7.1	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	-	0.0	-	0.0	-	1.4
	平坦	17	1.2	4.6	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	-	0.0	-	0.0	-	0.2
	計	30	1.2	7.5	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	-	0.0	-	0.0	-	0.9

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第1回)平年値

(2009~2018年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	1.7	9.2	22.0	0.0	0.0	0.3	0.5	-	0.0	-	0.4	-	0.4	-	1.5
	中山間	2.6	40.8	60.2	0.0	0.0	0.3	0.0	-	0.2	-	0.6	-	0.0	-	1.6
	平坦	1.2	11.1	34.1	0.1	0.0	0.2	0.0	-	0.4	-	0.1	-	0.0	-	0.3
	計	1.5	16.1	37.0	0.1	0.0	0.2	0.1	-	0.3	-	0.2	-	0.0	-	0.6
(紀中) 普通期	山間	1.6	4.2	45.8	0.0	0.0	1.5	0.0	-	0.6	-	0.1	-	0.0	-	2.0
	中山間	2.9	36.0	88.5	2.0	0.0	0.5	0.1	-	0.3	-	0.1	-	0.0	-	0.0
	平坦	0.6	3.9	27.7	1.0	0.0	0.6	0.0	-	0.0	-	0.0	-	0.1	-	0.0
	計	1.5	13.1	50.2	1.0	0.0	0.8	0.0	-	0.2	-	0.0	-	0.0	-	0.6
普通期	山間	1.7	6.7	33.9	0.0	0.0	0.9	0.3	-	0.3	-	0.2	-	0.2	-	1.7
	中山間	2.7	38.6	70.0	0.8	0.0	0.4	0.0	-	0.2	-	0.4	-	0.0	-	1.0
	平坦	1.1	9.6	32.8	0.3	0.0	0.3	0.0	-	0.3	-	0.0	-	0.0	-	0.2
	計	1.5	15.2	40.9	0.3	0.0	0.4	0.1	-	0.3	-	0.2	-	0.0	-	0.6
(紀南) 早期	山間	0.2	0.4	10.1	0.0	0.0	0.0	0.1	-	5.2	-	0.0	-	0.1	-	0.1
	中山間	0.1	0.2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.1	-	3.6	-	0.0	-	0.1	-	1.9
	平坦	1.4	0.1	4.1	0.0	0.0	0.0	0.1	-	1.4	-	0.1	-	0.0	-	0.0
	計	0.6	0.2	5.1	0.0	0.0	0.0	0.1	-	3.4	-	0.0	-	0.0	-	0.6
県計	山間	1.2	4.7	26.0	0.0	0.0	0.6	0.2	-	1.9	-	0.1	-	0.2	-	1.2
	中山間	2.0	27.7	50.7	0.6	0.0	0.3	0.0	-	1.2	-	0.3	-	0.0	-	1.2
	平坦	1.1	8.5	29.4	0.2	0.0	0.2	0.0	-	0.4	-	0.1	-	0.0	-	0.2
	計	1.3	12.2	33.7	0.3	0.0	0.3	0.1	-	0.9	-	0.1	-	0.0	-	0.6

圃場における病害の発生状況(第2回)

2019年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	12	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	17	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
普通期	山間	4	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	15	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	24	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
県計	山間	6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	17	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	30	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第2回)平年値

(2009～2018年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	5.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0
	中山間	1.0	0.0	2.0	0.0	0.5	0.0	0.0	-	0.0	-	0.8
	平坦	1.3	0.0	1.5	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	計	1.6	0.0	1.4	0.0	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
(紀中) 普通期	山間	1.3	0.0	0.5	0.0	0.1	0.0	0.1	-	0.0	-	0.9
	中山間	4.7	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	-	0.0	-	0.9
	平坦	1.8	0.0	0.7	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.4
	計	2.5	0.0	0.6	0.0	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-	0.7
普通期	山間	3.1	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	中山間	2.5	0.0	1.4	0.0	0.5	0.0	0.0	-	0.0	-	0.8
	平坦	1.4	0.0	1.3	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	計	1.9	0.0	1.2	0.0	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
(紀早南) 普通期	山間	3.6	4.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
	中山間	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	1.1
	平坦	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0
	計	1.7	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
県計	山間	3.3	1.6	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	中山間	2.1	0.0	1.0	0.0	0.3	0.0	0.0	-	0.0	-	0.9
	平坦	1.2	0.0	1.2	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.4
	計	1.8	0.3	0.9	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6

圃場における害虫の発生状況(第2回)

2019年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	1.0	48.5	14.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	2.5
	中山間	3	0.7	7.7	5.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	12	4.5	11.0	11.5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	計	17	3.4	14.8	10.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.3
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	3.0	0.5	7.0	0.5	1.5	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	6.0
	中山間	2	6.0	12.0	8.5	14.5	0.0	2.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	3	0.0	27.7	17.0	15.7	0.0	1.7	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	計	7	1.7	16.1	9.9	12.9	0.1	1.7	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	1.7
普通期	山間	4	0.5	25.8	7.5	3.5	0.3	0.8	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	4.3
	中山間	5	2.8	9.4	6.6	6.0	0.0	0.8	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	15	3.6	14.3	12.6	3.3	0.0	0.3	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	計	24	2.9	15.2	10.5	3.9	0.0	0.5	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.7
(紀南) 早期	山間	2	1.0	1.0	4.0	0.0	0.0	8.5	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	2	0.0	7.0	17.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	2	7.5	2.0	16.0	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	計	6	2.8	3.3	12.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
県計	山間	6	0.7	17.5	6.3	2.3	0.2	3.3	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	2.8
	中山間	7	2.0	8.7	9.6	4.3	0.0	0.6	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	17	4.1	12.9	13.0	2.9	0.0	1.2	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	計	30	2.9	12.8	10.9	3.1	0.0	1.5	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.6

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第2回) 平年値

(2009~2018年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	3.9	19.1	23.0	0.1	0.0	0.8	0.0	-	-	0.1	0.1	0.0	-	0.0	2.6
	中山間	4.1	15.9	14.8	0.2	0.0	0.0	0.1	-	-	0.0	0.9	0.0	-	0.0	0.5
	平坦	3.6	27.3	51.5	0.5	0.0	2.0	0.1	-	-	0.0	0.3	0.0	-	0.0	0.2
	計	3.8	24.3	41.6	0.4	0.0	1.5	0.1	-	-	0.0	0.4	0.0	-	0.0	0.5
(紀中) 普通期	山間	1.1	3.9	19.6	0.2	0.0	1.9	0.2	-	-	0.4	1.2	0.0	-	0.0	1.4
	中山間	4.8	17.5	17.7	0.4	0.0	1.1	0.0	-	-	0.1	0.1	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	1.9	12.7	32.2	0.1	0.0	0.2	0.0	-	-	0.1	0.1	0.0	-	0.0	0.1
	計	2.5	11.5	24.5	0.2	0.0	0.9	0.1	-	-	0.2	0.4	0.0	-	0.0	0.4
普通期	山間	2.5	11.5	21.3	0.2	0.0	1.4	0.1	-	-	0.3	0.6	0.0	-	0.0	2.0
	中山間	4.5	16.6	16.1	0.2	0.0	0.4	0.1	-	-	0.0	0.6	0.0	-	0.0	0.3
	平坦	3.2	24.4	47.7	0.4	0.0	1.6	0.1	-	-	0.0	0.2	0.0	-	0.0	0.1
	計	3.4	20.6	36.6	0.3	0.0	1.3	0.1	-	-	0.1	0.4	0.0	-	0.0	0.5
(紀早期) 普通期	山間	1.6	13.1	88.6	0.2	0.0	4.3	0.1	-	-	0.1	0.1	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	2.1	10.8	38.7	0.1	0.0	5.2	0.1	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	1.5
	平坦	12.8	5.3	55.1	0.1	0.0	7.6	0.1	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	0.4
	計	5.5	9.7	57.5	0.1	0.0	5.7	0.1	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	0.6
県計	山間	2.2	12.1	40.6	0.2	0.0	2.4	0.1	-	-	0.2	0.4	0.0	-	0.0	1.3
	中山間	3.8	15.0	22.5	0.2	0.0	1.8	0.1	-	-	0.0	0.4	0.0	-	0.0	0.6
	平坦	4.4	22.1	48.7	0.4	0.0	2.3	0.1	-	-	0.0	0.2	0.0	-	0.0	0.2
	計	3.8	18.4	40.6	0.3	0.0	2.2	0.1	-	-	0.1	0.3	0.0	-	0.0	0.5

圃場における病害の発生状況(第3回)

2019年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち(株数)	葉いもち(発病度)	穂いもち(穂首)	穂いもち(枝こう)	穂いもち(計)	紋枯病(株数)	紋枯病(発病度)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(株数)	もみ枯細菌病(穂数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)	内えい褐変病(穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	11.0	23.5
	中山間	3	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	4.7	0.0	0.0	3.7	5.0
	平坦	12	-	-	0.0	0.0	0.0	2.8	4.8	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	5.7	9.0
	計	17	-	-	0.0	0.0	0.0	2.0	3.4	-	-	0.0	0.0	-	0.8	0.0	0.0	5.9	10.0
(紀中) 普通期	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	5.0	9.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	3	-	-	0.0	0.0	0.0	1.0	1.7	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3
	計	7	-	-	0.0	0.0	0.0	1.9	3.3	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
普通期	山間	4	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	5.5	11.8
	中山間	5	-	-	0.0	0.0	0.0	2.0	3.6	-	-	0.0	0.0	-	2.8	0.0	0.0	2.2	3.0
	平坦	15	-	-	0.0	0.0	0.0	2.5	4.2	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	4.6	7.3
	計	24	-	-	0.0	0.0	0.0	2.0	3.4	-	-	0.0	0.0	-	0.6	0.0	0.0	4.3	7.1
(紀早期) 普通期	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	1.0	0.5	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	4.5	7.0
	中山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.5	4.5
	平坦	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	4.0	9.0
	計	6	-	-	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	3.7	6.8
県計	山間	6	-	-	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	5.2	10.2
	中山間	7	-	-	0.0	0.0	0.0	1.4	2.6	-	-	0.0	0.0	-	2.0	0.0	0.0	2.3	3.4
	平坦	17	-	-	0.0	0.0	0.0	2.2	3.7	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	4.5	7.5
	計	30	-	-	0.0	0.0	0.0	1.6	2.7	-	-	0.0	0.0	-	0.5	0.0	0.0	4.1	7.1

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第3回)平年値

(2009～2018年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	-	13.9	2.3	-	-	0.1	-	0.0	0.0	0.0	8.8
	中山間	-	0.5	4.5	-	-	0.1	-	0.1	0.0	0.0	6.6
	平坦	-	0.8	6.4	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	8.3
	計	-	2.3	5.6	-	-	0.1	-	0.0	0.0	0.0	8.1
(紀中) 普通期	山間	-	0.5	2.4	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	4.3
	中山間	-	8.7	3.7	-	-	0.0	-	0.0	0.2	0.0	5.8
	平坦	-	0.3	2.9	-	-	0.0	-	0.5	0.0	0.0	5.1
	計	-	2.7	3.0	-	-	0.0	-	0.2	0.0	0.0	5.1
普通期	山間	-	9.2	2.3	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	6.3
	中山間	-	3.4	4.4	-	-	0.1	-	0.1	0.1	0.0	6.1
	平坦	-	0.7	5.8	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	7.6
	計	-	2.5	4.9	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	7.1
(紀南) 早期	山間	-	4.5	1.8	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	5.9
	中山間	-	0.0	0.5	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	8.7
	平坦	-	0.0	0.4	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	9.5
	計	-	1.5	0.9	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	8.1
県計	山間	-	6.9	2.2	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	6.5
	中山間	-	2.5	3.2	-	-	0.1	-	0.0	0.0	0.0	6.9
	平坦	-	0.6	5.1	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	7.9
	計	-	2.3	4.1	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	7.3

圃場における害虫の発生状況(第3回)

2019年

作型	地域別	調査筆数	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	14.0	9.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	3	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	12	2.6	20.8	9.4	0.3	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	17	3.5	16.1	7.5	0.2	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
(紀中) 普通期	山間	2	4.0	6.0	5.0	1.5	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	2	15.0	15.0	10.0	6.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	3	3.3	45.0	16.3	2.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	7	6.9	25.3	11.3	3.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
普通期	山間	4	9.0	7.5	5.5	0.8	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	5	6.0	7.2	4.6	2.4	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	15	2.7	25.7	10.8	0.7	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	24	4.5	18.8	8.6	1.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
(紀早期)	山間	2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	2	2.5	4.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	6	0.8	1.7	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
県計	山間	6	6.0	5.2	3.7	0.5	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	7	5.0	6.3	3.4	1.7	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	17	2.4	22.7	9.5	0.6	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	30	3.7	15.4	6.9	0.8	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第3回) 平年値

(2009~2018年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	6.1	18.3	17.0	2.3	0.0	1.5	0.0	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	8.0	12.5	6.8	0.3	0.0	6.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	3.8	17.0	13.9	4.1	0.0	12.4	0.0	-	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	5.0	16.3	12.9	3.2	0.0	10.0	0.0	-	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
(紀中) 普通期	山間	11.7	7.1	30.5	6.3	0.0	4.2	0.1	-	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	8.2	12.8	14.1	3.7	0.0	27.7	0.0	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	0.3	30.1	8.3	1.9	0.0	5.5	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	5.8	18.6	16.3	3.7	0.0	11.5	0.0	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
普通期	山間	8.3	12.5	22.4	4.0	0.0	2.7	0.0	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	8.0	12.3	9.5	1.3	0.0	13.6	0.0	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	3.1	19.3	13.1	3.6	0.0	10.9	0.0	-	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	5.1	16.7	14.0	3.2	0.0	10.1	0.0	-	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
(紀南) 早期	山間	0.7	4.2	4.9	0.0	0.0	3.1	0.1	-	-	0.1	0.0	0.1	-	0.0	-
	中山間	3.2	20.2	53.7	2.3	0.0	5.5	0.1	-	-	0.1	0.2	0.2	-	0.0	-
	平坦	5.7	17.7	24.8	1.9	0.0	0.1	0.0	-	-	0.1	0.2	0.0	-	0.0	-
	計	3.2	14.1	27.9	1.4	0.0	2.8	0.0	-	-	0.1	0.1	0.1	-	0.0	-
県計	山間	5.8	9.6	18.1	2.7	0.0	2.7	0.0	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	6.8	14.7	21.8	1.6	0.0	11.3	0.0	-	-	0.1	0.1	0.0	-	0.0	-
	平坦	3.4	19.1	14.5	3.4	0.0	9.6	0.0	-	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	4.7	16.1	16.6	2.9	0.0	8.6	0.0	-	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要病害の発生程度別面積(第1回)

2019年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉 い もち	穂 い もち	紋 枯 病	萎 縮 病	縞 葉 枯 病	も み 枯 細 菌 病	ば か 苗 病	ご ま 葉 枯 病	白 葉 枯 病	稲 こ う じ 病	内 え い 褐 変 病
紀北 (普通期) 3999	発生面積	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
紀中 (普通期) 1347	発生面積	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
普通期計 5346	発生面積	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
紀南 (早期) 1084	発生面積	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
県計 6430	発生面積	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-

発生程度基準: 葉いもち: 25株あたり病株数、少 \leq 10、10 $<$ 中 \leq 18、18 $<$ 多 \leq 23、甚 $>$ 23
穂いもち: 25株あたり病穂数、少 \leq 50、50 $<$ 中 \leq 200、200 $<$ 多 \leq 350、甚 $>$ 350
紋枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 10、10 $<$ 中 \leq 18、18 $<$ 多 \leq 23、甚 $>$ 23
萎縮病: 25株あたり病株数、少 \leq 5、5 $<$ 中 \leq 10、10 $<$ 多 \leq 17、甚 $>$ 17
縞葉枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 5、5 $<$ 中 \leq 10、10 $<$ 多 \leq 17、甚 $>$ 17
もみ枯細菌病: 25株あたり病株数、少 \leq 3、3 $<$ 中 \leq 8、8 $<$ 多 \leq 15、甚 $>$ 15
馬鹿苗病: 25株あたり病株数、少 \leq 1、1 $<$ 中 \leq 3、3 $<$ 多 \leq 7、甚 $>$ 7
ごま葉枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 10、10 $<$ 中 \leq 18、18 $<$ 多 \leq 23、甚 $>$ 23
白葉枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 12、12 $<$ 中 \leq 20、20 $<$ 多 \leq 25、甚 $>$ 25
稲こうじ病: 25株あたり病株数、少 \leq 1、1 $<$ 中 \leq 3、3 $<$ 多 \leq 7、甚 $>$ 7
内えい褐変病: 25株あたり病株数、少 \leq 5、5 $<$ 中 \leq 10、10 $<$ 多 \leq 20、甚 $>$ 20

主要害虫の発生程度別面積(第1回)

2019年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イチモンジセセリ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ類	フタオビコヤガ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ		
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 3999	発生面積	1176	2823	2823	0	0	470	0	0	706	-	0	-	0	-	706	2823		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	235	0		
	少	1176	2823	2823	0	0	470	0	0	706	-	0	-	0	-	470	2823		
紀中 (普通期) 1347	発生面積	770	962	192	0	0	192	0	0	192	-	0	-	0	-	385	770		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	192	0		
	少	770	962	192	0	0	192	0	0	192	-	0	-	0	-	192	770		
普通期計 5346	発生面積	1946	3785	3015	0	0	663	0	0	898	-	0	-	0	-	1091	3593		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	428	0		
	少	1946	3785	3015	0	0	663	0	0	898	-	0	-	0	-	663	3593		
紀南 (早期) 1084	発生面積	0	0	0	0	0	0	0	361	723	-	0	-	181	-	0	0		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	181	-	0	-	0	-	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0		
	少	0	0	0	0	0	0	0	361	542	-	0	-	181	-	0	0		
県計 6430	発生面積	1946	3785	3015	0	0	663	0	361	1621	-	0	-	181	-	1091	3593		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	181	-	0	-	0	-	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	428	0		
	少	1946	3785	3015	0	0	663	0	361	1440	-	0	-	181	-	663	3593		

発生程度基準: ツマグロヨコバイ: 25株あたり虫数、(第1回)少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚>250

ヒメトビウンカ: 25株あたり虫数、少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚>250

セジロウンカ: 25株あたり虫数、少≤250、250<中≤1250、1250<多≤2500、甚>2500

トビイロウンカ: 25株あたり虫数、少≤125、125<中≤525、525<多≤1250、甚>1250

ニカメイガ: 25株あたり被害株数、少≤7、7<中≤15、15<多≤22、甚>22

コブノメイガ: 25株あたり被害葉数、少≤20、20<中≤60、60<多≤180、甚>180

イチモンジセセリ: 25株あたりつと数、少≤10、10<中≤20、20<多≤40、甚>40

イネミズゾウムシ: 25株あたり虫数、少≤5、5<中≤20、20<多≤40、甚>40

イネゾウムシ: 25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚>20

フタオビコヤガ: 25株あたり虫数、少≤25、25<中≤100、100<多≤250、甚>250

ハモグリバエ: 25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚>20

イナゴ: 25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚>20

主要病害の発生程度別面積(第2回)

2019年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3999	発生面積	470	0	235	0	0	-	0	-	0	-	0
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	少	470	0	235	0	0	-	0	-	0	-	0
紀中 (普通期) 1347	発生面積	0	0	192	0	0	-	0	-	0	-	0
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	少	0	0	192	0	0	-	0	-	0	-	0
普通期計 5346	発生面積	470	0	428	0	0	-	0	-	0	-	0
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	少	470	0	428	0	0	-	0	-	0	-	0
紀南 (早期) 1084	発生面積	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	少	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
県計 6430	発生面積	470	0	428	0	0	-	0	-	0	-	0
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	少	470	0	428	0	0	-	0	-	0	-	0

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第2回)

2019年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑点	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノメイ	モン	ミズ	ゾウ	米カ	オビ	ヨト	グリ	シン	ナゴ	ミリン
		コ	ウ	ン	ウ	ガ	メイ	ジ	ズ	ム	カ	コ	ト	バ	ガ	レ	ン
		バイ	ン	カ	ン		ガ	セ	ウ	シ	メ	ヤ	ウ	エ	レ	セ	ン
			カ		カ			セ	ム		ム	ガ			セ	チ	ユ
								リ	シ		シ				ウ		
紀北 (普通期) 3999	発生面積	2352	3293	3058	470	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	470	2823
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	少	2352	3293	3058	470	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	470	2823
紀中 (普通期) 1347	発生面積	192	1347	1155	962	192	770	0	0	-	0	0	0	-	0	385	770
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	192	0
	少	192	1347	1155	962	192	770	0	0	-	0	0	0	-	0	192	770
普通期計 5346	発生面積	2545	4640	4213	1433	192	770	0	0	-	0	0	0	-	0	855	3593
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	192	0
	少	2545	4640	4213	1433	192	770	0	0	-	0	0	0	-	0	663	3593
紀南 (早期) 1084	発生面積	361	723	903	0	0	723	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	少	361	723	903	0	0	723	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
県計 6430	発生面積	2906	5363	5116	1433	192	1492	0	0	-	0	0	0	-	0	855	3593
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	192	0
	少	2906	5363	5116	1433	192	1492	0	0	-	0	0	0	-	0	663	3593

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第2回)少≤125、125<中≤375、375<多≤750、甚>750

斑点米カメムシ類:25株あたり虫数、少≤1、1<中≤4、4<多≤10、甚>10

アワヨトウ:25株あたり虫数、少≤10、10<中≤30、30<多≤100、甚>100

シンガレセンチュウ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚>20

その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(第3回)

2019年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3999	発生面積	-	0	1882	0	-	0	0	235	0	0	3058
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	706
	中	-	0	0	0	-	0	0	235	0	0	1176
	少	-	0	1882	0	-	0	0	0	0	0	1176
紀中 (普通期) 1347	発生面積	-	0	770	0	-	0	0	0	0	0	192
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	中	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	少	-	0	770	0	-	0	0	0	0	0	192
普通期計 5346	発生面積	-	0	2652	0	-	0	0	235	0	0	3250
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	706
	中	-	0	0	0	-	0	0	235	0	0	1176
	少	-	0	2652	0	-	0	0	0	0	0	1369
紀南 (早期) 1084	発生面積	-	0	361	0	-	0	0	0	0	0	903
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	中	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	361
	少	-	0	361	0	-	0	0	0	0	0	542
県計 6430	発生面積	-	0	3013	0	-	0	0	235	0	0	4154
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	706
	中	-	0	0	0	-	0	0	235	0	0	1538
	少	-	0	3013	0	-	0	0	0	0	0	1911

発生程度基準: その他病害は第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第3回)

2019年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イチモンジセセリ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ類	フタオビコヤガ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ		
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 3999	発生面積	1411	3529	2117	470	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	中	0	235	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	少	1411	3293	2117	470	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
紀中 (普通期) 1347	発生面積	1155	1347	1347	1155	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	中	0	385	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	少	1155	962	1347	1155	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
普通期計 5346	発生面積	2566	4876	3464	1625	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	中	0	620	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	少	2566	4255	3464	1625	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
紀南 (早期) 1084	発生面積	181	542	181	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	少	181	542	181	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
県計 6430	発生面積	2747	5418	3645	1625	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	中	0	620	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		
	少	2747	4797	3645	1625	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-		

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第3回)少≤125、125<中≤375、375<多≤750、甚>750
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(年計)

2019年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉 いもち	穂 いもち	紋 枯病	萎 縮病	縞 葉枯病	も み枯 細菌病	ば か 苗病	ご ま 葉 枯病	白 葉 枯病	稲 こ う じ 病	内 え い 褐 変 病
紀北 (普通期) 3999	発生面積	470	0	1882	0	0	0	0	235	0	0	3058
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	706
	中	0	0	0	0	0	0	0	235	0	0	1176
	少	470	0	1882	0	0	0	0	0	0	0	1176
紀中 (普通期) 1347	発生面積	0	0	770	0	0	0	0	0	0	0	192
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	0	0	770	0	0	0	0	0	0	0	192
普通期計 5346	発生面積	470	0	2652	0	0	0	0	235	0	0	3250
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	706
	中	0	0	0	0	0	0	0	235	0	0	1176
	少	470	0	2652	0	0	0	0	0	0	0	1369
紀南 (早期) 1084	発生面積	0	0	361	0	0	0	0	0	0	0	903
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	361
	少	0	0	361	0	0	0	0	0	0	0	542
県計 6430	発生面積	470	0	3013	0	0	0	0	235	0	0	4154
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	706
	中	0	0	0	0	0	0	0	235	0	0	1538
	少	470	0	3013	0	0	0	0	0	0	0	1911

主要害虫の発生程度別面積(年計)

2019年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノ	モン	ミズ	ネ	点	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミリン
		コ	ウ	ウ	ウ	ガ	メイ	ジ	ズ	ム	米	コ	ト	バ	ガ	ゴ	ン
		バイ	ン	ン	ン		ガ	セ	ウ	シ	カ	ヤ	エ	レ	セ	ン	ゴ
		イ	カ	カ	カ			セ	ム	シ	メ	ガ		セ	ン	ゴ	ガ
								リ	シ		ム			ン	ン	イ	イ
											シ			ン	ン	ゴ	イ
											類			ン	ン	イ	イ
														ン	ン	ゴ	イ
														ン	ン	ゴ	イ
紀北 (普通期) 3999	発生面積	2352	3529	3058	470	0	470	0	0	706	0	0	0	0	0	706	2823
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	235	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	235	0
	少	2352	3293	3058	470	0	470	0	0	706	0	0	0	0	0	470	2823
紀中 (普通期) 1347	発生面積	1155	1347	1347	1155	192	770	0	0	192	0	0	0	0	0	385	770
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	192	0
	少	1155	1347	1347	1155	192	770	0	0	192	0	0	0	0	0	192	770
普通期計 5346	発生面積	3507	4876	4405	1625	192	1240	0	0	898	0	0	0	0	0	1091	3593
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	235	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	428	0
	少	3507	4640	4405	1625	192	1240	0	0	898	0	0	0	0	0	663	3593
紀南 (早期) 1084	発生面積	361	723	903	0	0	723	0	361	723	0	0	0	181	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	181	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	361	723	903	0	0	723	0	361	542	0	0	0	181	0	0	0
県計 6430	発生面積	3868	5598	5308	1625	192	1963	0	361	1621	0	0	0	181	0	1091	3593
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	181	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	235	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	428	0
	少	3868	5363	5308	1625	192	1963	0	361	1440	0	0	0	181	0	663	3593

4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況

1) 予察灯 (60W白熱灯)

単位：頭

月 半月	ニカメイガ						ツマグロヨコバイ						ヒメトビウンカ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
5 3	0	0.0	0	0.0	欠	0.0	0	0.0	0	0.1	欠	0.1	0	0.0	0	0.0	欠	0.0
4	0	0.1	0	0.0	欠	0.0	0	0.0	0	0.0	欠	0.0	0	0.0	0	0.1	欠	0.1
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	1	1.2	0	1.1	0	0.0	0	0.0	2	0.4
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	0.3	1	1.3	1	0.9	0	0.3	1	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.4	0	10.8	0	1.7	1	0.3	0	0.2	0	0.4
6 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	4.4	6	5.3	0	0.5	0	0.0	0	0.2
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	12.3	4	7.0	0	1.2	0	0.1	0	0.8
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	1	17.3	3	4.1	0	0.7	0	0.2	0	0.5
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	9.2	2	3.2	1	0.6	0	0.0	0	0.1
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	2	2.7	9	36.0	0	2.4	0	0.1	0	0.3
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	3.7	14	29.6	0	0.4	0	0.2	3	0.2
7 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.4	6	4.5	22	75.3	1	0.8	0	0.5	1	5.4
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	20.2	31	119.5	0	1.2	0	0.1	1	1.1
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	3.6	9	38.2	57	88.0	1	1.9	0	0.6	0	1.7
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	3.8	3	16.9	56	73.7	1	1.3	0	0.3	0	1.9
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	2.1	17	2.3	39	21.7	1	5.5	5	0.1	0	10.2
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.2	9	1.4	2	22.0	0	9.3	0	0.3	0	2.9
8 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	3.8	3	2.3	17	45.9	2	7.0	0	0.4	0	9.6
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.7	2	0.6	15	94.3	3	3.5	0	0.4	0	10.8
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.4	1	0.4	12	126.6	6	8.8	1	0.1	0	2.8
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	2.2	1	0.4	31	97.1	0	4.0	1	0.2	5	4.7
合 計	0	0.3	0	0.0	0	0.0	39	24.9	60	151.4	321	853.5	17	49.9	8	4.1	12	54.6

単位：頭

月 半旬	セジロウンカ						トビイロウンカ						イネミズゾウムシ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	0.1	2	0.9
6	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.7
1	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	6.1	0	1.5
2	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	7.8	0	5.4
5 3	0	0.0	0	0.0	欠	0.1	0	0.0	0	0.0	欠	0.0	0	0.0	3	7.7	欠	8.2
4	0	0.0	0	0.2	欠	0.0	0	0.0	0	0.0	欠	0.0	0	0.0	0	4.0	欠	1.8
5	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	9.8	0	6.3
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	4	3.1	0	1.4
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	1	2.2	2	0.9
2	1	0.1	1	1.3	0	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.6	0	1.1
6 3	0	1.6	0	0.9	0	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	1	1.6	1	1.6
4	0	28.3	0	22.2	1	13.1	0	0.1	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.8
5	0	25.9	0	28.0	0	5.9	0	0.0	0	0.2	0	0.3	0	0.0	0	0.6	0	0.1
6	0	4.1	4	4.4	10	3.8	1	0.0	0	0.1	9	0.1	0	0.0	0	2.1	0	1.1
1	0	35.6	0	27.0	1	20.7	0	0.3	0	0.4	0	0.6	0	0.0	0	1.0	1	2.7
2	0	2.8	0	3.0	11	19.7	0	0.0	1	0.0	1	0.2	0	0.0	0	1.4	1	4.7
7 3	2	10.7	5	5.9	14	15.8	1	0.2	2	0.0	2	0.4	0	0.0	1	1.4	0	5.7
4	2	1.0	1	2.8	1	5.5	0	0.1	0	0.0	0	0.4	0	0.0	2	0.2	16	8.1
5	0	6.6	0	6.9	0	23.0	0	0.3	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.8	6	5.9
6	2	5.7	1	3.7	0	23.3	0	0.6	0	0.3	0	0.3	0	0.0	0	0.9	2	6.7
1	1	6.1	11	1.1	1	16.8	0	0.5	2	0.1	1	0.0	0	0.0	1	0.9	2	4.2
2	1	27.1	0	2.0	0	7.5	2	0.4	2	0.0	3	11.9	0	0.0	0	0.8	0	3.8
8 3	1	14.2	0	1.7	0	21.0	0	0.7	1	0.2	13	2.4	0	0.0	0	1.8	2	2.4
4	3	30.3	1	8.7	0	92.6	2	0.6	2	0.6	15	8.9	0	0.0	3	0.1	0	1.3
5	10	15.3	32	1.8	14	76.4	8	1.4	23	7.9	66	8.8	0	0.0	1	0.2	0	0.6
6	13	6.4	3	1.9	41	126.7	25	2.6	49	2.3	236	14.9	0	0.0	0	0.1	0	0.3
合 計	36	221.9	59	123.6	94	475.2	39	7.9	82	12.4	348	49.8	0	0.1	24	55.9	36	78.7

斑点米カメムシ類

紀の川市		単位：頭				
月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	1
1	0	0	0	0	0	1
2	0	0	0	0	0	1
6 3	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	1
6	1	0	0	0	0	5
1	0	0	0	0	0	2
2	1	1	0	0	0	2
7 3	1	0	0	0	1	5
4	0	0	0	0	0	18
5	1	0	0	0	0	13
6	0	0	0	0	1	23
1	1	0	0	0	0	5
2	3	1	0	0	0	3
8 3	6	2	1	1	1	12
4	1	0	0	1	0	6
5	0	0	0	0	0	3
6	1	0	1	1	0	4
合計	16	4	2	3	3	105

上富田町		単位：頭				
月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	1
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	1
1	0	0	0	0	0	5
2	0	0	0	0	1	0
6 3	0	0	0	0	0	1
4	0	0	0	0	0	15
5	0	0	0	0	0	14
6	0	0	0	0	31	2
1	0	0	0	0	35	3
2	0	0	0	0	34	5
7 3	0	0	0	0	23	0
4	0	0	0	0	8	2
5	0	0	0	2	3	0
6	0	0	0	0	1	0
1	0	0	0	0	0	9
2	0	0	0	0	0	2
8 3	0	0	0	0	0	2
4	0	0	0	0	1	0
5	0	0	0	0	3	1
6	0	0	0	0	4	2
合計	0	0	0	2	144	65

那智勝浦町

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	1
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
5 3	欠	欠	欠	欠	欠	欠
4	0	0	0	0	0	1
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	6
2	0	0	0	0	0	9
6 3	0	0	0	0	0	21
4	0	0	0	0	0	31
5	0	0	0	0	0	14
6	2	0	0	0	0	11
1	0	0	0	0	0	2
2	0	0	0	0	0	1
7 3	0	0	0	0	0	3
4	0	0	0	0	0	2
5	1	0	0	0	0	13
6	1	0	0	0	0	7
1	6	0	0	0	0	19
2	19	0	0	0	1	16
8 3	3	3	1	0	21	8
4	8	3	0	0	19	6
5	5	3	0	0	6	5
6	3	2	0	0	1	20
合 計	48	11	1	0	48	196

2) フェロモントラップ

ニカメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.1
	2	0	0.8
4	3	0	0.7
	4	0	0.3
	5	0	0.9
	6	0	0.3
<hr/>			
	1	0	0.6
	2	0	0.3
5	3	0	0.3
	4	0	0.3
	5	0	0.3
	6	0	0.1
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.0
6	3	0	0.1
	4	0	0.6
	5	0	0.1
	6	0	0.3
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.4
7	3	0	0.3
	4	0	0.1
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.1
	4	0	0.0
	5	0	0.1
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
9	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.1
<hr/>			
合 計		0	8.0

3) 蛍光灯誘殺箱 (15W)

コブノメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.0
	2	0	0.0
6	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
7	3	0	0.1
	4	2	1.3
	5	8	2.9
	6	4	2.8
<hr/>			
	1	4	0.9
	2	欠	1.8
8	3	欠	2.1
	4	—	—
	5	—	—
	6	—	—
<hr/>			
合 計		18	11.9

Ⅷ. 野菜・花き病害虫の発生状況調査

1. 巡回調査における発生状況

1) キャベツ

①キャベツにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	黒腐病		菌核病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10.18	17	0	0	0	0	-	-
12.20	17	0	0	18	1.8	-	-
3.18	19	0	0	63	2.7	58	1.7
4.15	16	0	0	88	3.8	44	0.4

注) 1圃場100株調査

②キャベツにおける害虫の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				コナガ		モンシロチョウ	
		モモアカアブラムシ		ニセダイコンアブラムシ		発生圃場率 (%)	生息密度 (頭/株)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)				
4.18	8	38	11.3	0	0	25	0.01	25	1.9
10.17	8	25	1.9	13	0.6	0	0	0	0.0
3.17	7	14	0.7	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ヨトウガ		ハスモンヨトウ		ウワバ類		オオタバコガ		シロイチモジヨトウ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
4.18	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10.17	8	0	0	13	1.3	0	0	0	0	0	0
3.17	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場20株調査。

2) ハクサイ

①ハクサイにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		軟腐病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10.18	16	0	0	0	0	0	0
12.20	17	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	白斑病		黒斑病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10.18	16	0	0	0	0
12.20	17	0	0	0	0

注) 1圃場50株調査

3) スイカ

①露地栽培スイカにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.17	8	0	0	0	0	0	0	0	0
6.17	12	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50茎調査

②露地栽培スイカにおける病害の発生状況（御坊市、印南町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.22	17	0	0	0	0	0	0	0	0
6.19	16	0	0	6	0.1	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50茎調査

③露地栽培スイカにおける害虫の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類 ※1		カンザワハダニ		ナミハダニ		シロイチモジヨトウ		
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	被害果率 (%)
4.16~18	10	30	1.3	90	5.8	10	0.1	0	0	0
5.23	10	30	0.3	50	6.3	0	0	0	0	0
6.19	10	70	6.9	20	0.6	0	0	20	0.5	1

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.16~18	10	0	0	0	0	10	0.1
5.23	10	0	0	0	0	10	0.1
6.19	10	0	0	0	0	10	0.1

注) 1圃場100葉、50果調査。被害果調査は果実片面（半球）のみ。

※1 発生種：ワタアブラムシ

4) キュウリ

①施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		斑点細菌病		べと病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.16	13	0	0	0	0	31	2.7	0	0
5.20	12	0	0	0	0	17	0.9	17	1.1
6.18	12	0	0	9	0.7	42	1.9	33	1.7

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.16	13	0	0	0	0	8	0.7
5.20	12	0	0	0	0	17	0.3
6.18	12	0	0	0	0	25	0.8

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

②施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化えそ病		斑点細菌病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
3.17	10	0	0	0	0	0	0	30	12.7
4.16	10	0	0	30	1.8	0	0	60	31.6
5.2	12	0	0	17	7.8	0	0	75	14.3
1.29	7	0	0	0	0	0	0	29	0.7

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
3.17	10	70	10.3	10	0.2	0	0	40	12.9
4.16	10	70	25.0	10	0.2	0	0	20	0.7
5.2	12	100	38.0	0	0	0	0	58	8.9
1.29	7	29	3.4	14	0.3	0	0	0	0

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

③施設栽培キュウリにおける害虫の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類		コナジラミ類			
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	オンシツコナジラミ		タバココナジラミ	
						発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.16	10	20	0.2	0	0	0	20	0.4	
5.17~20	10	10	0.1	10	0.1	10	0.1	40	0.5
3.17	10	0	0	0	0	10	0.1	50	3.2

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.16	10	50	0.7	10	0.1	0	0
5.17~20	10	50	1.3	0	0	0	0
3.17	10	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場50株、2葉/株調査

5) ナス

①露地栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
5.20	6	0	0	0	0
6.18	10	10	0.1	0	0

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

②施設栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		すすかび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
4.19	13	23	1.8	8	0.1	0	0
5.17	9	22	0.8	0	0	33	0.4
6.18	10	20	1	0	0	20	0.6

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

③露地栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.17	9	0	0	0	0	56	15.6	0	0
7.22~23	9	0	0	11	3.1	22	7.1	0	0
8.13	8	0	0	0	0	25	10.5	13	4.5
9.12	7	0	0	14	1.1	29	4.6	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.17	9	22	4.4	0	0	11	0.9
7.22~23	9	22	5.3	0	0	0	0
8.13	8	75	24.0	0	0	0	0
9.12	7	43	8.0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.17	9	0	0	0	0
7.22~23	9	0	0	0	0
8.13	8	0	0	0	0
9.12	7	0	0	0	0

注) 1圃場中位葉25枚調査

④施設栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.20	9	0	0	0	0	11	0.4	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類				ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		発生圃場率	発生葉率	発生圃場率	発生葉率
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.20	9	33	8.9	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場中位葉25枚調査

6) トマト・ミニトマト

①露地栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（日高町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		疫病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
6.19	9	0	0	0	0	0	0	11	0.4
7.22	9	0	0	44	5.3	0	0	56	9.8
8.19	6	0	0	100	50	0	0	0	0

注) 1圃場50株調査

②施設栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
9.20	11	0	0	0	0	0	0
10.31	10	0	0	100	0.8	0	0
12.23	10	0	0	0	0	0	0
1.29	10	0	0	30	0.6	0	0
2.27	20	0	0	20	0.6	0	0

注) 1圃場50株、50果調査

③施設栽培ミニトマトにおける害虫の発生状況（印南町、日高町）

調査 月日	調査 圃場数	タバココナジラミ		オンシツコナジラミ		アブラムシ類		ハダニ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.17	10	40	1.0	10	0.1	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハモグリバエ類	
		発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)
5.17	10	0	0

注) 1圃場100葉調査

7) タマネギ

①タマネギにおける病害の発生状況（和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	さび病		べと病				白色疫病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	(越年罹病株)		(二次感染株)		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)				
2.22	32	0	0	3	0.03	0	0	3	0.01	0	0
3.5	32	0	0	6	0.04	0	0	6	0.01	0	0
3.19	32	0	0	6	0.05	3	0.01	13	0.09	0	0
3.28	32	0	0	6	0.39	3	0.03	16	0.42	0	0
4.19	32	0	0	0	0	13	0.2	6	0.1	0	0

注) 1圃場500株調査

8) エンドウ

①露地栽培サヤエンドウにおける病害の発生状況（御坊市、印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
9.19	17	0	0	0	0	0	0
10.17	16	13	0.2	0	0	13	0.2

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
9.19	17	0	0	0	0
10.17	16	0	0	0	0

注) 1圃場50葉または50株調査

②露地栽培実エンドウにおける病害の発生状況（御坊市、印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
3.16	15	0	0	53	1.2	0	0

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
3.16	15	0	0	0	0

注) 1圃場50葉または50株調査

③露地栽培エンドウにおける害虫の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類				アザミウマ類	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	カンザワハダニ		ナミハダニ		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)		
9.13	11	0	0	0	0	0	0	0	0
10.16	15	0	0	13	10.7	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	シロイチモジヨトウ		ハスモンヨトウ		オオタバコガ		ウラナミシジミ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
10.16	15	0	0	0	0	0	0	55	18.2

注) 1圃場10株調査

9) イチゴ

①施設栽培イチゴにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		うどんこ病			
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	(葉)		(果実)	
				発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
3.13	15	13	0.1	0	0	7	0.1

②施設栽培イチゴにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ		アザミウマ類		アブラムシ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生密度 (頭/花)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
4.19	6	17	0.8	50	18.3	67	0.8	0	0
3.16	6	0	0	0	0	17	0.1	0	0

注) 1圃場20~22株、1株1複葉調査

2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況

フェロモントラップの設置場所

紀の川市：紀の川市貴志川町高尾

和歌山市：和歌山市岩橋

御坊市：御坊市名田町野島

印南町：日高郡印南町印南

1) コナガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		和歌山市		月	半旬	紀の川市		和歌山市	
		本年	平年	本年	平年※			本年	平年※	本年	平年※
1	1	0	0.5	3	0.9	7	1	0	0.2	50	16.6
	2	0	0.4	1	1.7		2	1	0.1	20	7.4
	3	1	0.5	0	0.1		3	0	0.2	7	2.3
	4	2	0.3	1	3.3		4	0	0.0	0	2.5
	5	0	0.6	2	0.1		5	0	0.1	0	0.8
	6	0	1.0	2	0.0		6	0	0.0	0	0.8
2	1	2	0.3	3	0.0	8	1	0	0.0	0	0.0
	2	1	0.4	3	0.3		2	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.6	0	0.3		3	0	0.0	0	0.1
	4	0	0.3	0	0.7		4	0	0.0	0	0.0
	5	2	0.9	10	0.6		5	0	0.0	0	0.0
	6	0	1.5	6	0.6		6	0	0.1	0	0.1
3	1	1	2.3	10	0.9	9	1	0	0.0	0	0.4
	2	3	2.8	10	2.3		2	0	0.0	0	1.6
	3	0	1.2	12	2.4		3	0	0.0	0	4.0
	4	0	3.5	16	7.7		4	0	0.0	2	9.8
	5	3	4.5	9	9.4		5	0	0.0	1	9.9
	6	2	2.1	52	15.0		6	0	0.0	0	8.9
4	1	1	3.2	26	16.9	10	1	0	0.1	3	12.9
	2	2	2.6	27	19.6		2	0	0.0	25	13.5
	3	1	3.1	32	27.0		3	0	0.0	25	16.4
	4	0	2.3	29	26.4		4	0	0.1	25	15.3
	5	1	1.8	31	23.1		5	0	0.4	6	16.1
	6	3	1.8	22	15.1		6	0	0.3	1	14.8
5	1	3	1.9	74	20.0	11	1	0	0.2	11	9.0
	2	4	3.6	84	21.1		2	2	0.3	8	10.5
	3	0	4.0	126	35.5		3	0	0.5	6	9.5
	4	0	5.1	151	55.5		4	0	0.9	3	13.8
	5	2	2.5	224	88.8		5	1	1.0	8	9.9
	6	3	1.1	219	101.1		6	2	1.8	2	7.4
6	1	1	2.0	70	30.8	12	1	0	0.2	5	5.3
	2	0	1.2	7	7.3		2	1	0.3	2	5.9
	3	1	1.3	10	1.8		3	0	0.8	2	2.8
	4	1	0.3	6	5.3		4	0	0.9	5	2.4
	5	0	0.1	7	15.0		5	0	0.9	2	4.6
	6	0	0.5	32	18.0		6	1	0.6	2	1.6
						合 計					
						48					
						72.1					
						1538					
						810.8					

※ 1～3月は過去7年間、4～12月は過去8年間の平均

2) ハスモンヨトウ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		和歌山市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年※	本年	平年	本年	平年
1	1	0	0.0	0	0.0	0	1.4	0	2.6
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	1.4
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.5
	4	0	0.1	0	0.0	1	0.1	0	0.7
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.4
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.5
2	1	1	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.7
	2	0	0.0	0	0.0	3	0.6	0	0.3
	3	0	0.1	0	0.1	0	1.1	0	0.3
	4	0	0.0	0	0.0	2	0.3	0	0.3
	5	0	0.0	0	0.0	1	0.9	2	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	1.1	0	0.1
3	1	0	0.0	0	0.0	0	1.2	0	0.6
	2	0	0.1	0	0.3	1	1.3	0	0.6
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.5	0	0.7
	4	0	0.1	0	0.0	2	2.8	3	0.8
	5	0	0.3	0	0.0	1	4.0	4	1.4
	6	0	0.4	0	0.1	3	3.5	1	1.3
4	1	0	0.5	0	0.8	3	6.5	4	2.1
	2	0	0.9	0	1.5	4	8.6	4	2.3
	3	0	0.3	0	0.6	0	6.8	5	8.0
	4	0	1.6	0	1.6	22	10.5	15	5.9
	5	3	1.6	2	5.3	8	11.7	6	6.6
	6	1	1.1	0	9.9	9	12.5	8	7.8
5	1	0	3.9	5	7.4	18	14.5	8	13.4
	2	1	5.5	3	7.1	17	17.6	11	12.6
	3	1	3.5	7	6.0	15	20.6	5	16.6
	4	5	4.1	11	5.9	13	22.8	7	24.7
	5	2	2.4	13	16.9	15	15.4	18	20.2
	6	6	5.1	27	10.6	13	12.9	24	15.9
6	1	3	2.9	25	7.6	14	14.3	15	8.4
	2	30	3.6	78	11.1	26	20.9	10	6.4
	3	33	3.4	108	16.5	37	22.4	21	16.8
	4	37	6.9	15	13.0	26	18.3	28	15.5
	5	16	10.5	2	36.1	9	26.8	12	24.2
	6	18	8.6	18	46.5	40	49.5	10	36.1
7	1	7	15.0	11	47.1	53	61.2	10	26.3
	2	3	14.2	19	27.6	17	54.9	9	16.9
	3	8	6.1	9	14.9	12	24.3	8	18.9
	4	10	7.5	2	14.1	3	9.2	3	14.9
	5	22	9.9	12	32.5	2	9.7	1	14.6
	6	14	15.2	16	48.6	4	26.3	8	31.9
8	1	9	14.8	13	25.8	2	50.8	21	23.0
	2	1	19.1	12	31.5	6	69.1	6	35.2
	3	36	11.8	22	19.4	12	30.5	0	11.9
	4	83	15.1	5	17.6	4	22.4	0	18.6
	5	35	28.5	27	91.4	5	32.3	11	24.1
	6	119	73.7	237	219.0	1	119.6	27	66.2
9	1	16	69.6	213	383.3	0	124.8	35	109.4
	2	5	101.1	150	256.4	2	244.2	23	125.4
	3	26	72.2	344	188.4	3	119.3	44	98.2
	4	58	65.4	290	202.1	10	171.6	67	82.3
	5	69	71.5	280	370.9	34	135.1	19	85.7
	6	6	54.9	115	540.4	5	324.1	51	101.4
10	1	18	145.0	347	477.3	48	465.0	165	143.0
	2	27	252.1	352	522.0	109	487.6	65	203.4
	3	75	212.8	288	421.5	188	588.9	7	219.1
	4	80	311.8	134	234.9	205	437.6	198	261.4
	5	66	227.1	58	291.9	121	292.0	35	195.9
	6	115	265.2	17	362.3	181	320.1	24	139.7
11	1	64	209.3	1	228.9	100	355.8	12	108.6
	2	69	268.7	2	216.1	113	337.4	152	143.9
	3	281	258.8	1	121.0	100	175.6	191	163.5
	4	138	192.1	4	67.0	42	108.7	105	112.0
	5	275	111.7	70	58.1	49	97.1	45	109.4
	6	53	57.0	96	24.6	38	41.6	71	59.4
12	1	14	59.7	31	43.5	18	77.7	29	48.7
	2	0	22.2	4	11.6	1	33.4	13	16.9
	3	2	16.5	2	1.6	15	22.9	12	15.4
	4	2	0.2	4	0.6	5	5.9	2	9.3
	5	0	2.2	0	2.9	3	7.0	0	13.2
	6	0	0.3	4	0.0	8	2.6	0	5.2
合 計		1963	3345.9	3506	5821.7	1823	5819.9	1690	3129.6

※ 1～3月は過去7年間、4～12月は過去8年間の平均

3) シロイチモジヨトウ

単位：頭

月 半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	—	—	0	0.9	0	0.7
2	—	—	0	0.6	0	0.3
3	—	—	0	0.0	0	0.2
4	—	—	0	0.2	0	0.0
5	—	—	0	0.0	0	0.1
6	—	—	0	0.0	0	0.1
1	—	—	0	0.1	0	0.1
2	—	—	0	0.2	1	0.0
3	—	—	0	0.2	0	0.0
4	—	—	0	0.2	0	0.1
5	—	—	0	0.2	0	0.0
6	—	—	0	0.4	0	0.0
1	—	—	1	0.3	0	0.2
2	—	—	0	0.1	1	0.2
3	—	—	0	0.5	0	0.1
4	—	—	3	0.9	1	0.0
5	—	—	4	0.2	2	0.3
6	—	—	0	0.8	0	0.5
1	0	0.0	3	2.3	2	1.6
2	0	0.1	3	2.3	2	1.2
3	0	0.0	0	3.5	2	1.1
4	0	0.3	23	5.2	2	2.8
5	2	0.2	6	7.5	0	1.7
6	3	0.8	0	4.8	0	1.7
1	3	0.3	0	9.8	1	3.8
2	0	0.6	1	10.8	0	4.1
3	1	0.6	0	12.6	0	4.8
4	2	1.3	0	11.3	0	4.7
5	2	1.6	4	8.6	1	5.8
6	10	3.6	2	11.5	6	11.8
1	6	3.4	3	12.5	8	13.3
2	13	3.0	2	21.2	4	17.5
3	14	1.8	6	19.4	1	13.4
4	7	1.9	9	20.1	3	12.1
5	3	2.2	10	20.4	1	15.6
6	9	4.9	14	16.6	13	19.6
1	18	5.4	17	19.8	9	13.0
2	14	4.4	7	24.7	2	10.1
3	12	2.8	2	21.6	11	13.4
4	19	3.6	5	18.8	20	12.1
5	15	5.3	4	10.5	26	10.6
6	9	8.5	5	9.9	0	12.8
1	11	3.1	4	37.1	8	11.6
2	8	4.1	1	51.7	0	14.9
3	10	5.6	3	18.8	1	10.7
4	15	6.4	3	14.4	0	10.2
5	7	4.0	3	12.2	0	8.7
6	14	10.6	1	12.1	0	12.1
1	4	7.1	1	14.4	0	10.7
2	8	9.6	1	17.8	0	12.7
3	14	13.3	0	15.3	2	13.8
4	25	11.8	0	20.1	4	8.9
5	6	8.3	4	15.0	1	3.5
6	7	6.5	2	10.8	0	3.7
1	9	3.6	1	16.5	1	3.2
2	3	3.5	3	16.6	1	4.6
3	1	4.0	2	15.9	0	5.1
4	0	2.9	6	11.3	0	3.3
5	1	1.0	4	12.5	0	4.8
6	1	0.7	2	10.2	1	7.3
1	2	0.8	2	9.9	3	4.2
2	3	0.9	2	14.2	2	3.4
3	2	1.8	3	14.0	1	4.2
4	2	1.6	3	8.8	1	2.9
5	1	0.4	1	3.8	0	3.1
6	0	1.2	0	6.1	0	3.4
1	0	0.5	0	3.9	0	2.2
2	0	0.4	0	1.6	0	1.6
3	1	0.1	0	1.5	0	1.2
4	0	0.0	0	0.3	0	1.2
5	0	0.0	0	1.3	5	2.2
6	0	0.0	0	0.5	6	1.5
合 計	317	170.4	186	700.1	156	392.2

4) オオタバコガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	—	—	0	0.0	0	0.3
	2	—	—	0	0.5	0	0.6
	3	—	—	1	0.3	1	0.2
	4	—	—	0	0.4	1	0.1
	5	—	—	0	0.0	5	0.3
	6	—	—	0	0.1	0	0.0
2	1	—	—	0	0.1	0	0.0
	2	—	—	0	0.3	1	0.0
	3	—	—	0	0.1	0	0.0
	4	—	—	1	0.0	0	0.1
	5	—	—	0	0.1	0	0.0
	6	—	—	0	0.0	0	0.0
3	1	—	—	0	0.2	3	0.1
	2	—	—	0	0.1	1	0.2
	3	—	—	0	0.2	0	0.1
	4	—	—	0	0.1	0	0.1
	5	—	—	0	0.1	0	0.5
	6	—	—	0	0.4	0	0.4
4	1	1	0.1	1	0.8	1	0.0
	2	1	0.4	1	0.4	1	0.1
	3	0	0.0	0	0.2	1	0.4
	4	0	0.2	0	0.7	1	0.2
	5	3	0.5	0	0.7	3	0.1
	6	2	0.8	0	1.4	1	0.1
5	1	3	1.1	0	0.7	1	0.3
	2	1	1.8	0	1.8	1	0.6
	3	5	2.5	0	2.0	3	1.3
	4	6	3.0	0	2.1	1	2.1
	5	10	2.4	2	1.1	0	1.9
	6	7	2.3	1	1.9	1	1.4
6	1	5	2.0	0	1.1	0	0.9
	2	2	1.2	0	0.7	5	1.2
	3	6	1.3	0	0.6	8	0.7
	4	5	1.4	0	0.2	11	1.4
	5	3	3.0	0	2.4	2	1.9
	6	10	4.1	0	1.2	1	1.4
7	1	15	4.2	0	3.7	0	3.1
	2	3	2.9	0	4.1	0	2.6
	3	4	1.7	0	2.3	0	2.6
	4	2	1.0	0	1.0	0	0.7
	5	1	0.8	0	1.3	0	0.6
	6	1	2.7	0	0.2	0	0.3
8	1	0	2.9	0	0.5	0	0.8
	2	0	2.6	0	0.8	0	0.2
	3	2	2.3	0	0.2	0	0.0
	4	0	1.3	0	0.2	0	0.2
	5	1	2.8	0	0.3	0	0.6
	6	0	4.9	0	0.6	0	1.3
9	1	1	6.0	0	0.1	0	0.9
	2	0	5.6	0	0.6	0	1.4
	3	1	3.0	0	0.4	0	1.3
	4	0	4.2	1	1.7	0	2.1
	5	0	3.7	0	1.8	8	3.6
	6	0	3.2	0	2.9	1	3.2
10	1	4	4.3	0	4.7	6	1.8
	2	7	5.9	0	11.7	12	4.8
	3	13	6.6	0	10.0	2	2.4
	4	16	9.3	3	5.6	13	7.8
	5	5	6.0	1	3.8	7	11.7
	6	3	5.7	0	3.8	16	9.7
11	1	0	5.5	0	4.5	3	6.9
	2	0	3.7	2	3.3	1	4.3
	3	0	5.6	5	3.8	0	5.3
	4	3	5.2	3	2.8	0	4.6
	5	1	2.0	0	2.6	3	2.6
	6	2	1.5	2	1.5	4	3.1
12	1	2	2.6	5	3.6	1	3.2
	2	0	0.3	0	2.6	0	3.3
	3	0	0.3	0	1.3	0	1.1
	4	1	0.1	1	0.3	0	0.6
	5	0	0.4	0	0.4	0	0.6
	6	0	0.8	1	0.2	0	0.5
合	計	158	149.7	31	112.2	131	119.0

5) ヨトウガ

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
	1	28	2.3
	2	24	2.4
3	3	10	2.8
	4	8	0.9
	5	6	1.2
	6	7	1.2
<hr/>			
	1	2	2.3
	2	14	6.6
4	3	6	4.9
	4	20	8.6
	5	31	10.8
	6	32	7.7
<hr/>			
	1	10	3.2
	2	4	3.4
5	3	0	2.3
	4	2	3.2
	5	2	1.2
	6	1	3.5
<hr/>			
	1	0	1.2
	2	0	0.2
6	3	0	0.3
	4	1	0.3
	5	1	0.0
	6	1	0.2
<hr/>			
	1	0	0.1
	2	0	0.0
7	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.1
	6	0	0.0

単位：頭

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.2
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.1
	2	0	0.9
9	3	11	1.2
	4	3	4.3
	5	4	5.5
	6	5	3.7
<hr/>			
	1	7	2.7
	2	2	1.5
10	3	5	1.0
	4	1	0.7
	5	1	0.5
	6	1	0.6
<hr/>			
	1	1	0.2
	2	0	0.0
11	3	0	0.1
	4	0	0.0
	5	2	0.5
	6	1	0.1
<hr/>			
合	計	254	94.6

3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況

		紀の川市				紀の川市	
月	半旬	本年	平年	月	半旬	本年	平年
1	1	0	2.5	7	1	10	6.2
	2	3	1.0		2	5	1.7
	3	2	0.4		3	3	2.1
	4	2	0.5		4	1	2.0
	5	0	0.2		5	0	3.2
	6	1	1.9		6	1	5.5
2	1	2	0.1	8	1	4	8.1
	2	5	0.6		2	1	7.3
	3	0	1.0		3	1	16.4
	4	1	0.7		4	1	29.3
	5	2	2.4		5	3	12.7
	6	0	0.6		6	2	17.1
3	1	2	2.3	9	1	8	27.0
	2	2	1.7		2	17	26.6
	3	4	2.1		3	11	19.8
	4	10	3.7		4	8	38.0
	5	8	4.6		5	9	47.0
	6	27	7.7		6	9	29.4
4	1	41	7.9	10	1	8	16.7
	2	58	13.8		2	3	6.3
	3	47	14.3		3	1	8.9
	4	162	20.6		4	3	11.0
	5	232	31.0		5	9	10.5
	6	50	23.2		6	14	13.6
5	1	42	40.6	11	1	6	14.9
	2	13	44.8		2	4	16.7
	3	7	45.5		3	10	29.7
	4	25	36.8		4	7	25.6
	5	8	49.9		5	20	11.5
	6	45	43.4		6	11	18.9
6	1	93	38.5	12	1	6	14.0
	2	14	34.4		2	0	5.7
	3	20	17.3		3	4	5.6
	4	18	15.8		4	12	4.8
	5	4	9.7		5	8	3.8
	6	4	9.0		6	4	2.1
合 計		1178	1050.2				

Ⅸ. 果樹病害虫の発生状況調査

1. 県予察ほ場などにおける調査

1) カンキツ

(1) 生育状況

a) 生育調査（県予察ほ場：有田川町奥）（月/日）

品種	発芽期	展葉期	開花期		
			始期	盛期	終期
早生ウンシュウミカン	4/5	4/24	5/4	5/7	5/13
普通ウンシュウミカン	4/5	4/24	5/5	5/12	5/14
不知火	3/29	4/23	5/1	5/7	5/19

b) 果実肥大調査（ヨコ径，cm）

品種	調査月日										
	7/15	8/1	8/15	9/1	9/15	10/1	10/15	11/1	11/15	12/1	12/15
早生ウンシュウミカン	4.0	4.6	4.9	5.7	6.0	6.5	6.8	7.2	7.3	7.4	7.4
普通ウンシュウミカン	3.6	4.4	4.8	5.6	5.9	6.5	6.6	7.5	7.6	7.9	7.5
不知火	4.2	5.1	5.6	6.6	7.1	7.3	8.3	8.7	8.7	8.5	8.8

概要：早生ウンシュウミカンの発芽期および展葉期は平年と同日で、開花期は0～3日早かった。

普通ウンシュウミカンの発芽期は平年に比べ1日早く、展葉期は同日で、開花始期は1日早く、盛期は1日遅く、終期は3日早かった。

不知火の発芽期は平年に比べ6日早く、展葉期は2日遅く、開花期は1～8日早かった。

生育期間中の果実肥大は早生ウンシュウミカン、普通ウンシュウミカンは平年に比べやや大きく推移し、不知火は平年並で推移した。

(2) 黒点病

a) 発病状況調査（県予察ほ場：有田川町奥）

区	調査項目	調査時期				
		6/中	7/中	8/中	9/中	10/中
無防除区	発病果率(%)	10.5 (24.1)	100 (98.1)	100 (100)	100 (100)	100 (100)
	発病度	1.5 (4.5)	16.5 (21.9)	22.4 (35.8)	30.0 (42.4)	34.5 (52.4)
防除区	発病果率(%)	0 (0.6)	30.5 (13.6)	58.0 (18.7)	45.4 (32.8)	51.5 (42.9)
	発病度	0 (0.1)	4.4 (2.1)	8.7 (2.9)	6.5 (5.1)	8.4 (7.0)

()内は平年

(注) 各区4樹、1樹50果調査、自然感染

防除区使用薬剤(散布日)：

ストロビードライフフロアブル 2,000倍 (5/16)

エムダイファー水和剤 600倍 (6/3)

ジマンダイセン水和剤 600倍 (7/3、8/1、8/19、9/2)

概要：県予察ほ場における果実の初発は6月17日(平年6月1日)で平年より遅かった。

無防除区の発病は平年に比べてやや少なく推移した。

(3) かいよう病

a) 発病状況調査(県予察ほ場：有田川町奥)

越冬病斑		春葉発病			果実発病		
調査月日	発病葉率	調査月日	発病葉率	発病度	調査月日	発病果率	発病度
3月13日	8.0%	6月11日	2.0%	0.5	7月16日	12.7%	3.3
(3月中下旬)	(10.1%)	(6月中下旬)	(6.8%)	(2.3)	(7月中下旬)	(4.3%)	(1.0)

()内は平年

(注) 23年生ネーブル

概要：県予察ほ場での越冬病斑の発病葉率は平年並であった。春葉での初発は5月23日(平年5月23日)で平年並であった。6月中旬における春葉の発病は平年並であったが、7月中旬における果実の発病は平年よりやや多かった。

(4) ヤノネカイガラムシ

a) 発生状況調査

県予察ほ場

10葉当たり虫数(頭)

調査月日	1 齢	雌 2 齢	未成熟成虫	成熟成虫	合計
5. 1	0	0	0	17	17
5. 12	0	0	0	17	17
5. 13	17	0	0	17	34
5. 19	86	0	0	17	103
5. 25	163	0	0	15	178

概要：発生が少ないため、5月1日に成虫の寄生葉をマークし、第1世代1齢幼虫の発生状況を調査した。初発は5月13日と平年よりやや早く、その後もやや早く推移した。

(5) ミカンハダニ

a) 発生状況調査

県予察ほ場

100葉当たり雌成虫数(頭)

調査月日	無防除園	防除園
3. 6	29	0
14	33	0
25	14	0
4. 5	0	0
15	80	0
26	200	0
5. 5	57	0
15	219	0
25	201	0
6. 6	141	0
17	24	1
25	22	22
7. 5	1	0
16	0	0
24	0	0
8. 5	0	0
14	0	0
23	0	0
9. 5	0	0
13	0	0
25	0	0
10. 4	0	0
17	0	0
24	0	0
11. 5	0	0
14	0	0
26	0	1
12. 4	0	0
16	0	0
26	0	0
1. 6	2	0
17	0	0
24	0	0
2. 7	0	0
14	0	0
25	0	0

概要：無防除園における発生は越冬期にやや多く、4月中旬から6月上旬に多くなったが、その後は少発生で経過した。防除園における発生は調査期間を通して少なく経過した。

(6) チャノキイロアザミウマ

a) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)

県予察ほ場 (有田川町)

頭/トラップ

調査時期(月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	0	0	0
2	1	0	1
3	0	0	0
4	0	2	2
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	0	0	0
2	0	1	1
3	2	1	3
4	5	4	9
5	1	7	8
6	1	7	8
6. 1	0	0	0
2	1	9	10
3	2	20	22
4	2	17	19
5	1	4	5
6	3	61	64
7. 1	1	108	109
2	0	30	30
3	0	13	13
4	0	3	3
5	4	0	4
6	3	1	4
8. 1	0	0	0
2	0	10	10
3	1	1	2
4	1	3	4
5	1	1	2
6	9	4	13
9. 1	0	0	0
2	0	2	2
3	0	8	8
4	0	4	4
5	10	8	18
6	1	4	5
10. 1	3	12	15
2	1	2	3
3	1	5	6
4	0	2	2
5	0	1	1
6	0	0	0

概要：6月第6半旬から7月第1半旬に多く誘殺されたが、調査期間を通して誘殺数はやや少なかった。

(6) チャノキイロアザミウマ

b) 発生状況調査(黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)

県予察ほ場(由良町)

頭/トラップ

調査時期(月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	1	11	12
2	10	12	22
3	1	3	4
4	1	3	4
5	5	6	11
6	0	0	0
5. 1	1	0	1
2	0	0	0
3	0	1	1
4	2	5	7
5	35	70	105
6	10	12	22
6. 1	1	3	4
2	9	22	31
3	4	31	35
4	1	9	10
5	0	12	12
6	11	141	152
7. 1	38	16	54
2	13	22	35
3	5	9	14
4	1	4	5
5	14	3	17
6	8	8	16
8. 1	1	3	4
2	8	10	18
3	7	8	15
4	16	8	24
5	4	4	8
6	6	25	31
9. 1	3	4	7
2	15	4	19
3	25	10	35
4	10	3	13
5	55	10	65
6	5	2	7
10. 1	16	2	18
2	9	5	14
3	5	3	8
4	0	0	0
5	0	2	2
6	1	0	1

概要：5月第5半旬、6月第6半旬から7月第1半旬、9月第5半旬に多く誘殺されたが、調査期間を通して誘殺数は少なかった。

(7) ミドリヒメヨコバイ類

a) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)

県予察ほ場 (有田川町)

頭/トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	2	0	2
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6. 1	1	0	1
2	1	0	1
3	3	0	3
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7. 1	1	0	1
2	2	0	2
3	4	0	4
4	1	0	1
5	0	0	0
6	1	0	1
8. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	4	0	4
5	3	0	3
6	1	0	1
9. 1	1	0	1
2	3	0	3
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	2	0	2
10. 1	1	0	1
2	1	0	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0

概要：調査期間を通して誘殺数は少なかった。

(7) ミドリヒメヨコバイ類

b) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)

県予察ほ場 (由良町)

頭/トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	1	0	1
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6. 1	0	1	1
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	2	0	2
6	0	0	0
7. 1	0	0	0
2	1	0	1
3	2	1	3
4	2	0	2
5	1	0	1
6	2	0	2
8. 1	0	0	0
2	0	1	1
3	0	0	0
4	0	1	1
5	1	0	1
6	0	0	0
9. 1	0	0	0
2	1	1	2
3	2	0	2
4	1	1	2
5	0	1	1
6	0	0	0
10. 1	0	0	0
2	1	0	1
3	1	0	1
4	1	1	2
5	0	0	0
6	0	1	1

概要：調査期間を通して誘殺数は少なかった。

(8) 果樹カメムシ類

a) 越冬量調査

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果

頭/落葉50リットル

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
橋本市北馬場	1/31	1/31	0	0	0	0	
橋本市市脇	1/31	1/31	0	0	0	0	
橋本市清水	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
橋本市学文路	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
橋本市高野口町竹尾	2/21	2/21	0	0	0	0	
橋本市高野口町下中	2/21	2/21	0	0	0	0	
九度山町下古沢	1/31	1/31	0	0	0	0	
九度山町慈尊院	1/31	1/31	0	0	0	0	
かつらぎ町短野	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
かつらぎ町教良寺	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
かつらぎ町御所	2/ 1	2/ 1	0	1	1	0	
かつらぎ町東谷	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
紀の川市赤沼田	1/30	2/14	0	0	0	0	
紀の川市中尾	1/30	2/14	0	0	0	0	
紀の川市林ヶ峯	1/30	2/14	0	0	0	0	
紀の川市秋葉山	1/30	2/14	0	0	0	0	
紀の川市鞆渕	1/30	2/14	0	0	0	0	
紀の川市桃山町黒川	1/30	2/14	0	0	0	0	
紀の川市貴志川町高尾	1/30	2/14	0	0	0	0	
海南市海老谷	2/21	2/27	0	0	0	0	
海南市東畑	2/21	2/27	0	0	0	0	
海南市ひや水	2/21	2/27	0	0	0	0	
紀美野町西野	2/21	2/27	0	0	0	0	
紀美野町松瀬	2/21	2/27	0	0	0	0	
紀美野町釜滝	2/21	2/27	0	0	0	0	
紀美野町大角	2/21	2/27	1	0	1	0	
紀美野町永谷	2/21	2/27	0	0	0	0	
紀美野町津川	2/21	2/27	0	0	0	0	
紀美野町明添	2/21	2/27	0	0	0	0	

(つづき)

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
有田川町奥(果試No. 1)	2/15	2/25	1	4	5	0	
有田川町奥(果試No. 2)	2/15	2/27	0	0	0	0	
有田川町修理川	2/15	2/27	0	0	0	0	
有田川町川口	2/15	3/ 1	0	0	0	0	
広川町津木	2/15	3/ 1	0	0	0	0	
広川町室川	2/15	3/ 4	0	0	0	0	
日高川町千津川	2/18	3/ 4	0	0	0	0	
印南町白河	12/25	3/ 4	0	0	0	0	
みなべ町高城	12/25	3/ 4	0	0	0	0	
みなべ町広野	12/25	3/ 4	0	0	0	0	
みなべ町清川	12/25	3/ 4	0	0	0	0	
田辺市竹藪	12/25	3/ 4	0	0	0	0	
田辺市上野	12/25	3/ 5	0	0	0	0	
上富田町岩田	12/27	3/ 5	0	0	0	0	
白浜町口ヶ谷	12/27	3/ 5	0	0	0	0	
串本町重畳山	12/27	3/ 5	0	0	0	0	
那智勝浦町井関	12/27	3/ 5	0	0	0	0	
新宮市木ノ川	12/27	3/ 5	0	0	0	0	

調査方法：定点における雑木林の落葉50リットルを採集し、落葉中のチャバネアオカメムシ成虫数を計数した。

概要：県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫数は、落葉50リットル当たり平均0.1頭（前年1.5頭、平年0.6頭）、捕獲地点率は6.4%（前年61.7%、平年23.9%）で平年よりもやや少なかった。

b) 予察灯による誘殺状況

県予察ほ場（有田郡有田川町奥 予察灯：100W水銀灯）

頭

調査月日	チャバネアカメムシ			ツヤアオカメムシ			クサキカメムシ			3種の 合計
	♂	♀	計	♂	♀	計	♂	♀	計	
4. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	1	5	4	9	0	0	0	10
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	4	4	8	0	0	0	8
4	0	0	0	3	4	7	0	0	0	7
5	1	1	2	4	3	7	0	1	1	10
6	3	3	6	2	9	11	0	4	4	21
6. 1	4	5	9	5	20	25	1	0	1	35
2	8	10	18	21	15	36	6	3	9	63
3	1	2	3	1	0	1	0	0	0	4
4	10	3	13	9	5	14	0	0	0	27
5	4	13	17	14	5	19	1	1	2	38
6	15	32	47	40	19	59	3	4	7	113
7. 1	15	15	30	16	8	24	2	2	4	58
2	6	9	15	6	2	8	3	1	4	27
3	3	6	9	6	0	6	3	3	6	21
4	8	6	14	3	3	6	4	3	7	27
5	7	6	13	3	4	7	4	7	11	31
6	2	0	2	2	1	3	1	5	6	11
8. 1	1	1	2	1	2	3	4	7	11	16
2	2	5	7	1	4	5	10	19	29	41
3	5	4	9	1	0	1	7	10	17	27
4	8	19	27	0	0	0	8	4	12	39
5	9	44	53	2	2	4	5	6	11	68
6	12	66	78	3	2	5	2	4	6	89
9. 1	24	74	98	7	10	17	3	7	10	125
2	111	178	289	18	30	48	14	9	23	360
3	23	30	53	4	14	18	2	0	2	73
4	4	1	5	5	3	8	1	0	1	14
5	5	8	13	13	5	18	0	0	0	31
6	15	14	29	40	18	58	1	1	2	89
10. 1	13	12	25	26	19	45	1	0	1	71
2	0	0	0	17	10	27	0	1	1	28
3	3	0	3	7	8	15	0	0	0	18
4	2	2	4	88	36	124	0	0	0	128
5	0	0	0	39	17	56	0	1	1	57
6	0	0	0	5	5	10	0	0	0	10

概要：チャバネアカメムシが8月第6半旬から9月第3半旬まで多く誘殺されたが平年よりやや少なかった。ツヤアオカメムシは6月第6半旬、9月第6半旬、10月第4半旬から第5半旬にやや多く誘殺されたが平年よりやや少なかった。

2) カキ

(1) 生育状況 (県予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種		発芽期	展葉期	開花期			収穫期 収穫盛期
				始 期	最盛期	終 期	
平核無	本 年	3月9日	3月28日	5月12日	5月13日	5月15日	10月31日
	平 年 比	-5	-2	+3	+1	+1	+4
富 有	本 年	3月13日	4月5日	5月17日	5月19日	5月21日	11月28日
	平 年 比	-5	0	+1	0	-1	+10

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す(単位：日)

概要：平核無の発芽期は平年に比べやや早かったが、展葉期は平年並となった。開花期は平年並であったが、収穫期は高温により着色が遅れたために平年より4日遅かった。

富有の発芽期は平年に比べやや早かったが、展葉期は平年並となった。開花期は平年並であったが、収穫期は高温により着色が遅れたために平年よりも10日遅かった。

(2) 炭疽病

a) 越冬病斑調査 (県予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	3月22日	平年
平核無	発病枝率(%)	0.0	0.0
富 有	発病枝率(%)	0.0	0.4

概要：枝の越冬病斑は、富有、平核無ともにみられなかった。

b) 発病状況調査 (県予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	9月17日	平年
平核無	発病果率(%)	0.0	0.5
	発病枝率(%)	0.0	0.0
富 有	発病果率(%)	0.0	1.9
	発病枝率(%)	0.0	0.3

概要：枝および果実の発病は、平核無、富有ともにみられなかった。

(3) うどんこ病

a) 子のう殻越冬密度調査 (県予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	子のう殻 付着枝率		1枝当たりの 子のう殻数	
		本年	平年	本年	平年
平核無	3月22日	0.0	12.2	0.00	0.80
富 有	3月22日	0.0	2.3	0.00	0.03

概要：枝の子のう殻は、平核無、富有ともにみられなかった。

b) 発病状況調査 (県予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	9月17日	平年
平核無	発病葉率(%)	0.0	37.9
	発病度	0.0	20.3
富 有	発病葉率(%)	0.3	10.4
	発病度	0.1	3.1

概要：葉の発病は、平核無ではみられなかった。富有では発病葉率が0.3%と平年よりも少なかった。

(4) 落葉病

a) 発病状況調査 (県予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	種 類	調査項目	9月17日	平年
平核無	角斑落葉病	発病葉率(%)	73.3	67.0
		発病度	29.7	24.2
	円星落葉病	発病葉率(%)	0.0	75.5
		発病度	0.0	39.5
富 有	角斑落葉病	発病葉率(%)	35.7	53.7
		発病度	8.2	21.8
	円星落葉病	発病葉率(%)	1.3	86.2
		発病度	0.2	48.6

概要：角斑落葉病の発病は、平核無では発病葉率、発病度ともに平年並であった。富有では平年に比べやや低かった。

円星落葉病の発病は、平核無、富有ともに平年より少なかった。

(5) ハマキムシ類 (付表1参照)

概要：チャハマキは4月第1半旬から誘殺され始め、4月第5半旬、5月第4半旬、10月第3半旬の誘殺数が多かった。

チャノコカクモンハマキは4月第1半旬誘殺され始め、4月第5半旬、6月第5半旬、7月第6半旬、10月第3半旬の誘殺数が多かった。

(6) アザミウマ類

a) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ) (県予察ほ場: 紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャノキイロアザ ミウマ		カキクダ アザミウマ	
	本年	平年	本年	平年
4・1	2	1.5	2	1.4
2	1	1.6	1	1.3
3	1	1.2	1	1.4
4	0	0.6	1	2.1
5	0	0.3	1	0.7
6	0	0.2	0	0.5
5・1	0	0.3	0	0.4
2	0	0.1	0	0.6
3	0	0.7	1	0.4
4	7	2.9	0	0.2
5	0	3.8	0	0.2
6	0	3.5	0	0.4
6・1	3	1.7	1	1.6
2	8	2.7	1	8.7
3	8	8.6	11	19.8
4	8	15.7	10	20.7
5	17	21.2	9	15.0
6	71	22.2	1	8.2
7・1	86	36.1	0	3.9
2	53	59.7	0	2.3
3	30	46.8	0	1.5
4	10	33.4	0	2.2
5	10	30.6	0	0.9
6	18	43.8	0	0.6
8・1	8	39.0	0	0.7
2	7	30.1	0	0.9
3	6	37.7	0	1.4
4	5	35.1	0	1.5
5	5	36.6	0	1.0
6	15	33.8	0	0.8
9・1	4	28.6	0	0.6
2	9	26.6	0	0.8
3	4	22.6	0	0.5
4	7	21.1	0	0.3
5	7	17.1	0	0.0
6	25	10.3	0	0.5
10・1	10	6.7	0	0.3
2	3	3.6	0	0.3
3	2	0.9	0	0.2
4	0	1.0	0	0.3
5	0	0.2	0	0.2
6	0	0.0	0	0.0
合 計	450	690.2	40	105.3

注) 20×20cmの黄色粘着板1基当たりの表裏合計の虫数を示す。
平年値は平成21~30年までの平均を示す。

概要: チャノキイロアザミウマは4月第1半旬から誘殺され始め、7月第1半旬の誘殺数が多かった。
カキクダアザミウマは4月第1半旬から誘殺され始め、6月第3半旬の誘殺数が多かった。

(7) コガシラアワフキ

a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (県予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	コガシラ アワフキ
4. 1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
5. 1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
6. 1	0
2	0
3	0
4	0
5	2
6	7
7. 1	1
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
8. 1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
9. 1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
10. 1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0

概要：6月第5半旬～7月第1半旬に誘殺が認められた。

(8) カメムシ類

a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (県予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	合計
4・1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0
5	3	11	0	14
6	0	0	0	0
5・1	0	1	0	1
2	0	0	0	0
3	0	1	0	1
4	0	9	0	9
5	3	4	1	8
6	14	4	2	20
6・1	8	45	3	56
2	6	32	1	39
3	2	7	0	9
4	3	3	1	7
5	11	0	0	11
6	52	26	8	86
7・1	21	13	3	37
2	22	9	3	34
3	30	0	3	33
4	23	0	6	29
5	24	4	16	44
6	39	9	32	80
8・1	26	3	21	50
2	13	5	20	38
3	35	8	17	60
4	57	8	20	85
5	58	1	20	79
6	116	9	15	140
9・1	184	20	27	231
2	79	26	9	114
3	40	14	0	54
4	30	13	0	43
5	41	41	1	83
6	134	171	2	307
10・1	53	27	0	80
2	15	38	0	53
3	2	14	0	16
4	8	45	0	53
5	3	30	0	33
6	0	8	0	8

概要：チャバネアオカメムシは4月第5半旬から誘殺され始め、5月第6半旬、8月第4半旬から10月第1半旬に誘殺数が多かった。

ツヤアオカメムシは4月第5半旬から誘殺され始め、6月第1半旬、9月第6半旬に誘殺数が多かった。

3) モモ

(1) 生育状況 (県予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	発芽期	開花期			収穫期 収穫盛期
		始 期	最盛期	終 期	
白 鳳 本 年	3月6日	3月30日	4月3日	4月10日	7月5日
平 年 比	-7	-3	-1	0	-4

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す (単位：日)

概要：白鳳の発芽期は平年に比べ7日早く、開花期は1～3日早かった。収穫期は平年に比べ4日早かった。

(2) ナシヒメシンクイ (付表1参照)

概要：ナシヒメシンクイは4月第1半旬から誘殺され始め、4月第1半旬、5月第6半旬、8月第4半旬に誘殺数が多かった。

(3) モモハモグリガ (付表1参照)

概要：モモハモグリガは4月第1半旬から誘殺され始め、5月第3半旬、7月第4半旬、10月第3半旬に誘殺数が多かった。

(4) コスカシバ (付表1参照)

概要：コスカシバは4月第6半旬から誘殺され始め、5月第5半旬、6月第5半旬、10月第1半旬に誘殺数が多かった。

(5) モモシンクイガ

a) 誘殺状況 (フェロモントラップ) (県予察ほ場: 紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	紀の川市粉河 (モモ園)		紀の川市 桃山町元 (モモ園)		紀の川市杉原 (ナシ園)		かつらぎ町 東渋田 (モモ園)	
	本年	平年※ ¹	本年	平年※ ¹	本年	平年※ ¹	本年	平年※ ²
4・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.1	0	0.0	2	0.6
6	0	0.0	0	0.2	0	0.0	2	0.9
6・1	0	0.0	0	0.0	1	0.4	1	1.0
2	0	0.0	0	0.0	1	0.8	5	0.9
3	0	0.0	0	0.0	4	1.1	5	1.3
4	0	0.0	0	0.1	4	0.6	3	3.3
5	0	0.0	0	0.0	4	3.0	3	2.3
6	0	0.0	0	0.0	5	2.1	1	3.1
7・1	0	0.0	0	0.0	1	1.6	1	2.3
2	0	0.0	0	0.0	1	1.2	0	0.7
3	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	1.9
4	0	0.0	0	0.0	1	1.2	0	1.7
5	0	0.0	0	0.0	1	1.0	0	0.4
6	0	0.0	0	0.0	0	1.1	0	1.7
8・1	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.6
2	0	0.0	0	0.1	1	0.5	0	0.3
3	0	0.0	0	0.0	0	1.0	0	0.7
4	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.4
5	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.4
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	2	0.5	25	16.9	23	24.4

供試トラップ : 1Cトラップ(～2006年)、SEトラップ(2007年～)

※¹: 紀の川市粉河、紀の川市元、紀の川市杉原の平年値は平成21～30年の平均

※²: かつらぎ町東渋田の平年値は平成22～23年、26～30年の平均。

概要: モモシンクイガは5月第3半旬から8月第2半旬まで誘殺された。
誘殺数は平年並みであった。

付表1) 誘殺状況 (フェロモントラップ)

(県予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャハマキ		チャノコカクモンハマキ		ナシヒメシンクイ		モモハモグリガ		コスカシバ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4・1	6	1.2	1	1.4	39	23.6	1	3.2	0	0.0
2	15	2.7	0	2.8	21	22.9	0	5.3	0	0.0
3	19	3.3	1	2.1	9	15.8	0	2.8	0	0.0
4	8	2.7	6	9.6	13	18.1	0	2.4	0	0.1
5	32	2.5	68	12.0	25	8.3	0	1.4	0	0.1
6	7	0.8	39	24.8	7	8.5	0	2.7	1	0.5
5・1	7	2.4	39	31.2	7	15.2	0	3.1	0	0.7
2	1	1.9	33	31.6	4	14.5	0	5.4	0	2.2
3	1	3.4	41	20.0	0	2.6	3	7.1	0	1.1
4	8	1.0	27	9.9	3	3.3	0	71.1	0	2.0
5	3	1.1	8	2.2	24	4.4	1	9.2	8	2.3
6	4	0.8	2	0.9	31	16.6	0	7.7	4	1.5
6・1	0	0.4	0	3.7	30	25.1	0	4.2	1	2.6
2	2	0.3	5	1.8	4	17.6	0	3.2	3	3.2
3	1	0.3	12	4.9	17	15.3	1	11.4	2	2.5
4	1	0.6	12	5.3	16	11.3	1	20.6	2	1.7
5	0	0.4	15	11.0	19	10.0	2	12.2	11	2.3
6	0	1.1	3	8.7	15	10.5	0	7.3	1	1.7
7・1	0	1.0	14	11.1	11	21.7	1	5.3	1	1.5
2	1	1.5	10	7.5	13	15.3	1	15.3	1	1.8
3	2	0.4	7	3.4	11	20.4	0	34.1	1	0.9
4	1	0.3	1	1.8	18	17.2	5	12.7	1	1.7
5	0	0.4	6	2.4	10	22.1	1	13.9	4	1.6
6	2	0.4	12	4.7	4	34.2	0	35.9	6	1.5
8・1	0	0.1	3	5.2	16	35.2	0	48.0	2	1.1
2	1	0.3	1	3.3	13	27.3	0	36.7	4	2.5
3	0	0.6	3	3.5	25	25.8	0	34.6	1	2.4
4	0	0.3	2	2.9	31	28.7	0	9.3	0	1.9
5	0	0.3	0	1.6	24	30.9	0	9.2	0	3.0
6	0	0.7	0	1.4	24	30.1	0	14.0	0	2.8
9・1	0	0.7	3	1.2	14	20.3	0	15.1	1	2.8
2	3	1.1	4	1.4	29	17.8	0	14.1	2	2.6
3	1	0.8	3	3.6	18	11.4	0	25.4	4	4.1
4	0	0.9	4	5.8	11	10.2	1	56.4	4	6.1
5	2	1.0	10	9.3	15	6.3	1	24.9	7	9.9
6	2	1.1	12	12.2	0	4.1	0	8.3	6	6.8
10・1	1	0.9	14	11.7	0	1.8	2	5.1	8	4.0
2	2	1.9	9	8.5	3	1.4	1	4.2	2	3.5
3	9	2.6	22	8.4	2	0.4	4	2.0	0	1.3
4	6	1.6	15	6.4	0	0.4	2	0.7	1	0.3
5	5	1.8	10	4.7	0	0.1	1	0.1	0	0.5
6	5	0.9	7	3.8	0	0.0	0	0.3	0	0.0
合計	158	48.5	484	309.7	576	626.6	29	606.3	89	89.1

注) 平年値は平成21～30年の誘殺数から求めた。
ただし、ナシヒメシンクイとモモハモグリガについては、平成25年は調査未実施のため平年値は平成21～24年、26～30年の誘殺数から求めた。

4) ウ メ

(1) 生育状況 (県予察ほ場：みなべ町東本庄)

品種	開花期			発芽期	収穫期*		
	始期	最盛期	終期		始期	最盛期	終期
南高	2/5	2/18	3/1	3/20	6/10	6/13	6/17

*収穫期は青ウメでの時期

(2) 黒星病

a) 果実発病調査 (県予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日			
	5月7日	5月23日	5月31日	6月13日
発病果率%	5.4	16.6	37.2	74.1
発病度	0.9	7.2	17.5	43.9

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

概要：果実での初発は5月上旬で、6月にかけて増加し、6月13日には多発生となった。

b) 新梢発病調査 (県予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日		
	6月20日	7月19日	8月16日
発病新梢率%	28.8	34.0	26.8

注) 品種：南高 5樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

概要：新梢での発病は6月中旬から認められた。その後、新たな発病はほとんど認められなかった。

(3) かいよう病

a) 果実発病調査 (県予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日			
	5月7日	5月23日	5月31日	6月13日
発病果率%	1.6	0.0	0.8	3.0
発病度	0.3	0.0	0.6	0.6

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

概要：果実での初発は5月上旬で、少発生であった。その後、新たな発病はほとんど認められなかった。2年生枝の潜伏越冬病斑形成枝率は0.4%であった。

b) 新梢発病調査 (県予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日		
	6月20日	7月19日	8月16日
発病新梢率%	3.2	8.0	18.0

注) 品種：南高 5樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

概要：新梢での発病は6月中旬から認められ、その後、8月中旬にかけて増加した。

(4) すず斑病

a) 果実発病調査 (県予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日
	6月14日
発病果率%	43.8
発病度	13.2

注) 品種：南高 5樹、1樹あたり全着果数を調査(無防除)

概要：果実での初発は6月中旬で中発生であった。

(5) ハダニ類

a) 発生状況調査 (県予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査月日	100葉あたり 雌成虫数	調査月日	100葉あたり 雌成虫数
4. 5	0	8. 3	0
11	0	5	0
15	0	9	0
21	0	14	0
24	0	20	0
5. 1	0	26	0
7	0	9. 2	0
10	0	6	0
15	0	11	0
20	0	17	0
24	0	24	20
30	0	30	0
6. 5	0		
10	0		
14	0		
20	0		
27	0		
7. 1	0		
5	2		
10	0		
16	0		
22	0		
26	0		
31	6		

注) 品種：南高 2樹平均 無防除

概要：7月第1半旬、第6半旬および9月第5半旬に発生を確認した。

(6) 果樹カメムシ類

a) 誘殺状況調査 (予察灯：100W水銀灯) (県予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	チャバネア カメムシ	ツヤア カメムシ	クサギ カメムシ	前記3種の 合計
4. 1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	1	0	1
5	120	289	2	411
6	17	83	0	100
5. 1	21	22	0	43
2	8	7	0	15
3	35	200	0	235
4	16	169	0	185
5	83	162	2	247
6	16	61	1	78
6. 1	53	144	1	198
2	10	55	0	65
3	7	52	1	60
4	23	90	1	114
5	22	32	2	56
6	84	83	2	169
7. 1	75	43	10	128
2	31	18	2	51
3	27	16	7	50
4	27	13	6	46
5	19	3	7	29
6	5	2	4	11
8. 1	14	6	4	24
2	32	23	6	61
3	48	33	8	89
4	488	123	43	654
5	344	71	7	422
6	600	81	23	704
9. 1	506	94	14	614
2	375	370	10	755
3	135	158	5	298
4	63	219	0	282
5	23	182	2	207
6	73	558	2	633
10. 1	23	344	0	367
2	3	209	0	212
3	2	46	0	48
4	9	1561	0	1570
5	0	164	0	164
6	0	6	0	6
11. 1	0	1	0	1

概要：チャバネアオカメムシは4月第5半旬から10月第4半旬まで誘殺され、8月第4半旬から9月第3半旬の誘殺数が特に多かった。

ツヤアオカメムシは4月第4半旬から11月第1半旬まで誘殺され、4月第5半旬から6月第1半旬および9月第2半旬から10月第5半旬の誘殺数が特に多かった。

(7) ウメシロカイガラムシ

a) 歩行幼虫発生状況調査 (両面テープトラップ) (県予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日	調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日	調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日
4. 1	0	6. 4	0	9. 1	5.2
2	0.0	5	0	2	1.8
3	0.1	6	0.1	3	0.9
4	0.9	7. 1	9.1	4	0.4
5	0.4	2	6.5	5	0.1
6	10.1	3	0.8	6	0.1
5. 1	5.0	4	0	10. 1	0.5
2	0.1	5	0	2	0.0
3	0.9	6	0	3	0.0
4	0	8. 1	0.1	4	0.0
5	0	2	0	5	0
6	0	3	0.0	6	0.2
6. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	2.6		

注) 5トラップ平均、1半旬に1頭のみ捕獲された場合は0.0と記載。

概要：第1世代は4月第2半旬から5月第3半旬まで、第2世代は6月第6半旬から7月第3半旬まで、第3世代の発生は8月第1半旬から10月第6半旬までみられた。

(8) アメリカシロヒトリ

a) 雄成虫誘殺状況調査 (フェロモントラップ) (県予察ほ場：みなべ町西本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ
4. 1	0	6. 4	0	9. 1	0
2	0	5	0	2	0
3	0	6	0	3	0
4	0	7. 1	0	4	0
5	0	2	0	5	0
6	0	3	0	6	0
5. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	0		
4	0	8. 1	0		
5	0	2	0		
6	0	3	0		
6. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	0		

概要：発生は認められなかった。

2.巡回調査結果

1) カンキツ

(1) 6月調査

(13~14日)

2019年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		灰色かび病	かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類	
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発生果率(%)	寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生果率(%)	虫数(頭/100果)	寄生枝率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)	
ウンシュウミカン	下津	8	0.0	0.0	1.7	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	8.8	13.3	0.0	0.0	13.1	0.0	0.0	0.1	0.0	
	有田	12	0.0	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.9	44.7	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	日高	8	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	55.4	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	西牟婁	6	0.0	0.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.4	148.9	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	平均	34	0.0	0.0	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	18.6	58.2	0.0	0.0	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			0.0		14.7		0.0	0.0		8.8		0.0	47.1		0.0	32.4		0.0	2.9		0.0	
八朔	平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			0.0		0.0		0.0	0.0		83.3		0.0	0.0		0.0	16.7		0.0	0.0		0.0	
夏橙	平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.6	0.0	13.9	73.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			0.0		0.0		0.0	0.0		66.7		0.0	33.3		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	
ネーブル	平均	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.2	2.3	0.0	4.4	24.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			0.0		0.0		0.0	0.0		100.0		0.0	33.3		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	
伊予柑	平均	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.1	0.9	0.1	0.0	11.7	23.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			0.0		0.0		0.0	25.0		50.0		0.0	50.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	
清見	平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	10.6	13.9	0.0	0.0	18.6	0.0	0.0	0.3	0.3	
発生ほ場率(%)			0.0		0.0		0.0	0.0		16.7		0.0	33.3		0.0	50.0		0.0	16.7		16.7	
不知火	平均	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	
発生ほ場率(%)			0.0		0.0		0.0	0.0		0.0		0.0	20.0		0.0	0.0		0.0	20.0		20.0	
中晩柑	平均	30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	2.7	0.7	0.0	7.2	23.4	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.1	0.1	
発生ほ場率(%)			0.0		0.0		0.0	3.3		50.0		0.0	26.7		0.0	13.3		0.0	6.7		6.7	
カンキツ総平均	平均	64	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.1	0.01	1.3	0.3	0.0	13.3	41.9	0.0	0.0	6.8	0.0	0.0	0.1	0.0	
発生ほ場率(%)			0.0		7.8		0.0	1.6		28.1		0.0	37.5		0.0	23.4		0.0	4.7		3.1	

(2) 7月調査
(11~12日)

2019年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類	
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発生果率(%)	寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生果率(%)	虫数(頭/100果)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)	
ウンシュウミカン	下津	8	1.3	0.2	0.8	0.2	0.0	0.0	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.3	0.0	1.1	0.2	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	0.0	0.0	1.7	1.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	11.1	1.9	3.9	1.2	2.2	0.3	0.8	0.2	0.0	3.3	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	2.4	0.4	1.7	0.5	0.4	0.1	0.5	0.1	0.0	0.9	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		20.6		20.6		5.9		29.4		0.0	5.9		0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	
八朔	平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	10.6	3.1	4.9	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	
	発生ほ場率(%)		0.0		0.0		83.3		100.0		0.0	0.0		0.0		16.7	0.0		0.0	
夏橙	平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.2	6.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.3	0.0	
	発生ほ場率(%)		0.0		0.0		16.7		66.7		0.0	0.0		0.0		16.7	16.7		0.0	
ネーブル	平均	3	3.3	0.5	0.0	0.0	5.6	1.4	8.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	発生ほ場率(%)		33.3		0.0		33.3		66.7		0.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	
伊予柑	平均	4	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	1.4	0.5	0.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	発生ほ場率(%)		0.0		0.0		50.0		25.0		25.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	
清見	平均	6	2.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	
	発生ほ場率(%)		33.3		0.0		0.0		16.7		0.0	0.0		0.0		33.3	0.0		0.0	
不知火	平均	5	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	発生ほ場率(%)		20.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	
中晩柑	平均	30	1.0	0.1	0.0	0.0	3.8	1.0	3.1	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.1	0.0	
	発生ほ場率(%)		13.3		0.0		30.0		46.7		3.3	0.0		0.0		13.3	3.3		0.0	
カンキツ総平均	平均	64	1.7	0.3	0.9	0.3	2.0	0.5	1.7	0.4	0.1	0.5	0.7	0.0	0.0	0.3	0.0	0.03	0.0	
	発生ほ場率(%)		17.2		10.9		17.2		37.5		1.6	3.1		0.0		6.3	1.6		0.0	

(3)8月調査
(19~20日)

2019年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類	
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発生果率(%)	寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生果率(%)	虫数(頭/100果)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)	
ウンシュウミカン	下津	8	14.6	3.2	0.0	0.0	2.5	0.4	1.5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	0.8	0.1	1.3	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	30.6	4.8	2.8	1.5	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	9.0	1.6	0.8	0.4	0.6	0.1	0.5	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			26.5		11.8		14.7		26.5		0.0	2.9		0.0		0.0	0.0		0.0	
八朔 平均		6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	1.3	5.4	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			0.0		0.0		66.7		100.0		0.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	
夏橙 平均		6	16.7	5.2	0.0	0.0	12.2	3.7	7.3	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	
発生ほ場率(%)			16.7		0.0		83.3		83.3		0.0	0.0		0.0		0.0	16.7		0.0	
ネーブル 平均		3	24.4	3.5	0.0	0.0	16.7	3.7	8.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			100.0		0.0		66.7		66.7		0.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	
伊予柑 平均		4	3.3	0.5	0.0	0.0	3.3	1.2	0.9	0.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			25.0		0.0		50.0		50.0		25.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	
清見 平均		6	10.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			16.7		0.0		0.0		33.3		0.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	
不知火 平均		5	10.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			20.0		0.0		0.0		20.0		0.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	
中晩柑 平均		30	9.9	2.1	0.0	0.0	5.6	1.5	3.5	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			23.3		0.0		43.3		60.0		3.3	0.0		0.0		0.0	3.3		0.0	
カンキツ総平均		64	9.4	1.9	0.4	0.2	2.9	0.8	1.9	0.4	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)			25.0		6.3		28.1		42.2		1.6	1.6		0.0		0.0	1.6		0.0	

(4)10月調査 病害
(15~16日)

2019年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		かいよう病				褐色腐敗病	緑かび病	こはん症
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発生果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	25.4	5.8	0.0	0.0	3.3	1.0	0.3	0.0	0.0	0.4	0.0
	有田	12	5.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	27.9	4.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	37.8	7.1	1.7	0.9	1.1	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	21.0	3.8	0.3	0.2	1.1	0.3	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0
発生ほ場率(%)			55.9		5.9		17.6		17.6		0.0	2.9	0.0
八朔	平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	1.6	1.4	0.3	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			0.0		0.0		66.7		66.7		0.0	0.0	0.0
夏橙	平均	6	15.0	5.6	0.0	0.0	12.8	3.7	2.6	0.4	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			33.3		0.0		83.3		83.3		0.0	0.0	0.0
ネーブル	平均	3	22.2	4.8	0.0	0.0	25.6	6.8	2.7	0.4	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			66.7		0.0		66.7		100.0		0.0	0.0	0.0
伊予柑	平均	4	4.2	0.6	0.0	0.0	2.5	0.8	0.3	0.0	0.0	0.0	24.8
発生ほ場率(%)			25.0		0.0		75.0		25.0		0.0	0.0	100.0
清見	平均	6	7.8	2.7	0.0	0.0	2.2	1.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			33.3		0.0		50.0		33.3		0.0	0.0	0.0
不知火	平均	5	4.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.7	0.0
発生ほ場率(%)			20.0		0.0		0.0		20.0		0.0	20.0	0.0
中晩柑	平均	30	8.0	2.3	0.0	0.0	6.6	2.1	1.2	0.2	0.0	0.1	3.3
発生ほ場率(%)			26.7		0.0		56.7		53.3		0.0	3.3	13.3
カンキツ総平均	平均	64	14.9	3.1	0.2	0.1	3.6	1.1	0.7	0.1	0.0	0.1	1.5
発生ほ場率(%)			42.2		3.1		35.9		34.4		0.0	3.1	6.3

(4)10月調査 虫害
(15~16日)

2019年

品種	地区	調査ほ場数	ミカンハダニ			チャノキイロ アザミウマ				ハナムグリ類	ヤノネカイガラムシ	ヤガ	コナカイガラムシ	ゴマダラ カミキリ		ナメクジ類					
			寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	春葉被害度	果頂部		果梗部						被害果率(%)	被害果率(%)		被害果率(%)	寄生率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
						被害果率(%)	被害度	被害果率(%)	被害度												
ウンシュウ ミカン	下津	8	0.0	0.0	83.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	有田	12	0.0	0.0	56.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	日高	8	3.3	4.6	62.3	1.3	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	西牟婁	6	2.8	6.1	66.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0					
	平均	34	1.3	2.2	66.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			14.7			2.9		0.0		0.0	8.8	2.9	0.0	0.0		0.0					
八朔	平均	6	0.0	0.0	18.1	1.7	0.3	2.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			0.0			16.7		16.7		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
夏橙	平均	6	0.0	0.0	66.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
発生ほ場率(%)			0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
ネーブル	平均	3	0.0	0.0	62.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
発生ほ場率(%)			0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
伊予柑	平均	4	0.8	0.8	66.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
発生ほ場率(%)			25.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
清見	平均	6	0.0	0.0	35.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
発生ほ場率(%)			0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
不知火	平均	5	0.0	0.0	15.1	2.7	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
発生ほ場率(%)			0.0			40.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
中晩柑	平均	30	0.1	0.1	41.7	0.8	0.1	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
発生ほ場率(%)			3.3			10.0		3.3		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
カンキツ総平均	平均	64	0.7	1.2	54.6	0.5	0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0						
発生ほ場率(%)			9.4			6.3		1.6		0.0	4.7	1.6	0.0	0.0		0.0					

2) カキ

(1) 5月調査 (13, 15日)

調査品種：富有

2019年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 新梢率	うどんこ病		灰色かび病 発病 新梢率	フジコナ カイガラムシ 寄生 花蕾率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	マイマイガ 被害 葉率	カンザワ ハダニ 被害 葉率
	園No.	字名		発病 葉率	発病 度					
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	1.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	3.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	9	丁ノ町	0.0	5.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
	10	西飯降	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東浜田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	17.0	1.7	0.0	2.0	0.0	1.0	3.0
	13	切畑	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	大角	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
平均			0.0	1.6	0.2	1.2	0.4	0.0	0.1	0.8
発生園数			0	5		4	2	0	2	6
発生園率(%)			0.0	29.4		23.5	11.8	0.0	11.8	35.3

100葉、50果、50新梢調査

調査品種：刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	うどんこ病		灰色かび病 発病 新梢率	フジコナ カイガラムシ 寄生 花蕾率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	チャノキイ ロアザミウ マ 被害 果率	マイマイガ 被害 葉率	カンザワ ハダニ	
	園No.	字名		発病 葉率	発病 度						被害 葉率	被害 花蕾率
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	1.0	0.1	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	2.0	0.2	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	1.0	0.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西浜田	刀根早生	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	2.0	0.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.4	0.0	1.5	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
発生園数				4		7	0	2	0	0	0	0
発生園率(%)				23.5		41.2	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

(2) 6月調査 (13,17日)

調査品種: 富有

2019年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		灰色かび病		カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	さび果症 被害 果率
	園No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 果率	発病 葉率					
橋本市	1	柏原	0.0	5.0	0.5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	1.0	0.1	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	9.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	1.0	0.1	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	3.0	0.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	7.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	4.0	0.4	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	2.0	0.2	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	7.0	0.9	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	大角	0.0	8.0	1.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	2.9	0.3	2.6	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0
発生園数			0	12		13	0	2	1	0	0	0
発生園率(%)			0.0	70.6		76.5	0.0	11.8	5.9	0.0	0.0	0.0

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	炭疽病 発病 果率	うどんこ病		灰色かび病		フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	チャノキイロ アザミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率
	園No.	字名			発病 葉率	発病 度	発病 果率	発病 葉率					
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	4.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	1.0	0.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	0.1	0.0	1.9	0.0	0.0	0.5	0.0	0.1	0.2
発生園数				0	2		9	0	0	2	0	1	1
発生園率(%)				0.0	11.8		52.9	0.0	0.0	11.8	0.0	5.9	5.9

100葉、50果調査

(3) 7月調査 (12, 17日)

調査品種: 富有

2019年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ類 被害 果率
	園No.	字名		発病 葉率	発病 度								
橋本市	1	柏原	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	32.0	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	10.0	1.0	0.0	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	6.0	0.0
	10	西飯降	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東渋田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	14.0	1.9	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	11.0	1.8	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	17	大角	0.0	17.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	5.5	0.7	0.0	0.0	1.1	1.2	0.1	0.0	0.6	0.0
発生園数			0	11		0	0	5	9	1	0	3	0
発生園率(%)			0.0	64.7		0.0	0.0	29.4	52.9	5.9	0.0	17.6	0.0

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウ マ 被害 果率	チャノキ イロアザ ミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率	カメムシ類 被害 果率
	園No.	字名		品種	発病 葉率							
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	4.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西渋田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.6	0.2
発生園数				0	2		0	0	2	0	3	1
発生園率(%)				0.0	11.8		0.0	0.0	11.8	0.0	17.6	5.9

100葉、50果調査

(4) 8月調査 (14, 16日)

調査品種: 富有

2019年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率
	園No.	字名		発病 葉率	発病 度									
橋本市	1	柏原	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	4	山田	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
	7	入郷	0.0	20.0	2.2	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	12.0	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	4.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0	4.0	2.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	2.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	17.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	0.0	2.0	0.0
	13	切畑	0.0	33.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	4.0
	17	大角	10.0	27.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.6	6.7	0.9	0.0	0.0	2.1	0.0	1.9	1.4	0.5	1.2	0.4
発生園数			1	13		0	0	7	0	6	8	2	7	2
発生園率(%)			5.9	76.5		0.0	0.0	41.2	0.0	35.3	47.1	11.8	41.2	11.8

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	チャノキ イロアザ ミウマ 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率
	園No.	字名		品種	発病 葉率								
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	6.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	4.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	4.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.1	0.4	0.0	0.0	1.8	0.2	0.2	0.0	1.2	0.1
発生園数				1	2		0	0	6	1	2	0	3
発生園率(%)				5.9	11.8		0.0	0.0	35.3	5.9	11.8	0.0	17.6

100葉、50果調査

(5) 9月調査 (18, 19日)

調査品種: 富有

2019年

市町村	調査場所		炭疽病 発病率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメムシ類 被害 果率	ハスモン ヨトウ 被害 果率
	園No.	字名		発病率	発病率	発病率	発病率	発病率	発病率						
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	1.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	12.0	0.0	2.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	2.0	13.0	1.7	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	15.0	2.3	18.0	5.8	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	9.0	1.3	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	6.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	4.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	2.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	32.0	9.1	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	45.0	11.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	4.0	24.0	6.0	0.0	1.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	17	大角	8.0	31.0	7.6	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	2.0	0.0	0.0
平均			0.9	9.1	2.0	1.2	0.4	0.1	0.0	6.1	0.4	6.1	1.1	0.1	0.1
発生園数			3	9		3		2		9	2	11	7	1	2
発生園率(%)			17.6	52.9		17.6		11.8		52.9	11.8	64.7	41.2	5.9	11.8

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメムシ類 被害 果率	ハスモン ヨトウ 被害 果率
	園No.	字名		品種	発病率	発病率	発病率	発病率	発病率						
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.3	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	26.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	4.0	4.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	9.0	1.7	2.0	0.5	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	22.0	6.5	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	18.0	4.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.2	2.1	0.5	0.1	0.0	0.1	0.0	7.8	0.1	1.4	0.7	0.0
発生園数				1	4		1		1		11	1	4	5	0
発生園率(%)				5.9	23.5		5.9		5.9		64.7	5.9	23.5	29.4	0.0

100葉、50果調査

(6) 10月調査 (16, 17日)
調査品種: 富有

2019年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナカ イガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメモシ類 被害 果率
	園No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度					
橋本市	1	柏原	0.0	2.0	0.2	4.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	2.0	1.0	0.1	1.0	0.2	3.0	0.5	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	2.0	0.0	0.0	1.0	0.2	8.0	1.3	6.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	7.0	1.2	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	5	大野	0.0	2.0	0.2	1.0	0.2	2.0	0.3	22.0	0.0	4.0	0.0	24.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	4.0	24.0	8.0	7.0	1.2	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	2.0	21.0	9.0	31.0	12.5	17.0	3.5	20.0	0.0	4.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	5.0	0.5	2.0	0.3	1.0	0.2	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	10	西飯降	12.0	25.0	9.1	12.0	2.2	13.0	2.8	12.0	0.0	4.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	2.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	51.0	23.6	40.0	8.3	0.0	0.0	2.0	0.0	6.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	59.0	29.2	2.0	0.3	0.0	0.0	2.0	0.0	12.0	0.0	0.0
	14	調月	4.0	3.0	0.8	29.0	4.8	6.0	1.0	4.0	0.0	12.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	4.0	3.0	0.3	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	8.0	3.0	0.3	10.0	1.8	20.0	6.2	6.0	0.0	0.0	4.0	2.0
	17	大角	22.0	53.0	22.2	5.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
平均			3.5	14.9	6.1	9.0	2.0	4.1	0.9	5.5	0.0	3.5	0.5	2.1
発生園数			9	14		15		8		11	0	8	3	4
発生園率(%)			52.9	82.4		88.2		47.1		64.7	0.0	47.1	17.6	23.5

100葉、50果調査

3) モモ

(1)4月調査(9,17日)

2019年

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病 発病 枝率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率
	園No.	字名						
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	3	嶋	白鳳	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	白鳳	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	清水白桃	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	9.0	0.0	0.0	0.0	1.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0
平均				2.9	0.0	0.0	0.0	1.8
発生園数				5	0	0	0	3
発生園率(%)				50.0	0.0	0.0	0.0	30.0

100葉叢、100結果枝 調査

(2)5月調査(13,15日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病 発病 葉率	うどんこ病 発病 果率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ハダニ類 寄生 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率	コスカシバ 被害 箇所数
	園No.	字名									
紀の川市	1	杉原	白鳳	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0
	2	遠方	日川白鳳	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	3	嶋	白鳳	3.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0
	4	長田中	白鳳	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	5	元	白鳳	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	6	市場	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0
	7	段	清水白桃	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	8	段新田	清水白桃	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	10	東洪田	白鳳	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
平均				4.5	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
発生園数				9	0	0	0	3	0	0	0
発生園率(%)				90.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢 コスカシバ:10樹、樹高1m以下調査

(3)6月調査(13,17日)

2019年

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	園No.	字名		発病葉率	発病果率						
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	2	遠方	日川白鳳	3.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	3.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	4	長田中	白鳳	3.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	5	元	白鳳	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	3.0	6.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	清水白桃	7.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	15.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	11.0	-	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	-
	10	東浜田	白鳳	8.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
平均				5.3	6.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
発生園数				8	4	0	0	3	0	0	0
発生園率(%)				80.0	80.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は有袋のため未調査

(4)7月調査(12,17日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		灰星病発病果率	モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	園No.	字名		発病葉率	発病果率							
紀の川市	1	杉原	白鳳	4.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0
	2	遠方	日川白鳳	3.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	3	嶋	白鳳	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	4	長田中	白鳳	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	5	元	白鳳	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	6	市場	清水白桃	9.0	6.0	0.0	0.0	1.0	14.0	0.0	0.0	0
	7	段	清水白桃	7.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0
	8	段新田	清水白桃	34.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	15.0	-	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0
	10	東浜田	白鳳	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0
平均				12.1	2.9	0.0	0.0	0.2	2.6	0.6	0.0	0.0
発生園数				10	3	0	0	2	4	1	0	0
発生園率(%)				100.0	37.5	0.0	0.0	20.0	40.0	10.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は果実無し

(5)8月調査(14日)

2019年

市町村	調査場所		品種	せん孔 細菌病 発病 葉率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ハダニ類 寄生 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ 類 寄生 枝率
	園No.	字名							
紀の川市	1	杉原	白鳳	10.0	0.0	0.0	22.0	4.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	8.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	24.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	31.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	5	元	白鳳	4.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	24.0	0.0	0.0	42.0	0.0	0.0
	7	段	清水白桃	37.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	50.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	23.0	0.0	0.0	28.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	30.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0
平均				24.1	0.0	0.0	18.8	0.4	0.0
発生園数				10	0	0	10	1	0
発生園率(%)				100.0	0.0	0.0	100.0	10.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

4) ウメ

(1) 4月調査(4月10、11日)

調査品種：南高

2019年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		すす斑病	アブラムシ類	ウメノ カガラムシ
	園No.	字名	発病 枝率	病斑数 ／発病枝	発病 枝率	病斑数 ／発病枝	発病 枝率	被害 新梢率	寄生 枝率
みなべ町	1	東岩代1	1.0	1.0	8.0	3.0	14.0	0.0	22.0
	2	東岩代2	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	24.0
	3	東岩代3	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	3.0	24.0
	4	東本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0	0.0	14.0
	5	東本庄2	0.0	0.0	2.0	1.0	34.0	0.0	28.0
	6	東本庄3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	27.0	4.0
	7	西本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	48.0	0.0	28.0
	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	30.0
	9	井戸が谷1	0.0	0.0	0.0	0.0	46.0	0.0	28.0
	10	井戸が谷2	0.0	0.0	6.0	2.7	8.0	0.0	24.0
	11	埴田1	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0	0.0	32.0
	12	埴田2	0.0	0.0	6.0	3.7	24.0	0.0	2.0
	13	晩稲1	0.0	0.0	0.0	0.0	32.0	1.0	0.0
	14	晩稲2	0.0	0.0	0.0	0.0	36.0	2.0	14.0
	15	晩稲3	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	5.0	2.0
	16	晩稲4	0.0	0.0	2.0	1.0	76.0	0.0	2.0
	17	岩代P1	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	12.0
	18	岩代P2	2.0	1.0	0.0	0.0	12.0	5.0	20.0
	19	高城1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0
	20	高城2	0.0	0.0	0.0	0.0	32.0	0.0	8.0
	21	清川1	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	0.0	20.0
	22	清川2	0.0	0.0	0.0	0.0	44.0	0.0	2.0
田辺市	1	下三栖1	0.0	0.0	0.0	0.0	98.0	0.0	10.0
	2	下三栖2	0.0	0.0	0.0	0.0	46.0	0.0	6.0
	3	上秋津1	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	4.0
	4	上秋津2	6.0	7.7	0.0	0.0	46.0	0.0	24.0
	5	団栗	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	4.0
	6	中芳養	0.0	0.0	0.0	0.0	48.0	0.0	32.0
	7	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	24.0
	8	秋津川1	4.0	2.5	0.0	0.0	32.0	0.0	0.0
	9	秋津川2	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	0.0	8.0
	10	秋津川3	2.0	1.0	0.0	0.0	74.0	0.0	6.0
	11	上芳養1	0.0	0.0	0.0	0.0	74.0	0.0	6.0
	12	上芳養2	0.0	0.0	0.0	0.0	46.0	0.0	10.0
	平均		0.4	0.4	0.7	0.3	43.8	1.3	13.9
	発生園数		5		5		34	6	31
	発生園率(%)		14.7		14.7		100.0	17.6	91.2

(2) 6月調査(5月27、28、29日)

調査品種: 南高

2019年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		うどんこ病	灰色かび病	すす斑病	ウミノカガラムシ	ハダニ類		コスカハバ	アブラムシ類
	園No.	字名	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病果率	発病枝率	寄生枝率	被害葉率	虫数/100葉	被害カ所数/5樹	被害新梢率
みなべ町	1	東岩代1	1.0	1.0	1.0	0.2	3.0	10.0	46.0	4.0	6.0	0.0	0.0	0.0
	2	東岩代2	0.0	0.0	3.0	0.5	3.0	11.0	26.0	12.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	3	東岩代3	0.0	0.0	4.0	1.0	0.0	10.0	58.0	4.0	11.0	1.0	0.0	0.0
	4	東本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	28.0	2.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	5	東本庄2	0.0	0.0	2.0	0.3	1.0	10.0	20.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	6	東本庄3	0.0	0.0	3.0	1.0	0.0	1.0	18.0	6.0	5.0	0.0	0.0	23.0
	7	西本庄1	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	17.0	34.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0
	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	17.0	30.0	8.0	2.0	1.0	0.0	0.0
	9	井戸が谷1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	58.0	6.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	10	井戸が谷2	0.0	0.0	1.0	0.2	1.0	4.0	24.0	2.0	4.0	0.0	0.0	15.0
	11	埴田1	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	2.0	48.0	10.0	7.0	5.0	0.0	0.0
	12	埴田2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	44.0	4.0	5.0	5.0	0.0	0.0
	13	晩稲1	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	3.0	46.0	2.0	5.0	0.0	0.0	8.0
	14	晩稲2	0.0	0.0	1.0	0.2	1.0	3.0	52.0	0.0	5.0	1.0	0.0	0.0
	15	晩稲3	5.0	1.3	4.0	1.3	0.0	2.0	50.0	0.0	13.0	0.0	0.0	23.0
	16	晩稲4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	36.0	4.0	9.0	37.0	0.0	0.0
	17	岩代P1	0.0	0.0	4.0	1.0	0.0	13.0	16.0	2.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	18	岩代P2	1.0	0.3	7.0	1.2	1.0	20.0	36.0	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	19	高城1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	8.0	14.0	6.0	7.0	1.0	0.0	3.0
	20	高城2	1.0	0.7	3.0	1.0	0.0	5.0	50.0	0.0	6.0	6.0	0.0	0.0
	21	清川1	0.0	0.0	1.0	0.2	5.0	5.0	72.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	22	清川2	0.0	0.0	1.0	0.2	6.0	7.0	42.0	6.0	1.0	1.0	1.0	0.0
田辺市	1	下三栖1	0.0	0.0	1.0	0.2	5.0	1.0	68.0	2.0	12.0	3.0	2.0	0.0
	2	下三栖2	2.0	0.3	1.0	0.2	8.0	3.0	46.0	2.0	17.0	59.0	1.0	11.0
	3	上秋津1	0.0	0.0	3.0	0.5	5.0	4.0	66.0	0.0	22.0	111.0	0.0	2.0
	4	上秋津2	0.0	0.0	2.0	0.3	4.0	4.0	42.0	6.0	11.0	27.0	6.0	0.0
	5	団栗	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	16.0	70.0	4.0	14.0	0.0	1.0	0.0
	6	中芳養	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	4.0	40.0	4.0	7.0	2.0	2.0	0.0
	7	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	66.0	22.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	8	秋津川1	1.0	0.7	1.0	0.2	0.0	2.0	58.0	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0
	9	秋津川2	4.0	2.2	1.0	0.2	0.0	4.0	8.0	2.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	10	秋津川3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	8.0	36.0	0.0	3.0	1.0	3.0	18.0
	11	上芳養1	2.0	0.3	2.0	0.8	7.0	4.0	42.0	4.0	3.0	0.0	1.0	14.0
	12	上芳養2	0.0	0.0	1.0	0.2	2.0	8.0	40.0	0.0	15.0	14.0	2.0	19.0
	平均		0.5	0.23	1.5	0.3	2.09	0.4	42.1	4.6	6.4	8.2	0.6	4.9
	発生園数		9		24		21	34	34	27	31		9	12
	発生園率(%)		26.5		70.6		61.8	100.0	100.0	79.4	91.2	0.0	26.5	35.3